



人とともに 地域とともに  
国立大学法人  
島根大学

平成27年度採択 文部科学省  
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)

# 最終成果報告書

島根大学地域未来協創本部  
地域人材育成部門





本報告書は、平成27年度採択：文部科学省 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」（主幹校国立大学法人島根大学 以下「オールしまねCOC+事業」）の事業全体の成果の総括および、令和元年度事業の取組を報告するものである。

これまで刊行した報告書とは体裁を違え、第1部に令和元年度に実施した本事業の取組・成果を報告し、第2部に5年間の事業期間を俯瞰し、補助事業の成果全般に対して検証と総括を行う。

## 目 次

<b>第1部 令和元年度 事業成果報告</b> .....	<b>1</b>
令和元年度の取組・成果の概要 .....	1
第1章. 地域未来創造人材の育成 .....	7
第2章. しまね大交流会 .....	36
第3章. しまね協働教育パートナーシップ .....	51
第4章. しまねクリエイティブラボネットワーク .....	64
第5章. 地域情報アーカイブAgo-Lab .....	79
第6章. その他事業全般に係る事項 .....	82
<b>第2部 オールしまねCOC+事業 事業総括</b> .....	<b>91</b>
COC・COC+事業の成果の概要 .....	91
【1】事業概要と5年間の事業進化 .....	94
【2】事業KPIの進捗とロジック・モデルによる事業戦略・成果・効果の検証 .....	98
【3】今後の課題と補助期間終了後の事業継続について .....	115



# 第 1 部

## 令和元年度 事業成果報告



## 令和元年度の取組・成果の概要

本事業は、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とした文部科学省による大学改革推進事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」のうち、島根大学を幹事校として、島根県立大学・同短期大学部、松江工業高等専門学校、島根県の協働事業として平成27年度より実施しているものである。

事業は、図1-0-1の通り人材育成を核とした5つのプロジェクトからなる。

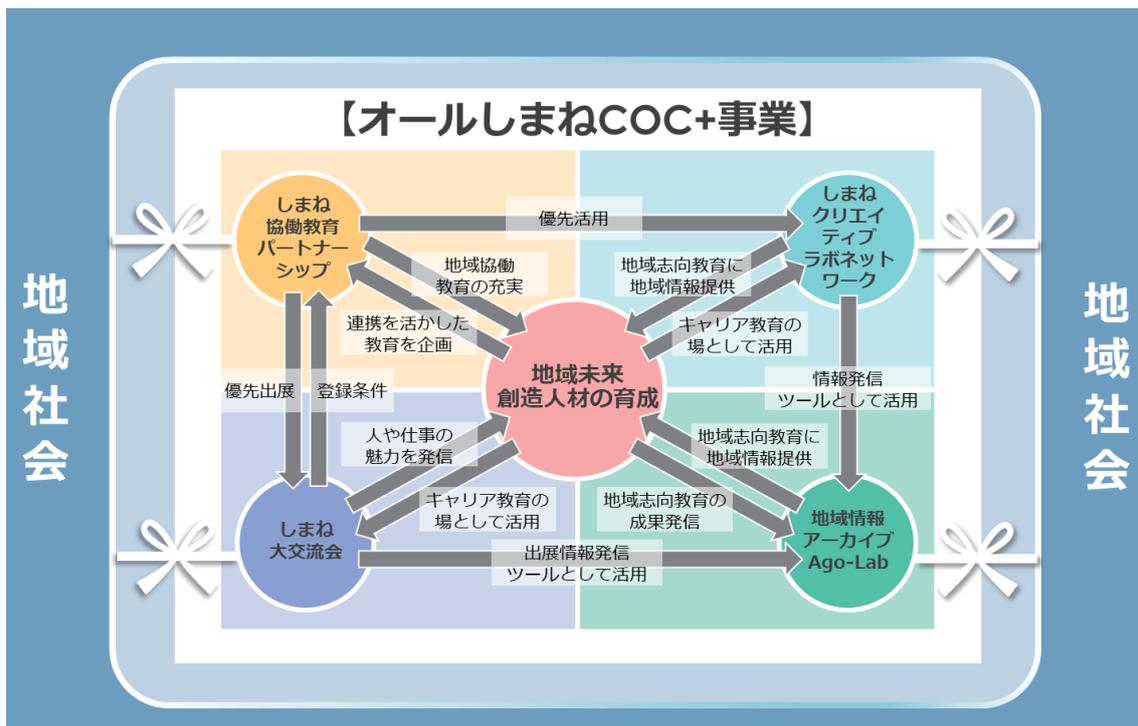


図1-0-1：事業を構成する5つのプロジェクトの相互関係図

この5つのプロジェクトそれぞれについて、令和元年度計画を作成して実行した。表1-0-1に各計画を示す。

表 1-0-1：令和元年度計画の骨子

<b>【1】 地域未来創造人材の育成</b>	
<p>各高等教育機関では、これまでCOC事業で強化してきた取組を継続して実施するとともに、それらを基盤としてCOC+事業で開始した取組をさらに加速する。また、学生が地域の産業や働く場・ひとを知るための多様な正課外の教育として、しまね協働教育パートナーシップを活用し、インターンシップフェアや、企業ツアー、キャリアデザインに関するセミナー、業界研究フェアや企業と学生の交流会等を、東部・西部のキャリアプランナーが企画に携わり、キャンパス間ネットワーク等を活用しながら島根県と協働して年間6回実施する。これに加え、「しまね大交流会」を地域志向型キャリア教育の起点に位置づけて活用する。また、高等学校を含めた教員等を対象とする企業ツアー等、学生の教育に携わる者同士の交流と相互理解を深める取組を島根県と共に実施する。</p>	
<b>【島根大学】</b>	<p>地域志向型初年次教育を全学必修で実施し、COC+事業で開発した授業科目「地域未来論」および「実例ビジネス開発論－社会構造の変化に対応する新しい価値の共創－」やCOC事業で構築した地域基盤型教育および地域課題解決型教育を行う約200の授業科目との円滑な連携を図ることで、入学直後から3・4年次の地域における中・長期インターンシップまで、全学年を通して地域をフィールドとした地域志向教育を体系的に実施する。また、地域未来創造人材を育成するための「キャリアデザインプログラム」を展開し、地域志向教育や、他の高等教育機関や島根県と連携して行う正課外の地域志向型キャリア教育、しまね大交流会などをプログラムの構成要素とするより実効性の高い地域志向型キャリア教育を全学的に実施する。特に、地域貢献人材育成入試を実施して選抜したCOC人材育成コース生においては、事業協働機関とともに地域事例に関する探求セミナーやフィールドワークを実施するほか、都市圏の大学生との共同演習型プログラム、プロジェクト型中長期地域インターンシップを新たに開発・実施する。</p>
<b>【島根県立大学・同短期大学部】</b>	<p>「しまね地域共生学入門」を始めとする地域志向教育科目の実施と「しまね地域マイスター」制度の拡充・効果的な運用を行う。</p>
<b>【松江工業高等専門学校】</b>	<p>地域志向教育科目「地域産業とエンジニア」「ふるさと産業学」の開講およびエンジニアリングデザイン演習やPBL手法を用いた創造演習等で課題解決能力の伸長を図る正課教育を実施する。</p>
<b>【2】 しまね大交流会</b>	
<p>第5回しまね大交流会を実施するために、COC+大学および連携校・事業協働機関の代表者からなる「しまね大交流会実行委員会」を年間7回開催し、出展者交流会の効果的なマッチング機能の創出等企画の改善を行い、参加者数を平成29年度比70%増とする。</p>	
<b>【3】 しまね協働教育パートナーシップ</b>	
<p>「オールしまねCOC+事業しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を年間3回開催し、同パートナーシップ登録団体の募集・認定を行い、最終目標である200団体の登録を確保し、地域との協働教育体制を強化する。また、同制度登録団体を対象にした研修会やワークショップ等を年3回開催し、地域協働で行う地域未来創造人材の育成理念と方針を共有する。加えて、登録団体と学生との接点を増やし、地域における協働教育に積極的な事業所として学生に周知する広報活動を行う。</p>	
<b>【4】 しまねクリエイティブラボネットワーク</b>	
<p>地域コミュニティラボでは、地域ステークホルダーと島根大学が協働で展示企画を行い、地域の魅力を学生に向けて発信する展示を年4回程度行う。技術コミュニティラボでは、高等教育機関に所属する主に若手研究者が先端の研究についての話題提供を行い、地域ステークホルダーの若手エンジニア・開発担当者らとディスカッションする双方向のミーティング型交流の場を年3回以上実施する。教育コミュニティラボでは、ものづくりを通じ課題解決に必要な創造性を伸長させる教育を行う授業「ものづくりと創造性」の開講および市民参加型のワークショップ等を年2回程度実施する。</p>	
<b>【5】 地域情報アーカイブ『Ago-Lab』</b>	
<p>事業協働地域の地域活動情報の蓄積や魅力発信を支援するとともに、地域志向型初年次教育科目を含む地域志向教育において地域情報を効果的に利用することで、相乗効果的に利用を拡大し、投稿アカウント登録数を平成30年度比300件増とする。加えて、利用者からのフィードバックをもとに、システム運用上の問題点を把握・改善する。</p>	

この年度計画の遂行にあたっては、当該年度の第1四半期に前年度の事業に対する総括・1次評価・2次評価を行い、事業協働機関とともに交付申請時の本年度計画を見直し、実務レベルでの改善を積み重ねた。計画実行中に明らかになった改善すべき点を、複数プロジェクトを活用することでその問題の解決を図るなど、これまでの成果や組織面での経験の蓄

積が事業全体に好影響を与える段階に至っている。具体的には、事業 KPI の一つでもある「県内インターンシップ人数」は、各年度の事業目標値をクリアしていたものの、平成 28 年度をピークにやや減少傾向が続いていた。これに対し、地域未来創造人材の育成・しまね大交流会・しまね協働教育パートナーシップの 3 つのプロジェクトを連動させ、産官学で問題解決にあたったことで、令和元年度は 533 名（令和 2 年 1 月末見込み数）と、平成 30 年度の実績値 440 名から 120% 増となった。最終的には直近 5 年間で県内インターンシップ者数が最も多くなった。

以下、5 つのプロジェクトの今年度の取組概要及びその成果の概要を報告する。詳細な報告は、7 ページ以降にプロジェクトごとに報告したので適宜参照いただきたい。

## 【1】地域未来創造人材の育成

各高等教育機関では、それぞれ特色ある地域未来創造人材の育成に取り組むとともに、各高等教育機関および島根県主催事業として、地域と協働した多彩な正課外教育を実施した。本年度は、汎用性が高く全学的に取り組むものから学部等が企画する専門性の高い内容まで、約 30 件の地域協働教育事業が実施され、延べ 1230 名（令和 2 年 2 月末現在）を超える学生がこれに参加した（しまね大交流会参加学生を除く人数）。

年間を通じ、授業だけでなく授業外における地域志向型キャリア教育を多数実施し、県の支援等を得ながら企業・自治体見学ツアーなど現地に赴く活動を、年度計画を超えて拡大して実施したことにより、学生が、地域の企業・自治体等の働く・暮らす魅力を実地で知ることができた。また、合同説明会形式での学生集客が難しくなっている中、各校で学生と企業（社会人）との対話・交流の場を数多く開催することにより、地域企業・団体への興味関心を高めることができた。

以下教育機関別に取組および成果の概要を報告する。

### 【島根大学】

地域志向科目として地域基盤型科目（ベースストーン科目：BS 科目）90 科目、地域課題解決型科目（キャップストーン科目：CS 科目）として 107 科目を開講し、BS 科目を延べ 5567 名が、CS 科目を延べ 3493 名が履修した。

COC+事業で平成 29 年度に構築した「キャリアデザインプログラム」は、令和元年度の入学生の履修者 291 名を含む全 635 名が履修し、地域志向科目を含むキャリア教育科目群と、「しまね協働教育パートナーシップ」の仕組みを活用し、体系的で質の高い地域協働型の学びを学生に提供することができた。

さらに、COC 事業で整備した「地域貢献人材育成入試」の入学生である COC 人材育成コース生 4 期生 56 名が新たに入学した。このコースでは、各学部が提供する地域志向教育を受けながら、学部横断型で地域課題に特化したプロジェクト学習を正課科目「イノベーション創成基礎セミナーI」「同セミナーII」「地域課題解決プロジェクト」や「地域共創インター

ンシップ(2週間以上の中長期地域インターンシップ)」、準正課教育の各種セミナーに加え、しまね協働教育パートナーシップ登録団体の地域企業・自治体等とタイアップした高度なPBLである「COCコース生プロジェクト」への参加の機会を学生に提供し、地域未来創造人材の育成に寄与することができた。加えて本年度に1期生が卒業し、約90%が山陰両県へ定着した(松江キャンパスコース生のうち就職希望者を対象とした内定状況調査:令和2年1月末現在)。また、島根県への就職率は52.6%と例年30%前後の島根大学の地元就職率に比べて高い数値となった。

#### 【島根県立大学】

「しまね地域共生学入門(1年次全学必修)」を開講したほか、「地域課題総合理解(2年次)」「地域共生演習(2・3・4年次)」など「しまね地域マイスター課程」の履修科目を開講し、地域課題の解決に向けての地域学習を段階的・体系的に行った。同課程の最終年度には、島根県内のさまざまな地域課題に対して地域学習、卒業研究を通じた提言を行うなど、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材の育成につながった。今年度は「しまね地域マイスター課程」の修了生を8名を輩出した。

#### 【松江工業高等専門学校】

地域志向科目として「地域産業とエンジニア」および「ふるさと産業学(計画時は「ふるさと学」)」を開講した。「地域産業とエンジニア」では、外部講師を招いて地域産業に関連した内容の講義を行い、「ふるさと産業学」では、地域をフィールドに体験学習を行った。「地域産業とエンジニア」(4年生対象)および「ふるさと産業学」(3年生対象)の科目において、学生が熱心に受講するとともに、学生からの授業アンケートにおいても、高い評価を得ることができ、学生の地域志向を高めることができた。

## 【2】しまね大交流会

5回目となる「しまね大交流会2019」の開催にあたり、事業協働機関とともにしまね大交流会実行委員会を組織し7回の委員会を開催した。特に、島根県教育委員会と連携し、高校生のキャリア教育のためのセミナー(座談会)および、高校・大学の地域課題探求や地域活動に関するポスター発表(高大センバツローカルアクション展)を別途設け、高校生参加者を含む1722名の学生・生徒の参加を得ることができ、参加者総数は2807名となり、年度計画の目標値(参加者総数:平成28年度比70%増)を超える75%増を達成できた。

## 【3】しまね協働教育パートナーシップ

事業協働機関とともに構成する「しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」を年間3回開催し、本パートナーシップ登録団体の募集・認定ほか本協議会として実施する地域協働による人材育成に関する研修会等の企画について協議を行った。今年度は、昨年度登録した

203 団体から 39 団体増加して合計 242 団体となり、初期に登録した団体の更新作業を含め、最終目標値である 200 団体に対し 20%増しの水準で協働体制を構築できた。

登録団体を対象とした研修会は、年度計画の回数 3 回を上回る 5 回実施することができ、それぞれ参加団体から好評を得た。特に、しまね大交流会の出展者を、しまね協働教育パートナーシップ登録団体のみに限定することで、質の高い地元企業・団体として登録団体を学生に効果的に周知することができた。また、本年度の島根県内の事業所が受入れたインターンシップ人数は、昨年度と比して 3%増にとどまったが、本パートナーシップ登録団体においては受入れ人数は昨年度から 30%増となり、登録団体かどうかによって伸び率に大きな差が出た（第 2 部 表 2-2-13 参照 いずれも 1 月末時点の数値を基に計算）。

#### 【4】しまねクリエイティブラボネットワーク

「地域コミュニティラボ」では、地元自治体や企業に加えて一般市民および学生からの企画があり、年度計画上の目標値である 4 回を上回る 6 回の企画展示を行った。学生や教職員のみならず一般市民も含む計約 3000 名の来場があった。これにより、幅広い地域ステークホルダーに対し山陰地方の地域資源の価値を再認識する機会を提供し、大学を拠点とし協働して取り組む地方創生の目指す方向性を喚起することができた。

「技術コミュニティラボ」では、最新技術に関する少人数・双方向型のミーティングを 3 回開催し、若手教員・学生・院生や地元企業エンジニア等 64 名が参加した。また、しまね大交流会の出展者交流会の時間帯を活用して「技術コミュニティラボ in 大交流会 ～島根発！Society5.0～」と題して、島根大学および松江工業高等専門学校の研究者によるライトニングトークを実施し、地域の関心が高い Society5.0 に関連する先端研究の紹介を行った。技術コミュニティラボに参加した学生が、同じ場に参加した地域企業へ就職するなど、今までにない学生と地元企業の接点づくりにも貢献した。

「ものづくりコミュニティラボ」では、大学生向けの教養育成科目「ものづくりと創造性」が展開された。ほかにも、教職科目を中心とした美術・技術系の授業や、中学生向けロボコン教室、市民向けのものづくりの公開講座 2 講座、現職教員向けの免許状更新講習 2 講座でもラボが活用された。利用人数は授業や講座等人数が把握できるものだけでも、昨年度のおよそ 2 倍となる 200 名となり、活用頻度が高まった。

#### 【5】地域情報アーカイブ『Ago-Lab』

昨年度に引き続き地域志向教育等とタイアップさせ、地域情報の収集や発信を教育コンテンツとして授業に組みこむとともに、しまね大交流会の出展団体による出展内容・自社や自組織の魅力に関する事前 PR に活用してもらった。投稿アカウント数は 1698 件となり、平成 30 年度末の 1314 件から 384 件増加し、年度計画の目標件数(平成 30 年度比 300 件増)を 28%上回った（令和元年 12 月末調査値）。

以上、各プロジェクトは全て年度計画を上回る実績となった。

事業 KPI に対する令和元年度の進捗状況は、第 2 部の全体総括の中で合わせて報告する。

## 第1章 地域未来創造人材の育成

本事業における人材育成に係る取組は、いわゆる授業科目としてではない「正課外教育（準正課教育）」と、授業として行われる「正課教育」に区分することができる。本事業で連携する高等教育機関は、それぞれが各専門分野に特化した教育を行うと同時に、「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」の成果としてそれぞれの機関特性を活かした地域志向教育を行っている。また、授業開講時間帯が一樣でないなど、正課教育を共同実施することによるメリットを享受しにくい。一方、正課外教育は、授業科目の開設・運営に比べ、格段に弾力性・柔軟性が高いことから、学生および地域のニーズに見合った取組を教育機関の別を超えて展開可能であり、「事業目的＝若年層の東京一極集中の解消」を達成するために極めて有効である。そこで、正課外教育の新しいしくみを、地域の協働教育組織（第3章：しまね協働教育パートナーシップ）を構築しながら、地域と教育機関とが共にその取組方を考え、様々な試行を行っている。

本章は以下の構成で令和元年度（2019年度）の取組を報告する。

- 1-1. 高等教育機関間共同実施型の正課外教育に関する取組（企画別）
- 1-2. 各教育機関における正課教育に関する取組（高等教育機関別）

### 1-1. 正課外教育における取組

学外において実施される地域協働型で学生のキャリア教育に資する取組としては、学生と企業の交流会、地域インターンシップフェア、企業ツアーといった種類があり、全国のCOC+事業で積極的に取組まれている。本事業においても、確定数で1230名を超える学生が正課外の教育活動に参加した（概数による報告を削除した合計数であり、実際はさらに多い）。それらに加え、本事業では、しまね大交流会（第2章参照。参加学生数約1700名）を実施している。この項目では、主たる企画別に正課外教育として行った地域協働型のキャリア教育の取組実績を報告する。

#### （1）島根県による企画

平成30年度までのCOC+事業の取組成果や様々な試行を経て、昨年度より本格的に島根県の費用負担にて、正課外の地域志向型キャリア教育支援が得られた。正課外教育として行う地域志向型キャリア教育には、主として高等教育機関の構内で実施する地域の社会人と学生が交流するイベント（①交流会型と呼称）、高等教育機関の学生や教職員がバスなどを利用して地域に赴くツアー（②現地訪問型と呼称）、インターンシップを検討する学生のための情報提供の場（③インターンシップフェアと呼称）といった、全国的にも実施されているアプローチに加え、④地域の企業等とタイアップして行う課題解決型の教育研究の支援の4つに大別可能である。①～③の取組は、主に島根県商工労働部雇用政策課が担当しており、その実施の概要を表1-1-1に示す。島根県による企画のうち①～③の区分に相当する正課外教育だけで、参加学生は概数でも969名となった。

表 1-1-1：島根県による高等教育機関向け正課外地域志向型キャリア教育支援

	日時	テーマ	学生参加人数	備考	
●島根大学の学生を主な対象とするもの					
①交流会型	5月22日(水)	12:20~13:50	第1回ランチ交流会 「いきいき働ける魅力ある職場！若手社会人に聞く」	18	イズテック㈱/協栄金属工業㈱/㈱シーエスエー *「いきいき雇用賞」受賞企業が参加
	7月17日(水)	12:20~13:50	第2回ランチ交流会 「金融業界を知る！若手社会人に聞く！」	9	JA島根 出雲地区本部/㈱山陰合同銀行/島根中央信用金庫
	10月16日(水)	12:20~14:00	第3回ランチ交流会 「しまねの“IT業界”を知ろう！」	8	㈱アイル松江ラボ/㈱CMC Solutions/アイティープロデュース/㈱パソナテック
	12月11日(水)	12:20~13:50	第4回ランチ交流会 「卸・小売、製造、IT業界を知る！若手社会人に聞く！」	2	島根トヨタグループ/㈱グロバル/日本システム開発㈱
②現地訪問型	5月11日(土)~5月12日(日)	11日:8:00~12日:16:00	しまねDEEPまちツアー【A:津和野町】	13	津和野日本遺産センター/三松堂本店/稲成神社/日原の道の駅
	5月18日(土)	8:00~17:30	しまねDEEPまちツアー【B:飯南町】	16	さつき会館/ミセス・ロビンフット/飯南町役場/大しめなわ創作館
	5月18日(土)	8:30~17:40	しまねDEEPまちツアー【C:大田市】	17	㈱シバノ/フェズ・トレンダーズ/㈱イワミ村田製作所/道の駅ロード銀山/大田市長講話
	5月25日(土)	8:30~18:00	しまねDEEPまちツアー【D:出雲市】	17	ヒラタ精機㈱/愛宕山公園/出雲大社/キララ多岐/キララトゥーマキ風力発電所/㈱ウソノ/出雲ドーム
	5月25日(土)~5月26日(日)	25日:8:00~26日:17:00	しまねDEEPまちツアー【E:吉賀町】	22	みずとき/ヨシワ工業㈱/吉賀町役場・吉賀町長講話/よしかファーム(道の駅むいかい温泉/彫刻の道)
	5月25日(土)	8:30~17:30	しまねDEEPまちツアー【F:安来市】	11	和銅博物館/さんま学習館ケイオス(山陰酸素工業㈱)/安来港~赤江新田/鍛冶工房弘光/金屋子神社/金屋子神話民俗館
	8月24日(土)~8月25日(日)	24日:9:00~25日:16:30	しまねDEEPまちツアー+【邑南町】 夏休み企画！美食巡りと地域見学 島根大学生×島根県立大学生×松江高専生	21	田所公民館/NPOはすみ振興会・てごおする会/邑南町役場/㈱トリコ/社会福祉法人瑞穂福祉会さつきの園/㈱ツチヨシ産業/邑南町役場/㈱大田鋳造所(千代田工場)/㈱セラビア
③インターンシップフェア	5月29日(水)	14:55~18:00	インターンシップフェア	116	島根トヨタグループ/㈱ミック/中浦食品㈱/㈱松の湯(出雲玉造温泉 松乃湯)/㈱谷口印刷/島根電工㈱/㈱アテナ/NPO法人松江音楽協会/㈱今井書店/桜江町桑茶生産組合/三菱マヒンドラ農機㈱/㈱さんびる/㈱パソナテック/飯南町役場
	11月6日(水)	14:55~18:30	山陰冬季インターンシップフェア	52	アースサポート㈱/㈱出雲村田製作所/㈱一条工務店山陰/㈱ウチダレック/寿製菓㈱/島根県農業協同組合/㈱テクノプロジェクト/㈱しちだ・教育研究所/日本セラミック㈱/山陰酸素工業㈱
			小計	322	
●島根県立大学の学生を主な対象とするもの					
①交流会型	12月6日(金)	13:30~15:35	県大松江トーク交流カフェ *島根県立大学松江キャンパス	77	㈱谷口印刷/㈱WILLさんいん/㈱ピー・エム・エー/NPO法人プロジェクトゆうあい/モルツウェル㈱/㈱ホンダクリオ島根/HIROE/㈱TSKネクスト/㈱大屋ハイテック *共催：島根県中小企業家同友会
	12月9日(月)	17:00~19:00	業界研究・生き方見本市 *島根県立大学浜田キャンパス	50	主催：島根労働局、ジョブカフェしまね(ふるさと島根定住財団)、島根県 共催：島根県立大学
②現地訪問型 *8月分を島根大学と合同企画					
③インターンシップフェア	5月22日(水)	15:00~17:05	インターンシップフェア	117	島根電工㈱/島根トヨタグループ/ジュンテンドー/㈱ミック/日本海信用金庫/しちだ教育研究所/島根県信用保証協会/島根県農業協同組合いわか中央地区本部/トップ金属工業津工場/㈱パソナテック/協和地建コンサルタント/山陰温調工業㈱/㈱谷口印刷/㈱明相/モルツウェル㈱
			小計	244	
●松江工業高等専門学校の学生を主な対象とするもの					
①交流会型	6月28日(金)	14:50~16:50	第1回 松江高専3年生と県内の先進技術企業との交流会	約200	島根自動機㈱/松江山本金属㈱/小松電機産業㈱/㈱イーグリッド/今井産業㈱/日立金属㈱/島根電工㈱/サン電子工業(株)益田工場・出雲工場
	2月13日(木)	11:10~12:35	第2回 松江高専3年生と県内の先進技術企業との交流会	約200	㈱ワールド測量設計/ヒラタ精機㈱/泰精工㈱/カナツ技建工業㈱/ホンザキ㈱/ワークス/㈱フェズ/㈱エイム・ソフト/アジャイルメディア・ネットワーク㈱
②現地訪問型	9月4日(水)	8:45~16:00	松江高専企業見学ツアー【東部コース】	3	ヒラタ精機㈱/㈱ヒューマンシステム/松江第一精工/(株)CMC Solutions
			小計	403	
			合計参加学生	969	

この区分①～③の取組について、②現地訪問型に区分した「しまね DEEP まちツアー」シリーズは、これまで島根県等が実施してきた企業ツアーとは、次の点で異なる新たな取組として昨年度島根県で予算化されたものである。その特徴は次の通りである。

＜しまね DEEP まちツアーの特色＞

- ツアーは市町村単位で計画し、その自治体の特徴や地方版総合戦略等で特に力を入れていることをテーマにしたツアーを、受入自治体側担当者が企画。
- 島根大学の地域志向型初年次教育科目である「スタートアップセミナー」（教養育成科目。授業設計の詳細は平成 29 年度の本事業成果報告書を参考にされたい）の授業内容と連動して実施した。漫然とツアーに参加するのではなく、授業で行われるチームプロジェクトに必要な「地域の情報」を学生自らが収集していくという目的を明確化。ただし授業時間としてカウントせず、参加は自由意志に基づく。
- 授業と連動したツアーではあるが、授業を受けていない学生・院生、留学生のほか、教職員が積極的に参加し交流を行った。
- 今年度は、宿泊型のツアーを企画し、より遠方の自治体を訪れた。

このツアーについて、今年度も島根県商工労働部雇用政策課とともに開発・実施した。今年度の特筆すべき事項として、島根大学と島根県立大学の合同企画として宿泊・課題解決型の「しまね DEEP まちツアー+（プラス）」を実施した。この取組については、別途 p. 16 に報告した。

この企画では、統一様式でのアンケートを実施できたので、その結果の一部を抜粋し、報告する。ツアー参加の満足度・次回参加への意識についての調査結果を図 1-1-1 に示す。

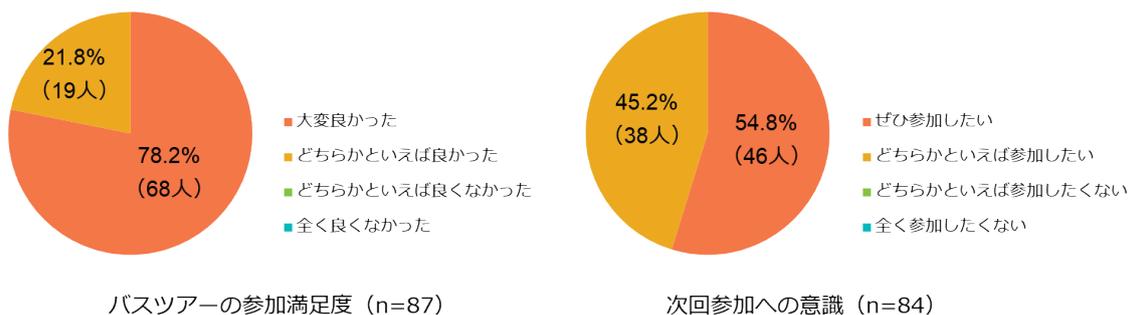


図 1-1-1：しまね DEEP まちツアー参加者へのアンケート結果

また、感想等を抜粋する。

- ・島根県出身だからこそ島根を観光しよう、という思いをあまり持たないけど、今回大田中についていろいろ知っていくと、とても楽しかったので、これから多くの場所を訪れたいと思いました。
  - ・市長の活力があり、それに企業や街が乗ってきている感じがとても良かった。活力が上がってもっと活性化しそだし、したいという熱意を感じた。
  - ・子どもたちから、ボランティアの高齢者、役場の人、移住者など地域の様々な年代や立場の人の話を聞くことができて良かった。全てが充実していてもっと細かく話を聞いたり、見たりしたい。時間が足りないなと感じるほどだった。地域社会専攻なので、公民館での地域づくりや移住者、地域おこし協力隊の話を聞いたのは大変満足。
  - ・インターネットで調べるだけではわからない、飯南町のすばらしさを体験できました。昼食のミセスロビンフッドが味はもちろんだこと、地元産へのこだわりや薬膳のお話など、とても面白く、今回で一番印象に残りました。
  - ・子どもたちとのふれあいやその地域ならではの料理など、様々な体験ができ、学習になると共に大変思い出になった。私は、田舎という所に住みたいとは全く思っていなかったけど今日のツアーを通して田舎ならではの魅力を知り、田舎に住むのも良いなと思いま
- た。自分が田舎に住むなら、ぜひ飯南町で農業をしながらゆったりと暮らしたいと思いました。来年もこの企画を通して後輩にも様々な体験をしてもらいたいです。
- ・ツアー全体を通して実際に行ってみないと分からないことを知ることができた。実際に芋を植えたり、しめ縄を作ったりしてみても、地域のことを知れたり、その地域に住んでいる人達のことを知れた。都会から飯南町に移住した人の話を聞いてIターンするのも良いなと思いました。自分の地元も同じくらい田舎なので共感できることがたくさんあった。
  - ・地方に対して、過疎が進んで住みづらくなっているというイメージを少なからず持っていたのですが、今回、お話を聞かせていただいたお三方は、津和野町を単に愛しているというだけでなく、自分がやりたいことを実現するために津和野に来ているため、彼らにとって居場所でもあると感じました。地方に住むことの良さを身を持って知ることができて良かったです。
  - ・聞いたことのある企業でも、実際には何をしているのか、わからないところがあり、それを今回のツアーで知れたことがとても良い経験だったと思う。また、地元にも風車は、たくさんあるが、その中でどのようなことが起きていて、また、どれくらい発電しているのかを知る機会がなかったもので、理系としては、とても興味深い内容だった。来年にも、このようなツアーがあれば、参加したい。
  - ・地域の重要な産業となっているモノづくりの現場を直接見ることができて良かった。社員
- さんは、誇りを持って働いていたし、風通しが良く、社員想いの会社だからこそ、地域と共にあるのだと感じた。またUIターンがブームになっている昨今、何故この地にUIターンしたのか、その後の生活について聞くことができて、移住者のライフストーリーの一部を知れて良かった。一人暮らしだと簡単なご飯になってしまうので、温かいご飯をたくさん食べることができて嬉しかった。ただ全体的にトップダウンなまちづくり、地域づくりだと感じしたのでボトムアップの側面も見なかった。
- ・私は、大阪から来たのですが、休日、松江市街を訪れた際と町の景色や雰囲気が変わり、松江市とは、また違った印象を受けたことが面白く感じ、島根県内の他の市についても知りたいと思う様になりました。お店や企業を訪問し、そこで働く方々の話を聞くと、誰もが「地域をより良くするために」という思いで活動していることを知り、自分も吉賀町のために何かできることはないか、ということをつらな中ですとずっと考えていました。そして道の駅を訪れた際に、吉賀町で生産された大豆を使ったクッキーを買いました。友達にプレゼントする予定です。まずは、その町に興味を持つこと、そして行動を起こすこと、そして発信し、広めていくこと。何かを大きく変えられるわけではないけど、「まずこの一歩」の大切さを認識できるツアーでした。

今年度の「しまね DEEP まちツアー」では昨年訪れなかった津和野町や飯南町、吉賀町を新たにコースとして設け、約100名の学生・教職員が参加した。今年度の満足度も非常に高いものとなったが、これは授業とツアーが連動したことにより、低学年次でもこのようなバスツアーに参加する目的を明確にもって参加したことが考えられる。また、各地域で訪れる場所についても自治体職員等の意見を盛り込み計画したことで、その自治体が持つ特徴について実感を伴って理解できたことが高い満足度につながったと思われる。

また、昨年度はいくつかのツアーを平日に開催した関係で「参加したい学生が参加できない」という状況が発生したため、今年度はすべてのツアーを休日に実施した。これにより昨年以上の参加者数となっただけでなく、宿泊型での実施により2日間の行程でより深く自治体の魅力について知る機会を提供することができた。加えて、前述の感想の抜粋の中にもあったように島根県出身であっても普段訪れることのない地域に出ることは島根に対する関心を高めるきっかけになり、また県外出身で初めて訪れる学生にとっては島根というフィールドを通して地方を理解する機会となった。こうした“地域に出て学ぶ”取組は都市圏への人口流出が著しい今日において、学生が“意志ある選択”として地方に残り、そして活躍することを考える際のヒントになると思われる。「しまね DEEP まちツアー」を継続的に行うことで島根に対する誇りだけではなく、地方で活躍することに対する見識を深める意味においても今後重要性が増していくと考えている。

以下、この「しまね DEEP まちツアー」を含む区分①～③の取組の記録写真を抜粋して掲載する。



インターンシップフェア  
(県立大学浜田キャンパス)



インターンシップフェア  
(島根大学松江キャンパス)



しまね DEEP まちツアー  
(飯南町コース)



しまね DEEP まちツアー  
(安来コース)



しまね DEEP まちツアー+  
(邑南町コース)



交流カフェ  
(島根大学松江キャンパス)

島根県が主催する正課外教育のうち④の取組は、COC+事業と連動した県の取組として、平成28年度より継続実施している「インターンシップ等受入企業改善提案事業」である。島根県商工労働部産業振興課がこの事業を担当しており、高等教育機関の学生・教員協働型で地域の企業の課題解決を行う。この取組により、地域における企業インターンシップの可能性を広げるような先行事例の開拓が可能となる。これについて本COC+事業を行う大学・

2

3

4

5

6

高等専門学校が島根県より委託を受け、各機関内で公募・採択を行い、表 1-1-2 のとおり計 13 件の事案に取り組んだ。同表に各事案の連携先および取組テーマを示す。秘密保持上の理由から、各取組の詳細な成果については本報告書には記載しないこととする。

表 1-1-2：令和元年度インターンシップ等受入企業改善提案事業 採択案件一覧

No.	代表者	連携先	テーマ	参加学生	参加院生	
1	島根大学 地域未来協創本部 講師 高須 佳奈	TSK山陰中央テレビジョン株式会社	企業等が行う社会貢献活動のより効果的な発信の検討	3	0	
2	島根大学 国際交流センター 教授 青 晴海	松江市 一畑バス株式会社	外国人観光客のバスの利便性を高めるためのアイデアを提言する	2	1	
3	島根大学 総合理工学部 教授 小俣 光司	株式会社高砂醤油本店	出雲地方に水揚げされる海産物の醤油干しに対する課題解決	5	0	
4	島根大学 総合理工学部 教授 藤田 恭久	株式会社 S-Nanotech Co-Creation	新規発光デバイスと効果的なプレゼンテーションの提案	3	0	
5	島根大学 法文学部 教授 毎熊 浩一	株式会社谷口印刷	学生目線による「(若者の)本離れ」対策事業	5	0	
6	島根県立大学 総合政策学部 教授 光延 忠彦	株式会社山陰中央新報社	報道機関へのインターンシップを通して学ぶメディアと選挙	22	0	
7	松江工業高等専門学校 機械工学科 教授 山根 清美	株式会社ダイハツメタル	AIを用いた製品良否判定システムの作成	5	0	
8		ヒラタ精機株式会社	遊星歯車の手組み作業の効率改善	4	0	
9		ヤンマーキャステクノ株式会社	小型班ジャケット中子ガス穴芯埋め後のパレティーナ運搬の改善	5	0	
10		株式会社テクノプロジェクト	オフィス環境の改善	5	0	
11		株式会社日立メタルプレシジョン	製品鋳造におけるワックス模型成型工程の作業改善	5	0	
12		オーエム金属工業株式会社	鋳造における木型保管管理案の提案	5	0	
13		東洋製鉄株式会社	インサート回り止め加工作業の改善	4	0	
合計				74		

## (2) 島根県技術士会青年部による企画

島根県技術士会青年部が主催し、今年度は島根大学松江キャンパス大学会館で実施した。技術士が普段行っている問題解決のプロセスを1日集中型・実践型で学べる企画となった今回は、島根大学・松江高専の学生・院生19名に加え、企業・自治体や島根大学の教員も参加し、総勢40名を超える規模での開催となった。

ロジカルシンキングのためのお題に対し、問題解決のプロセスに従いながら、論理的思考を意識したグループワークを実践し、最後には問題解決戦略についてプレゼンテーションを行った。本企画は企業・自治体関係者と学生と一緒に活動をする場を提供しただけではなく、職場や仕事について学生が相談できる場としても機能させたことでキャリア教育としても非常に効果のある取組となった。

事業名：	実践型ロジカルシンキングセミナー		
実施日時：	令和元年11月30日(土) 10:30~17:00		
概要：	午前 開会&トーク 午後 グループワーク&プレゼン&審査・表彰・閉会		
実施主体：	島根県技術士会青年部	参加学生数：	19名
			
課題解決ワークショップの様子		課題解決ワークショップの様子	
			
発表会の様子		表彰の様子	

2

3

4

5

6

## (3) マイクロソフトディベロップメント株式会社による企画

AIの基礎知識を学習するセミナーを東京に本社をおくマイクロソフトディベロップメント株式会社の技術者を迎えて開催した。当日は、島根大学の学生16名に加え、島根大学の教員や自治体職員12名が、AIがどのように情報を処理し、学習しているのかといった基礎的なことや「AIが得意なこと」と「人間でしかまだまだできないこと」などの違いについても解説を受けた。また、マイクロソフトディベロップメント株式会社が開発したAI「りんな」(会話ボット)を使用してAIについての理解を深める活動もあり、IT・情報系の就職を志望する学生にとって貴重な経験となった。

事業名：	AI 基礎変♡セミナー		
実施日時：	令和元年6月19日(水) 12:45~14:45		
概要：	午前 開会&トーク 午後 グループワーク&プレゼン&審査・表彰・閉会		
実施主体：	マイクロソフトディベロップメント株式会社	参加学生数：	16名
 <p data-bbox="416 1373 620 1408">セミナーの様子</p>	 <p data-bbox="959 1373 1243 1408">ワークショップの様子</p>		
 <p data-bbox="376 1807 660 1843">ワークショップの様子</p>	 <p data-bbox="1023 1807 1179 1843">発表の様子</p>		

2

3

4

5

6

## (4) 高等教育機関による企画

## ① 島根大学

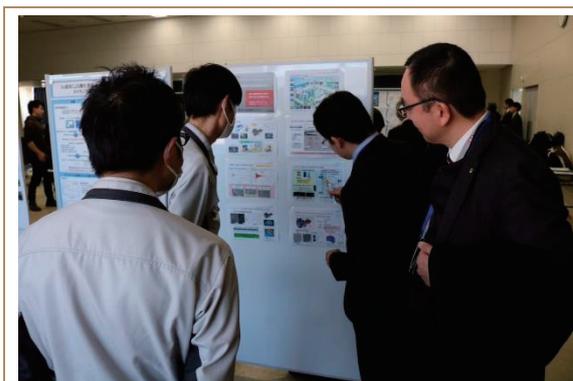
島根大学においては、昨年度に実施した学内の各部局による学生のキャリア教育に資する取組に対する支援事業を行った。その取組を表 1-1-3 に掲載する。

表 1-1-3：県内企業等研究活動支援事業（島根大学）実施一覧

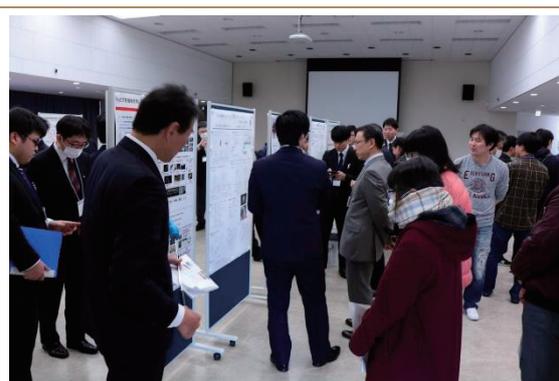
No.	日時	事業名	実施主体	参加学生数
1	10月23日	COCコース生と社会人との交流ワークショップ（未来づくりセミナー内）	地域未来協創本部	24
2	2月10日	1日完結就活直前合宿	大学教育センター	37
3	2月20日	学生と企業技術者による合同研究技術発表会2020	総合理工学部 生物資源科学部	51
3	2月26日	人間科学部福祉社会コース2年生インターンシップ	人間科学部（社会福祉コース）	11
合計				123

上記のうち、地元企業と学生が密にかかわった「学生と企業技術者による合同研究技術発表会」については下記の通り実施された。

事業名：	学生と企業技術者による研究技術発表会		
実施日時：	令和2年2月20日（木） 13:00～16:30		
概要：	13:00～ オープニング 13:10～ 1min ショート プレゼン 14:00～ 休憩・配置換え 14:10～ ポスターセッ ション 15:40～ 休憩・配置換え 15:50～ 意見交換会 16:30～ クロージング	学生と企業の情報交換、大学と企業との研究協力、配属前学生の企業活動と大学研究活動の比較情報提供のため、学部生・院生、および企業で開発・研究する技術者の活動を紹介する場を提供した。企業側発表者は地元企業15社であり、その多くがしまね協働教育パートナーシップに参画している団体であった。また、学生側発表者は総合理工学部・生物資源科学部・自然科学研究科の20組となった。当日は学生51名、教職員35名、企業・公的機関42名の128名の開催となった。	
効果：	今回の研究技術発表会では企業や学生が日ごろ取り組んでいる課題についてポスター形式で発表が行われた。発表者と聴講者との間だけでなく、発表者同士でも活発な意見交換・交流の様子が見られた。また、ポスターセッション後には来場した学生と企業技術者で意見交換会を行い、参加学生からは企業内での研究の進め方や学生時代の経験で活かしたもの等、普段機会が無い企業技術者への質問を進んで行う様子が見られた。		
実施主体：	島根大学総合理工学部・生物資源科学部	参加学生数：	51名



ポスターセッションの様子①



ポスターセッションの様子②

このほか、しまね協働教育パートナーシップ登録団体の協力を得て、学生と地域がともに取り組むプロジェクト「コミュニティイノベーションチャレンジ（以下 CIC）」を今年度も説明会を開催し、表 1-1-4 のプロジェクトが取組まれた。CIC は、次項で報告する「キャリアデザインプログラム」の中にも組み込まれており、当該年度はのべ 29 人がこれに参加した。

表 1-1-4：令和元年度 CIC 実施プログラム一覧

No.	プログラム	提供団体	参加人数
1	出雲の魅力・企業の魅力 伝えるプロジェクト	出雲地区雇用推進協議会	3
2	雲南コミュニティキャンパス (U.C.C) プランニング合宿	雲南市役所	8
3	SDGs で地域魅力化プロジェクト	島根県中小企業家同友会	10
4	2019 ベンチャーキッズ スクールin未来博	ベンチャーキッズスクール実行委員会	2
5	雲南コミュニティキャンパス (U.C.C) 後期合宿	雲南市役所	6
		合計	29

## ②島根県立大学・島根大学合同企画

島根県立大学と島根大学の協働による「地域問題解決プロジェクト in 邑南町」を実施した。本プロジェクトは島根県雇用政策課が実施している「しまね DEEP まちツアー+（プラス）」を企画の一環であるフィールドリサーチ合宿という形で活用して取り組んだ。島根大学と島根県立大学の学生は、6月の合同ゼミでの勉強会に始まり、8月の邑南町フィールドリサーチ合宿、その後3か月かけて問題解決・提言へと取り組んだ。邑南町の地元の方との交流、地元産業・企業の見学、経営学の視点で問題を探求することを通じて、学生の中山間地域に対する印象が大きく変化した。例えば、「中山間地域は閉鎖的、退廃的な印象であったが、都市部に比べてむしろ進歩的、開放的であると感じた」、「人口減少、人材不足の問題を抱えながらもそれを食い止めようと努力しており、地域創生の奥深さを感じた」など印

象深い感想が聞かれた。以下、本プロジェクトの概要及び実施状況である。

事業名：	地域問題解決プロジェクト in 邑南町		
実施日時：	令和元年 6月～12月		
概要：	邑南町より問題解決テーマの提起、事前研修、フィールドリサーチ合宿（しまねDEEPまちツアー+として他校にもオープンして実施。次項に詳細を記す）、しまね大交流会での成果発表、邑南町での報告会・振り返り テーマ1：デマンド交通（NPO 法人はすみ振興会） テーマ2：企業の人材不足（ツチヨシ産業㈱）		
実施主体：	島根県立大学 村山誠教授 島根大学 丸山実子准教授	参加学生数：	島根県立大学 8名、島根大学 3名
 <p>第1回合同ゼミ (6/9)</p>		 <p>第2回合同ゼミ (10/29)</p>	
 <p>しまね大交流会での発表 (11/16)</p>		 <p>邑南町での発表 (12/9)</p>	

しまね DEEP まちツアー+として取り組んだフィールドリサーチ合宿には、島根県立大学 8名、島根大学 11名、松江工業高等専門学校 2名と本事業を行う全ての高等教育機関から学生の参加があり、プロジェクトを遂行する上でも多様な意見を集めることができ、有益な取組みとなった。

### ③その他の取組

#### ・しまね大交流会

本事業を特色づける地域協働型の取組である。初発は産学連携等の強化に主眼を置き、大学・企業等とのネットワークづくりを活発化することに重きを置いていたが、学生のキャリア教育にも適した場であることから、平成28年度にキャリア教育としての取組目的を付加して実施されてきた。詳細は第2章にて報告を行う。

2

3

4

5

6

## 1-2. 各高等教育機関における地域未来創造人材育成のための取組（高等教育機関別）

### （1）島根大学

#### ①「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」による教育改革の継続

島根大学では、地（知）の拠点整備事業（以下 COC 事業）（平成 25～29 年度）の終了後も継続して地域志向教育を軸とした大学教育改革を行っている。その特色は、地域を扱う授業科目を各分野の専門科目と切り離した独立型で実施するのではなく、地域志向科目と専門教育科目の有機的な連携を図っている点にある。すなわち、前述の地域志向型初年次教育科目を含む「地域基盤型科目（ベースストーン科目：以下 BS 科目）」を低学年次向けに開講し、島根県を中心とした地域の事例を扱うことで専門教育への動機づけを行い、また、ある程度専門分野に関する知識が深まった段階において「地域課題解決型科目（キャップストーン科目：以下 CS 科目）」を受講することで、地域課題の解決に専門教育を応用することを学べるような体系としている。また、これらについて「地域志向教育の充実に向けた基本方針」を定め<sup>1</sup>、地域志向教育科目の定義を以下の通りとしている。

BS 科目：教養育成科目又は各学部の専門教育科目のうち、地域の基礎的な現状と課題について学習することのできる科目であり、かつ、地域社会との関わりを通じて大学で専門領域を学ぶことへの意欲を喚起できる科目  
CS 科目：各学部の専門教育科目のうち、身に付けた知識と経験を課題解決能力の修得につなげる科目

令和元年度は、BS 科目を延べ 5567 名が、CS 科目を延べ 3493 名が履修し、合計で延べ 9060 名の学生が地域志向科目を受講した。

#### ②地域未来創造人材を育成する教育プログラムの実施

島根大学においては、本事業により「キャリアデザインプログラム」と「COC 人材育成コース」の運営を行っている。前者は、COC+事業で新たに構築した地域協働型のキャリア教育プログラムであり、後者は、COC 事業で構築した「地域貢献人材育成入試」による入学生の教育コースである。それぞれの教育プログラムについて、当該年度の取組を報告する。

##### 【②-1：キャリアデザインプログラム】

キャリアデザインプログラム（以下 CDP）は、島根大学が本事業で構築した教育プログラムである。平成 27 年度に本プログラム構築のためのワーキングを立ち上げ、平成 28 年度に地域ニーズの調査等を行ってプログラムを構築、平成 29 年度より学生のプログラム履修を開始した。その特色は、第 2 章で報告する「しまね大交流会」、第 3 章で報告する「しまね協働教育パートナーシップ」を最大限に生かし、前項の正課外教育と正課科目を組み合わせた「地域協働型で実施するキャリア教育プログラム」という点にある。なお CDP の運営

<sup>1</sup> <https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policy/local.html>

は、教育・学生支援機構大学教育センター キャリア担当（旧：キャリアセンター）および教育・学生支援部学生支援課が担当している。

#### a. プログラム履修状況

CDP のホームページやパンフレット、PR 動画を用いて、特に新入学生に対して重点的に発信を行っている。CDP の履修登録は入学年次（1 年次）のみとなっているが<sup>2</sup>、当該年度は 291 名の登録となった（図 1-1-2）。これは、各学部・学科のキャリア・就職担当教員の協力により、各学部・学科が行う入学時のガイダンス等で、CDP の説明を重ねたことによる。よって、**履修者数の合計は 635 名となり、本事業申請時の当初計画（入学者数の 10%に相当するおよそ 110 名）を上回る履修者数を獲得**した。

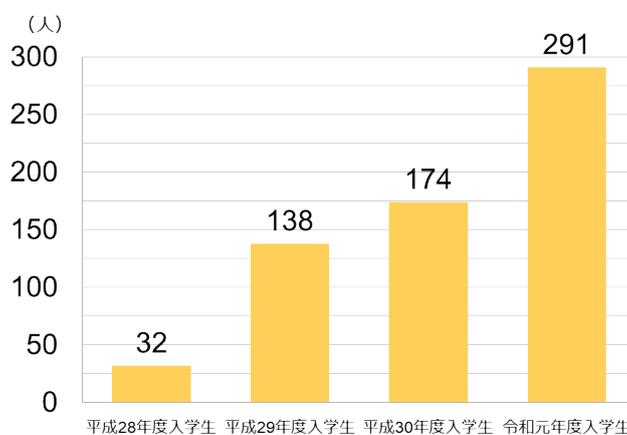


図 1-1-2：各年度の入学生の CDP 履修登録者数（CDP 登録は入学年次のみ）

#### b. CDP 履修者を対象としたセミナー等の実施

CDP は、授業科目と正課外教育の受講で構成されている。正課外教育には、第 2 章で報告する「しまね大交流会」や、p. 16 に示した地元企業等とのプロジェクト「CIC：コミュニケーションチャレンジ」<sup>3</sup>、その他 CDP 関連プロジェクトなどの正課外教育を CDP の修了要件に組み込んでいる。これらの正課外教育のうち、社会人基礎力向上のための CDP 履修者を対象としたセミナー等の実施について表 1-1-5 に本年度の開講一覧を示す。

<sup>2</sup> CDP を履修開始した平成 29 年度のみ 2 年次から（すなわち平成 28 年度入学生）の履修希望者も受け入れた。

<sup>3</sup> [https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project01/prj01-shimaneuv/cic\\_top/](https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project01/prj01-shimaneuv/cic_top/)

表 1-1-5：令和元年度 CDP 履修者対象セミナー一覧

No	日程	時間	内容	講師等	CDP 1年	CDP 2年	CDP 3年	CDP 4年	CDP 以外	教員	職員	その他	小計
1	5月17日(金)	16:50~18:30	「10年に1度の船祭りホーランエンヤの学びを深めよう!」	松江市役所 観光文化課 福田一彦氏	59	7	2	0	3	0	0	0	71
2	6月7日(金)	16:50~18:30	「プロから学ぶ!正しいスキンケアと身だしなみ(スーツ選び)講座」	青山商事株式会社 松江支店 長 梶原脩平氏 PURLY 代表 原久子氏	39	5	4	0	0	1	0	0	49
3	7月30日(火)	12:00~17:00	「夏休み企画★空の玄関口・出雲空港バスツアー&航空業界研究」	出雲空港ターミナルビル(株) 岸本吉包氏 他	28	2	0	0	2	1	0	0	33
4	8月24日(土) ~8月25日(日)	8/24(土) 9:00 ~25(日) 18:00	「夏休み企画★しまねDEEPまちツア-in島根県邑南町」	島根県職員・邑南町職員・島根県立大学教職員・島根大学教員	2	4	2	0	3	2	0	13	26
5	9月26日(木) ~9月27日(金)	9/26(木) 10:00~17:30 9/27(金) 9:00~12:00	「夏休み企画・第3弾!プロに学ぶ!ディベートスキル集中講座」	県立広島大学 特任教授 魚谷滋己氏	7	3	1	0	0	0	0	1	12
6	10月25日(金)	16:50~18:30	「実演!スーツの着こなし&コーディネート講座」	青山商事株式会社 松江支店 長 梶原脩平氏	20	2	3	0	0	0	0	0	25
7	11月22日(金)	16:50~18:30	「ヒト・モノ・コト視点の地域学」	浜田市議会議員 三浦大紀氏	9	2	1	0	3	2	0	0	17
8	11月27日(水)	16:30~18:00	「エアラインセミナー」	大学教育センター 丸山実子	3	1	1	0	2	0	0	2	9
9	11月30日(土)	10:30~17:00	「実践型!ロジカルシンキングセミナー」	島根県技術士会青年部	1	0	3	0	5	5	0	30	44
10	12月27日(金)	10:00~17:00	「島根県立大学x島根大と合同でグループディスカッションを学ぼう!」	大学教育センター 丸山実子	1	2	3	1	8	1	0	4	20
11	2月1日(土)	15:00~18:00	「プロジェクト報告会&交流会」	大学教育センター 丸山実子	7	7	4	1	2	0	0	0	21



ホーランエンヤの学び



出雲空港バスツアー&amp;航空業界研究



プロに学ぶ!ディベートスキル集中講座



スーツの着こなし&amp;コーディネート講座

当該セミナーは、11回開講し、延べ265名学生が参加した。また、今後社会人になる学生が「知りたい」または、キャリア教育の一環として大学側が「学ばせたい」ことは、現在

すでに社会人である教職員にとっても有益な情報となるため、積極的に取組内容を教職員にも開放し、学生と教職員が共に学ぶ場を作っていることも大きな特徴の一つである。

また、本年度のCDP 関連プロジェクトの一覧を表 1-1-6 に示す。

表 1-1-6：令和元年度 CDP プロジェクト一覧

No.	名称	事業名	連携先	参加学生数
1	鐵工会 リニューアル プロジェクト	鐵工会の魅力や活動を学生に知ってもらうために、学生参加の交流会の内容を企画し、チラシ作成やホームページデザインの変更、プロモーションビデオの作成などを社員とともに行う。	協同組合 島根県鐵工会	2
2	SOGI認知化 プロジェクト	LGBTという言葉が先走っている中、全ての人の権利に関係するSOGI (Sexual Orientation & Gender Identity) をテーマとした活動を行う。	島根県人権啓発活動ネットワーク	3
3	島根の東西をつなげる Iwaming プロジェクト	大田市において、学校教育・社会教育のつながりを起点とした、地域の課題発見・解決を行う。	大田高校 大田市役所等	2
4	出雲空港 空FESプロジェクト	出雲空港では毎年「空の日」イベント「出雲縁結び空港 空の日まつり」に対し、学生目線で新たな企画提案と運営協力を行う。	出雲空港ターミナルビル株式会社 一畑電気鉄道株式会社	6
5	県大×島大 LOCAL GAP プロジェクト	島根県立大学（村山ゼミ）と共に、邑南町3か所から事前に課題を受け、その課題解決学習を行う。成果は「しまね大交流会」で発表、最終発表は邑南町にて実施。	島根県立大学（村山ゼミ） 邑南町 NPO法人はすみ振興会 ツチヨシ産業株式会社	3
合計				16

これらの活動のほか、表 1-1-4 で報告した全学オープン形式で募集するCICの活動など、幅広い地域協働型の準正課教育を組合せ、自分自身でキャリアを切り開き、地域で活躍できる人材を育成している。

#### 【②-2：COC人材育成コース】

COC人材育成コースは、島根大学がCOC事業によって構築した「地域貢献人材育成入試」によって入学した学生が、学部を超えて所属する教育コースである。平成28年度より入学生を迎え、当該年度は第4期生が入学した。「地域貢献人材育成入試」およびその面談会の運営は、教育・学生支援機構大学教育センター アドミッション部門（旧：アドミッションセンター）および教育・学生支援部入試企画課が担当している。また、COC人材育成コースの運営は、地域未来協創本部地域人材育成部門（旧：地域未来戦略センター）および企画部地域連携・研究協力課が、学務に関する事務は教育・学生支援部教育企画課が担当している。

##### a. 地域貢献人材育成入試面談会の実施

島根大学が実施する地域貢献人材育成入試の特徴は、出願「する」「しない」に関わらず、

出願前から「地域貢献人材育成入試面談会」を通じて高校生を育成する「育成型」の入試であるという点である。この面談会では、本学教職員が高校生と一対一で向き合い、地域課題について考えていることや、将来どのように社会に貢献したいのかを対話することで高校生の意欲を高め、島根大学で学ぶ目的と意義を明確にしていく。面談担当者は研修会を経ることが義務付けられ、入試に直接関係のない全学センター系教員と事務系職員延べ35名が研修を受けたのち、延べ49名の教職員が面談を実際に担当した。また、本年度の面談会は図1-1-3に示した通り計12回実施し、延べ76名の高校生の参加があった。

松江	No.	開催日	開催時間	場所	会場	申込締切
	1	8月1日(木)	A 11:30 B 16:00	松江	島根大学 松江キャンパス 入学センター 2階 202号室	7月26日(金)
	2	8月2日(金)	(A 11:30~の自席は、受験生を優先させていただきます)	松江	★オープンキャンパス同時開催	
	3	8月24日(土)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	松江	島根大学 松江キャンパス 大学2階203号室	8月16日(金)
出雲南	No.	開催日	開催時間	場所	会場	申込締切
	4	7月6日(土)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	出雲	出雲市民会館 305学習室	6月28日(金)
	5	7月13日(土)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	出雲南	チエリブノホール 真別会館3階302号室	7月5日(金)
石見	No.	開催日	開催時間	場所	会場	申込締切
	6	7月13日(土)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	江津	パレットごろうつ 会議研修室②	7月5日(金)
	7	7月20日(土)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	津和野	町営英彦塾 HAN-KOH	7月12日(金)
	8	8月25日(日)	A 14:00 B 15:30	浜田	石史文化ホール・301・302会議室	8月16日(金)
隠岐	No.	開催日	開催時間	場所	会場	申込締切
	9	6月30日(日)	A 14:00 B 15:00 C 16:00	隠岐	サンテラス ホール	6月21日(金)
米倉鳥子吉取	No.	開催日	開催時間	場所	会場	申込締切
	10	7月7日(日)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	米子	米子市福祉保健総合センター 「ふれあいの里」福祉団体活動室	6月28日(金)
	11	7月20日(土)	A 13:00 B 14:30 C 16:00	倉吉	倉吉未来中心 セミナールーム4	7月12日(金)
	12	8月17日(土)	A 14:30 B 16:00	鳥取	県民のあい会館 4階 大研修室 中研修室	8月10日(金)

図1-1-3：令和元年度実施 地域貢献人材育成入試面談会（同パンフレットより抜粋）

#### b. COC 人材育成コースの学部横断型教育

COC 人材育成コースの学生は、各学部にも所属しながら、学部を超えた学びの場として「COC 人材育成コース」にも所属している。COC 人材育成コースの学部横断型の教育コンテンツは、正課教育（授業科目）と準正課教育からなり、それぞれ地域未来協創本部地域人材育成部門が提供している。令和元年度の教育内容の一覧を表1-1-7に示す。

表 1-1-7：令和元年度 COC 人材育成コース 正課・準正課教育一覧

日時	名称	区分	対象	参加人数	備考
●正課教育（授業科目）					
4月5日～7月19日	イノベーション創成基礎セミナーⅠ	授業科目	1年	50人	・中海・宍道湖・大山圏域市長会連携 ・島根県立松江東高校連携
8月5日（月）～8日（木）	イノベーション創成基礎セミナーⅡ	授業科目	1年	12人	・日本ユニシス株式会社連携
8月16日～9月1日（日）	地域課題解決プロジェクト	授業科目	2～4年	10人	・大田市、NPO法人石見銀山協働協議会連携
7月～3月	地域共創インターンシップ	授業科目	3～4年	16人	・しまね協働教育パートナーシップ登録団体等と連携（計18事業所）
●準正課教育（セミナー）					
4月5日（金） 12：15～12：45	COC入学セミナー	準正課教育	1年	56名	
10月9日（水） 16：50～18：30	COC未来づくりセミナー「実践型プレゼン特訓」	準正課教育	1～4年	20人	
10月23日（水） 16：50～18：30	COC未来づくりセミナー「越境型プレゼン特訓+社会人との交流」	準正課教育	1～4年	24人	
10月30日（水） 16：50～18：30	COC未来づくりセミナー「タテ割りライトニングトーク & 企画スキルアップ実践」	準正課教育	1～4年	28人	
11月29日（金） 16：50～18：30	COC未来づくりセミナー「ATT&オフキャンパスLT」	準正課教育	1～4年	23人	
12月4日（水） 16：50～18：30	COC未来づくりセミナー「ATT&オフキャンパスLT」	準正課教育	1～4年	27人	
1月22日（水） 16：50～18：30	COC未来づくりセミナー「仮説の設定と調査の設計：実感を持って地域間の文化の違いを考える」	正課外教育	1～4年	16人	
2月18日（火） 13：00～16：30	COC未来づくりセミナー「COC人材育成コース成果報告会」「新しい地域プロジェクト設計ワーク」	正課外教育	1～4年	26人	*「オールしまね協働教育フォーラム」にて合同開催
●準正課教育（COCプロジェクト）					
4月～2月	COC吉田プロジェクト	準正課教育	3年	5人	・株式会社吉田ふるさと村連携
4月～2月	COC海士いわがきプロジェクト	準正課教育	1～3年	12人	・海士町／海士いわがき生産株式会社連携
6月～1月	COC駅魅力化プロジェクト	準正課教育	3年	4人	・JR西日本米子支社連携
10月～1月	COCカエルプロジェクト	準正課教育	1～2年	7人	・島根県教育委員会連携 ・イベント当日コース生20名が補助
1月～	COC未来洞察プロジェクト	準正課教育	1年	6人	・株式会社博報堂「シマネクストプロジェクト」等と連携 ・実施前活動有
2月～	COC旅プロジェクト	準正課教育	1～2年	12人	・日本航空・読売旅行連携

本項では、「イノベーション創成基礎セミナーⅠ」「イノベーション創成基礎セミナーⅡ」「COC コースプロジェクト」を中心に報告を行う。このうち「イノベーション創成基礎セミナーⅠ」「同セミナーⅡ」は、令和元年度より新規開講した。これまでのコース生の正課教育としては「地域課題解決プロジェクト」や「地域共創インターンシップ」があった一方で、初年次から全学部のコース生が参加できる正課教育がない状態であった。「イノベーション

創成基礎セミナーI「同セミナーII」の開講により、従来からの課題を克服したと同時に、特に前者の授業科目は1年生の前期で実施したことで、キャンパスが異なる医学部の学生もより効果的な地域志向教育を受講することが可能になった背景がある。

「イノベーション創成基礎セミナーI」は中海・宍道湖・大山圏域市長会の若者育成事業と連携して実施したもので、コース生50名が10チームに分かれて圏域（松江市・出雲市・安来市・米子市・境港市）でのフィールドワークを行ったのち、成果を紙媒体の広報誌にまとめ、発表する活動を行った。フィールドワーク先は学生の意見を参考に自治体職員が考案し、それぞれの市ごとに多様な経験をした。学生はこれまでの授業で自治体職員から各市の総合戦略やまちづくり政策について説明を受けており、各市の特徴について理解を深めたうえでの訪問は各市の魅力をもより一層感じる貴重な機会となった。また、本授業は島根県立松江東高校とも共同で運用し、大学生と高校生がともに学ぶ場を設けたことで、学習の相乗効果が見られた。学生が制作した広報誌は自治体の展示スペースでの掲示やしまね大交流会での配布を行うなど、自治体にとっても学生目線での市の魅力を発信する機会となった。



自治体職員から総合戦略を学ぶ



フィールドワーク（安来市班）



松江東高校との合同授業の様子



完成したフリーペーパー

「イノベーション創成基礎セミナーII」ではCOC人材育成コース生の1年生12名が“未来洞察”の手法を用いて「山陰の未来」について検討を行った。授業は日本ユニシス株式会社総合技術研究所の研究者5名のサポートを受け実施した。コース生は未来を描くといっても、思いつきや直感だけにたよらず、さまざまな分野の情報収集を丁寧に行い「予兆」を見出していくことや、論理的思考による検討、さまざまな手法を駆使した発想を集中的か

2

3

4

5

6

つ実践的に学んだ。最終日には、自分が将来関わりたいと考えている山陰地域へとアイデアを展開し、未来年表を制作した。この未来年表は「しまね大交流会 2019」の「高大センバツローカルアクション展」において発表を行い多くの高校生や地域の社会人から好評を得た（第2章参照）。



授業の様子



授業の様子



授業の様子



しまね大交流会における発信

本授業の成果物である未来年表は、その後、島根大学がCOC+事業で開講を開始した「地域未来論（担当：高須佳奈／地域未来協創本部担当）」を受講する70名の学生によるグループワークに引き継がれ、株式会社博報堂の社員による「シマネクストプロジェクト<sup>4</sup>」所属チームとのセッションを通してブラッシュアップを図った。さらに令和2年1月から、もとの「イノベーション創成基礎セミナーII」の受講生から6名が参加する「未来年表プロジェクト」を発足させ、株式会社博報堂のコーディネートのもと、経産省や環境省の若手官僚が制作した未来年表と島根大学作成の未来年表を交換し、中央と地方、大学生と社会人といったコントラストの強い環境下で、「未来」や「環境：気候変動」をテーマとした交流事業に取組んだ。

<sup>4</sup> 株式会社博報堂の東京本社に勤務する社員のうち、島根に縁のある社員によって結成された「島根を応援するプロジェクト」

## c. COC 人材育成コース生プロジェクト

昨年度より、COC 人材育成コースの準正課教育の一つとして「COC 人材育成コース生プロジェクト」を立ち上げた。これは、これまでの未来づくりセミナーのような座学・演習型の内容だけでなく、地域から実際に持ち込まれる悩みに対し、コース生がその解決を行い、その伴走を地域未来協創本部の教員が行うものである。今年度すでに実績が確定したプロジェクトを中心に簡単に取組みを報告する。

名称：	COC 吉田プロジェクト	時期：	4月～2月
提携先：	株式会社吉田ふるさと村	参加学生：	遠藤志乃・中平鈴乃・原 亜海 西尾紗恵・正木那央
担当教員：	高須佳奈（地域未来協創本部）		
概要：	吉田ふるさと村の地域資源を活用した商品「おたまはん」のパッケージリニューアル等リブランディングに資する企画を提案する。提案に当たっては、提携先へのヒアリング・工場見学のほか、主要取引先小売メーカー（本社東京）でのヒアリングを含め、現状ではまだ取り組まれていない PR 戦略を提案する。		
結果：	● 昨年度から検討を重ねて企画した PR 戦略について、本年度 11 月の系列宿泊施設のグランドオープンに合わせ、吉田ふるさと村の商品である卵かけご飯専用しょうゆ「おたまはん」のミニサイズの容器や新パッケージのデザインを作成し、実際に商品として販売した。またこのプロジェクトの活動内容について「しまね大交流会 2019」に出展者として参加することで広く周知した。		



しまね大交流会 2019 出展時の様子

新デザインの「おたまはん」を  
宿泊施設にて販売

2

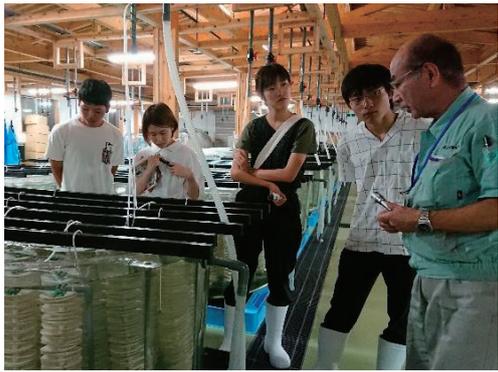
3

4

5

6

第2部

名称：	海士いわがきプロジェクト	時期：	4月～3月
提携先：	海士いわがき生産株式会社 海士町	参加学生：	勝部裕三郎・永田清正・三島隼人・笹岡由嗣・中村諒一・神田侑汰・渡邊由渚・藤井美紀・永瀬友真・泉佑樹・大谷健悟・木畑凜多郎
担当教員：	高須佳奈（地域未来協創本部）		
概要：	海士町が誇る地域ブランド商品「いわがき春香」の生産現場では、人口減少に伴う慢性的な働き手不足に陥っている。加工現場の機械化など海士町の支援も行われているものの実装には数年を要することから、当該年度の冬季～春季にかけての加工・出荷最盛期に学生らが働き手としてこの問題解決にあたった。同時に、過疎地における1次産業の現状と地域ブランド商品をめぐる問題点を調査し、その問題を解決するための戦略として広報誌の制作に取り組むもの。		
結果：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 島根大学が全学的に推進する連携自治体との協働事業「じげおこしプロジェクト」にも認定され、地域ブランド商品「いわがき春香」について、海士町が抱える問題の解決を行った。</li> <li>● 4月に東京視察を行い、オイスターバーにてバイヤーのいわがき春香の評価や、店頭で春香を食する客にその感想を取材。</li> <li>● 8月に海士町にて養殖場や稚貝センターなどの関連施設を取材。</li> <li>● 2～3月に、海士町に滞在し繁忙期を迎える加工場を支援。滞在中に海士町の「人」を訪れ、「いわがき春香」の周辺の魅力を掘り起こし、今年度の取材活動を総括した令和元年度版フリーペーパーを制作予定。</li> </ul>		
			
	東京視察（4月）		稚貝センターの取材（8月）

名称：	COC 駅魅力化プロジェクト	時期：	6月～1月
提携先：	JR 西日本米子支社	参加学生：	酢谷大洋・三浦彩花
担当教員：	高須佳奈（地域未来協創本部）		高梨百香・水津智翔
概要：	JR 西日本が進める無人駅の在り方の見直し事業について、地域フィールドワークなどを行い、当該事業のよりよい在り方を模索・検討する。今年度プロジェクトでは、江津市の都野津駅を対象とし先行事例調査などもふくめ、駅の在り方を地域とともに考えていく必須スキームを抽出し、具体的検討事例と合わせて江津市および JR 西日本に提案する。		
結果：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 江津市の無人駅である都野津駅に対し、地元の高校生と連携しつつ駅の現状分析と利用者の問題認識に沿った施設利用の可能性について検討・提案を行い、その一環として無人駅を一日映画館として活用する試みや、地域住民と都野津駅の活用可能性を探るワークショップを行った。これらの試みの結果や集まったアイデアを踏まえ、駅を核とした地域振興策を江津市と JR 西日本に提案した。</li> </ul>		



江津高校の生徒および JR 西日本米子支社の若手社員とのワークショップの様子



都野津駅でのフィールドワークの様子

2

3

4

5

6

名称：	COC カエルプロジェクト	時期：	10月～1月
提携先：	島根県教育委員会	参加学生：	三好亜美・遠藤未央 岡田莉沙・岸本千佳 吉岡優希・吉田愛・中村友香 他ゲスト(補助)20名
担当教員：	高須佳奈(地域未来協創本部)		
概要：	県内高校生のキャリア教育の充実を目的として、しまね大交流会で、島根県教育委員会の事業として地元高校生を対象にしたキャリア教育イベント(p.48)を企画し実行する。実行までのプロセスで、ヒアリングスキルや文章表現力をOJT方式で修得する。		
結果：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 松江近辺だけでなく、遠方からは隠岐島前や境高校(境港)など、島根県を中心とした山陰地域から16高校、計356名の高校生が集結した。</li> <li>● 参加した高校生について、「進路や目標の不安に対して前向きに取り組んでいこうとする発言が見られた」「非常にバラエティに富んだ大人の方の話を受けて、いい刺激になった」等、現在や将来のことについてポジティブな考え方の変化が見られたという声があった。</li> </ul>		
			
	ミーティングの様子	高校生向けセミナーの様子	

#### d. COC 人材育成コース生の就職状況

地域貢献人材育成入試によって入学した COC 人材育成コース生が、本年度初めて卒業年度を迎えた。鳥取・島根で活躍することを志すとして入学した本コース生は、**約 90%が山陰両県へ定着**した(松江キャンパスコース生のうち就職希望者 21 名を対象とした内定状況調査：令和 2 年 1 月末現在)。また、**島根県への就職率は 52.6%**と例年 30%前後の島根大学の地元就職率に比べて高い数値となった。

## (2) 島根県立大学・島根県立大学短期大学部

島根県立大学及び同短期大学部では、地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)において、平成25年度から5年間にわたって全学で「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業に取り組み、当該事業の一環として平成27年度に「しまね地域マイスター認定制度」を開設した。平成30年度には、先行して本制度の運用を開始した総合政策学部から第1期修了生8名を輩出し、令和元年度には計8名(総合政策学部6名、看護栄養学部2名)が認定された。今後も全学的に認定者を輩出できるよう、以下の取り組みを継続して実施する。

### ①「しまね地域共生学入門」(3キャンパス共通・1年生必修科目)

3キャンパス間で講義中継システムを活用し、遠隔講義形式による「しまね地域共生学入門」を開講した。学外から久保田章市浜田市長や島根県政策企画監室職員を講師として招き、全1年生が地域課題に対する実践的な取り組みについて理解を深めた。

### ②「地域課題総合理解」(浜田・出雲キャンパス合同科目)

令和元年6月22日～23日に、浜田及び出雲キャンパス合同科目「地域課題総合理解」を1泊2日の集中講義形式で開講した。「島根県における防災・減災を目指した課題とその対策」をテーマに、マイスターを目指す受講者50名(浜田4名、出雲46名)が、昨年度受講生のSAから助言を得ながら、演習形式で討論や報告を行った。

### ③「地域共生演習」(浜田キャンパス)

総合政策学部では、マイスター課程のレベルアップを図り「地域共生演習」において「中間・進捗状況報告会」(2・3年生対象。令和元年11月6日開催)、「最終報告会」(4年生対象。令和元年12月4日開催)を、学外の協力機関にも案内の上開講した。学生の調査・研究にあたっては、地域の様々な方のご助力を必要としており、例えば、災害対策をテーマにした学生は、関係機関へのヒアリングや大田市全域の住民を対象にしたアンケート調査を実施し、市民、市役所、消防本部、社会福祉協議会の方々の多大なご協力を賜った。



中間・進捗状況報告会



最終報告会

### ④「KENDAI 縁結びフォーラム」(全学・成果発表)

令和2年2月20日に、全学における研究活動成果発表の場でもある「KENDAI 縁結びフォ

ーラム」(参加者数 250 名)で、「しまね地域マイスター論文完成後の研究発表」及び最優秀賞並びに浜田市長賞の表彰式を挙行政、学内外に広く研究活動成果を発信した。

当該フォーラムにおいては、「学生の石見地域研究事業成果報告会」(主催：島根県西部県民センター)も開催され、大田市における地域経済活性化と若年者層の定住促進に対する取り組み等についての成果報告があった。



KENDAI 縁結びフォーラムの様子



KENDAI 縁結びフォーラムの様子

(3) 松江工業高等専門学校

松江工業高等専門学校では、本 COC+事業内で教育改革を推進している。その基本理念は「地域課題を知る」「問題解決力を身につける」「社会貢献を可能とするエンジニアを育成する」の3点であり、地域志向エンジニア育成プログラムを構築している。図 1-1-4 に、そのカリキュラムイメージを示す。

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科
<b>【講義科目】</b>							
ふるさと産業学 地域産業とエンジニア COC+大学連携(講義)	1科目 1科目 随時		●	↔	↔	★	
<b>【演習科目】</b>							
PBL手法を用いた創造演習 エンジニアリングデザイン演習 アクティブ・ラーニング(演習)	5科目 1科目 随時	↔	↔	↔	↔	↔	↔
<b>【実践科目】</b>							
地域インターンシップ COOP型研究	1科目 随時				↔	↔	↔
<b>【社会活動】</b>							
企業見学ツアー ものづくりイベント COC+大学連携(社会活動)	随時 随時 随時		↔	↔	↔	●	●

図 1-1-4 : 「地域志向エンジニア育成プログラム」カリキュラムイメージ

2

3

4

5

6

地域志向エンジニア育成プログラムの構成要素として、講義科目「ふるさと産業学（3年生）」「地域産業とエンジニア（4年生）」、演習科目「創造演習（PBL）」「エンジニアリングデザイン演習（本科全学科および専攻科）」、実践科目「地域インターンシップ」およびCOOP型研究に取り組んでいる。また、社会活動として前項の企業ツアーのほか、地域の市民を対象としたものづくりイベントを行っている。本報告書では、前述の各種教育のうち、COC+事業の経費で取組んでいる講義科目および演習科目について報告する。

#### ① 講義科目「ふるさと産業学」・「地域産業とエンジニア」

地域志向の授業科目として、「ふるさと産業学」（3年生後期）と「地域産業とエンジニア」（4年生後期）を開講した。

3年生の「ふるさと産業学」では、低学年の段階で地域の産業や課題について学ぶこと、専門基礎を身につけることを主眼とした。地域の産業や課題を学ぶ過程では、地域の産業だけではなく地域の魅力や特徴などを知ることが重要と捉え、奥出雲地域における「たたら製鉄」などの文化歴史的な視点と製鉄の歴史などの産業について理解を深めた。安来地域の産業に関する工場見学（2社）も実施した。



ふるさと産業学：フィールドワーク①



ふるさと産業学：フィールドワーク②



地域産業とエンジニア：講演風景①



地域産業とエンジニア：講演風景②

4年生の「地域産業とエンジニア」においては、5学科63名の学生が履修し、地域に関連した企業や今後の産業について外部講師を招き、毎週講義を行った。外部講師の一覧を表1-1-8に示す。

表 1-1-8：「地域産業とエンジニア」令和元年度外部講師（敬称略）

株式会社バイタルリード 代表取締役	森山 昌幸
島根県産業振興アドバイザー	矢野 仁
島根県産業技術センター 所長	辰野 恭市
株式会社藤井基礎設計事務所 代表取締役社長	藤井 俊逸
協栄金属工業株式会社 代表取締役社長	小山 久紀
株式会社トリコン 代表取締役	上田 康志
日立金属株式会社 冶金研究所 特殊鋼研究部	北川 貴一
株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役	出川 通
日本防災士機構 特任アドバイザー	大庭 誠司
株式会社アイ・コミュニケーション 代表取締役	目次 真司
国立研究開発法人 土木研究所 上席研究員	新田 恭士

この「地域産業とエンジニア」の授業では、地域産業に精通した学外の講師を招聘し、多彩なテーマについての講演を行うことで、地域産業の現状や今後の展開に関する新規性のある話題を受講学生に提供することを目的としている。なお、本授業は学生の正規の授業として実施するとともに、一般市民等にも公開し、学生のみならず地域企業・地域社会への教育的効果が期待できるカリキュラムを構築することで、地域の高等教育機関としての新たな役割を模索している。

#### ② 演習科目：「創造演習（PBL）」・「エンジニアリングデザイン演習」

全学科の実験実習や演習に、課題解決型の設計製作演習やフィールドワークなど、地域課題を取り入れたPBLを実施した。テーマに地域課題を取り入れる工夫を行うことで、地域志向を育む相乗効果を狙うとともに、課題解決能力の育成を目的としている。高学年・専攻科では、地域に自ら出向き、課題探索とその解決を検討する「エンジニアリングデザイン演習」などを実施した。



演習の様子①（電子制御工学）



演習の様子②（機械工学科）

### ③ 地域インターンシップおよび地域研究を実現するための基盤構築

高い技術力をもつ地域の企業や工場，各学科に関連した企業の見学を実施し、地域について学ぶ機会を創出した。地域企業へのインターンシップには昨年度と同じ 130 名の学生が参加した。



企業見学（株式会社キグチテクニクス）



インターンシップ報告会

以上、地域未来創造人材の育成については事業計画を着実に実行できた。

2

3

4

5

6

## 第2章 しまね大交流会

しまね大交流会とは、島根県及び鳥取県の産・官・学・金・労・言と市民やNPOが一同に会する機会を創出するプロジェクトである。具体的には、「学び」、「魅力発信」、「イノベーション」の3つを目的に企画している。具体的には、「低学年次の学生」には、地域の「ひと」から直接学ぶキャリア教育の場として、「高学年次の学生」には、学びや研究成果の発表の場として、そして、「地域ステークホルダー」には、それぞれの魅力を発信すると共に広い交流の場として機能することを目的としている。

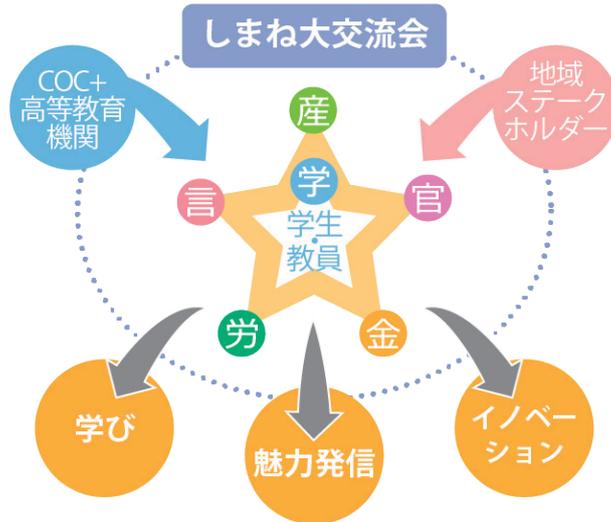


図 1-2-1：しまね大交流会の取組イメージ

この事業を実施するにあたり、事業協働機関とともに実行委員会を設け、企画・運営を行っている。参加学生数は年々増加しており、学生ニーズにマッチした取組となっているといえる。一方、しまね大交流会の機会を利用し、取組自体の満足度を問うだけでなく、学生自身のキャリアデザインにおける潜在的ニーズを掘り起こすことで、学生・地域双方によりよい価値を創出できるよう努めている。本章では、このしまね大交流会について以下の項目の順に報告する。

- 2-1. 実行委員会開催報告
- 2-2. 開催結果
- 2-3. 参加者アンケート調査および結果・分析
- 2-4. 関連して実施した取組みの結果・分析

なお、開催にあたって準備した文書類やチラシ、開催記録写真などは、まとめて本事業ホームページにアーカイブ<sup>1</sup>しているので、適宜参照いただきたい。

<sup>1</sup> [http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project02/prj02\\_list/](http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project02/prj02_list/)

2-1. 実行委員会開催報告

開催準備にあたり、「しまね大交流会 2019 実行委員会」を組織し、実行委員会を開催した。開催場所は島根大学と島根県立大学浜田キャンパス、松江工業高等専門学校をTV会議システムにて中継した。実行委員の一覧を表 1-2-1 に、委員会の開催を表 1-2-2 に示した。

表 1-2-1：しまね大交流会 2019 実行委員会 委員一覧

■委員		
役 職	氏 名	備 考
島根大学地域未来協創本部本部長	秋重 幸邦	理事（学術研究・イノベーション創出担当）
島根大学地域未来協創本部副本部長	佐藤 利夫	実行委員長
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門長	松崎 貴	
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門 地域人材育成マネージャー／講師	高須 佳奈	
島根大学COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	
島根大学COC+キャリアプランナー	赤藤 明彦	
島根大学COC+キャリアプランナー	三浦 大紀	浜田会場
島根大学地域未来協創本部産学連携部門／准教授	服部 大輔	
島根大学教育・学生支援機構大学教育センター／講師	田中 久美子	
島根県立大学事務局次長	中澤 信善	浜田会場
島根県立大学キャリア支援室長	依 正光	浜田会場
松江工業高等専門学校 校長補佐（研究担当）	堀内 匡	
島根県政策企画局政策企画監室 企画員	伊藤 剛	
島根県商工労働部雇用政策課 若年者就業支援グループ グループリーダー	伊藤 暁通	
島根県教育委員会	立石 祥美	
島根県西部県民センター 商工観光部 商工振興課 課長	穴倉 広樹	浜田会場
中海圏域就業支援連携事業推進協議会事務局 松江市産業経済部定住企業立地推進課定住雇用推進係長	土江 充	
しまね産業振興財団 業務執行理事（兼）事務局長	馬庭 伸行	
ふるさと島根定住財団 ジョブカフェ事業課長	太田 俊介	
ふるさと島根定住財団 石見事務所 企業連携スタッフ	山藤 美幸	浜田会場
島根県商工会議所連合会 事務局長	高尾 健司	
島根県商工会連合会 事務局長	越後 伸一	
島根県中小企業団体中央会 事務局長	荒田 裕司	
島根経済同友会 事務局長	富田 芳光	
山陰合同銀行地域振興部 地域振興グループ長	田村 剛	令和元年10月～
■委員以外の出席者（陪席含む）		
役 職	氏 名	備 考
島根大学 地域連携・研究協力課 地域連携推進グループ 課長補佐	長廻 徹	
島根大学 地域連携・研究協力課 地域連携推進グループ	北川 翼	
島根県商工労働部雇用政策課 若年者就業支援グループ 主任	石橋 寛基	
島根県立大学 人間文化学部 講師	中野 洋平	
島根県人材確保育成コーディネーター	藤本 朗	※大学との連携担当
島根県人材確保育成コーディネーター	山藤 美之	浜田会場
島根県人材確保育成コーディネーター	内藤 正裕	浜田会場
島根県人材確保育成コーディネーター	西藤 昌裕	浜田会場
ふるさと島根定住財団 ジョブカフェ事業課 (島根県教育委員会 地域教育推進室キャリア教育スタッフ)	伊藤 尚子	
島根県総務部総務課 私学・県立大学室 主任主事	平野 真太郎	

表 1-2-2 : しまね大交流会 2019 実行委員会開催一覧

	実施日時	議事内容
第1回	4月15日(水) 13:30~14:30	1) しまね大交流会2019 スケジュールについて 2) しまね大交流会2019 開催要項及び出展要領について 3) しまね大交流会2019 出展料徴収の是非について 4) しまね大交流会2020 開催候補日について 5) その他
第2回	6月20日(木) 14:00~15:30	1) しまね大交流会2019 開催要項・出展要領・出展規約について 2) しまね大交流会2019 出展者の募集について 3) しまね大交流会2019 当日プログラム(案)について 4) しまね大交流会実行委員会会則(案)等について 5) しまね大交流会2020 開催候補日について 6) その他
第3回	7月26日(金) 14:00~15:30	1) 出展申込状況について 2) 企画(案)について 3) チラシ(案)について 4) その他
第4階	8月29日(木) 10:00~11:30	1) 出展者の決定について 2) 出展者向け説明会について 3) ブース配置(案)について 4) ガイドブックの検討について 5) 広報について 6) 当日運営の検討について 7) その他
第5回	10月3日(木) 15:00~16:30	1) ブース配置の決定について 2) ガイドブックの決定について 3) 出展マニュアルの決定について 4) アンケートの検討について 5) 当日運営について 6) その他 出展者向け説明会・ワークショップの開催結果について 出展情報について
第6回	11月5日(火) 14:00~15:30	1) 来場者の集客見込数について 2) 各企画の準備状況について ・出展者交流会について ・高校生向けセミナーについて ・高大センバツローカルアクション展について ・大人向けセミナーについて 3) 来場者への配布物について 4) 当日の運営について 5) その他
第7回	1月16日(木) 15:30~17:00	1) しまね大交流会2019開催結果概要について 2) 来年度に向けた課題について 3) 今年度実績・来年度予算について 4) その他

2-2. 開催結果

しまね大交流会 2019 を以下の通り開催した。進行に合わせ、出展ブースへの投票ワークや、スタンプラリー、大抽選会などを実施した。

日時：	令和元年 11 月 16 日(土) 【メイン開催時間】 13:00～17:00 9:00～ 出展準備 11:00～ 出展者交流会 13:00～ オープニング (挨拶・プログラムとアプリ使い方説明) 13:10～ 1st ステージ (自由な観覧・出展者による3分間プレゼン) 14:00～ 2nd ステージ (自由な観覧) 15:00～ 3rd ステージ (出展者による3分間プレゼン) 16:00～ クロージング (大抽選会・ベストブース賞発表・閉会行事)
	 <p>交流会開催チラシ</p>
会場：	くにびきメッセ大展示場 (〒690-0826 島根県松江市学園南1丁目2番1号)
主催：	しまね大交流会実行委員会・島根大学
共催：	島根県立大学・島根県立大学短期大学部・松江工業高等専門学校・島根県・島根県教育委員会
協賛：	中海圏域就業支援連携事業推進協議会 (松江市・米子市・安来市・境港市)
後援：	島根県市長会・島根県町村会・島根労働局・しまね産業振興財団・ふるさと島根定住財団・島根県商工会議所連合会・島根県商工会連合会・島根県中小企業団体中央会・島根経済同友会・島根県中小企業家同友会・島根県経営者協会・山陰合同銀行・山陰中央新報社・新日本海新聞社・島根日日新聞社・TSK 山陰中央テレビ・日本海テレビ・BSS 山陰放送・NHK 松江放送局・山陰ケーブルビジョン・中海テレビ放送・島根職業能力開発短期大学校・中国財務局松江財務事務所

全参加者の内訳および出展者の内訳は表 1-2-3、1-2-4 の通りであった。

表 1-2-3：しまね大交流会 2019 参加者内訳

		2015	2016	2017	2018	2019
「若者」	島根大学		523	710	709	<b>659</b> (昨年度比 93%)
	島根県立大学（浜田）		106	130	115	<b>99</b> (昨年度比 86%)
	島根県立大学（松江）		34	72	99	<b>179</b> (昨年度比 180%)
	松江工業高等専門学校		35	115	144	<b>102</b> (昨年度比 71%)
	島根職業開発短期大学校		-	50	46	<b>49</b>
	その他の大学・高専		-	9	8	<b>12</b>
	その他専門学校等		-	6	2	<b>2</b>
	高校生		-	81	342	<b>614</b>
	小・中学生		-	5	3	<b>3</b>
	その他			9	13	<b>3</b>
	小計：		約700名	1187名	1481名	<b>1722名</b>
「大人」	地元企業・団体関係者【出展】			518	559	<b>509</b>
	地元企業・団体関係者			144	188	<b>171</b>
	大学・高専等教職員【出展】			109	106	<b>127</b>
	大学・高専等教職員			152	157	<b>148</b>
	小・中・高候の教員			7	44	<b>61</b>
	学生・生徒の保護者			8	10	<b>17</b>
	その他			46	77	<b>52</b>
	小計：		900名	983名	1141名	<b>1085名</b>
合計		約1100名	約1600名	2170名	2622名	<b>2807名</b>

表 1-2-4：しまね大交流会 2019 出展団体内訳

出展者		2015	2016	2017	2018	2019
地元企業・自治体等 出展者数	企業	74	121	126	142	<b>142</b>
	自治体	40	19	15	13	<b>12</b>
	NPO	11	5	2	1	<b>1</b>
	その他団体	12	11	12	10	<b>5</b>
	小計：	137	156	155	166	<b>160</b>
大学・高専等 出展者数	島根大学	76	58	38	33	<b>30</b>
	島根県立大学（浜田）	8	3	6	3	<b>6</b>
	島根県立大学（松江）	5	5	5	2	<b>3</b>
	松江工業高等専門学校	11	6	3	3	<b>4</b>
	島根職業能力開発短期大学校			1	1	<b>1</b>
	その他の大学・高専			1		<b>2</b>
	小計：	100	72	54	42	<b>46</b>
合計		237	228	209	208	<b>206</b>

●記録写真

開催時の記録写真から抜粋して掲載する。記録写真は本事業 Web サイトにフォトアーカイブとして多数報告した<sup>2</sup>のでそちらも参照されたい。



会場準備の様子



オープニング



会場全体の様子



学生出展（島根県立大学）



学生出展（松江工業高等専門学校）



学生出展（島根大学）



企業展示の一例



ベストブース 1～3位 記念撮影

<sup>2</sup> [https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project02/prj02\\_list/report\\_2019/](https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project02/prj02_list/report_2019/)

### 2-3. 参加者アンケート調査および結果・分析

しまね大交流会 2019 開催当日、参加者（学生・一般）アンケートを実施した。冊子ページ数の都合から、本報告書ではアンケート結果のうち、特に本事業全体の推進に対し、示唆を含む内容について抜粋して報告をする。より詳細な調査結果は、Web サイトにアーカイブしているので適宜参照されたい<sup>3</sup>。

#### (1) 調査概要

- ・調査対象：しまね大交流会 2019 に参加した学生参加者および出展者
- ・標本数：アンケート回収枚数として表 1-2-5 に示す。
- ・配布及び回収方法：しまね大交流会参加受付時に関連資料と共に配布を行い、退場時に出口にて運営スタッフが回収を行った。
- ・集計及び分析：島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門

表 1-2-5：アンケート回収枚数

	回収数	全数	回収率
参加学生アンケート	520	1722	30%
出展ブースアンケート	178	206	86%

#### (2) 参加学生アンケート結果の概要

参加学生アンケートへ回答した学生の内訳は表 1-2-6 の通りとなった。

表 1-2-6：参加学生アンケート回答者の内訳

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	島根大学	226	43.5	45.1
	松江高専	51	9.8	10.2
	県立大学・同短期大学部	149	28.7	29.7
	その他大学・高専	9	1.7	1.8
	高校	55	10.6	11.0
	専門学校・その他学校	11	2.1	2.2
	合計	501	96.3	100.0
欠損値	無回答	19	3.7	
	合計	520	100.0	

<sup>3</sup> <https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/e0cf490e57a94424fda3867def269607.pdf>

学生の参加のきっかけは何か

参加者のメインターゲットである学生が、何をきっかけに本交流会に参加したのかを質問したところ、結果は表 1-2-7 の通りとなった。

表 1-2-7：学生の参加のきっかけ（重複回答可）

項目（重複回答可）	度数	全数に対する割合
1.興味があったから	132	25.6%
2.講義の一環として	332	64.5%
3.友人や知人等に誘われて	35	6.8%
4.家族のすすめ	0	0.0%
5.出展者として参加	19	3.7%

有効回答数 N=515

本交流会が学生のキャリア教育に価値ある取組として効果が検証されたのは平成 28 年度の本交流会のアンケート結果の考察を行ってからである。各高等教育機関におけるキャリア系授業科目などに、本交流会を効果的に組み込む体制が整いつつあることから、「講義の一環として」参加したという学生が 64.5%と過半数を超えている。自発的な参加意志のある学生を尊重するのは当然だが、大交流会はマーケティングでいう「イノベーター」や「アーリーアダプター」など意識や感度が高層の学生だけでなく、「マジョリティ」に対する打ち手として機能させるところにも意義がある。次項に示す学生満足度や有用感を背景に、イベントの教育効果に対する信用度があることで、講義の一環や学部レベルでのキャリア教育への活用が可能になっており、この点が本取組の成功の要となっている。

参加学生の満足度

参加学生の満足度について質問した結果を図 1-2-2 に示す。本交流会の満足度を示す値として、「とても満足している」と「ある程度満足している」の合計は約 96%となった。

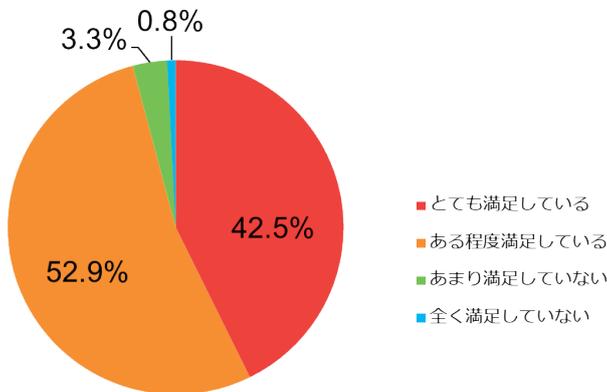


図 1-2-2：本交流会に対する参加学生の満足度（N=510）

## 参加学生の意識変化

本交流会に参加した学生が、次の①～⑤の各項目についてそれぞれどのような意識変化があったかを質問した。各項目の結果を図1-2-3に示す。

- ① 島根・鳥取の企業・団体・自治体の魅力
- ② 企業等の職場見学への興味関心
- ③ インターンシップ先としての島根・鳥取の魅力
- ④ 出展団体にインターンシップに行く意欲
- ⑤ 生活の場としての島根・鳥取の魅力

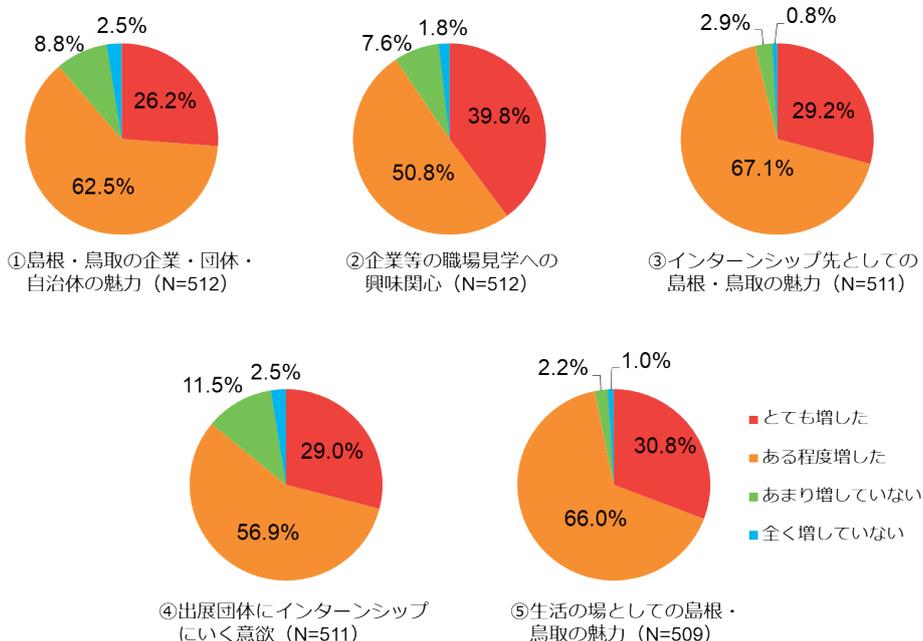


図 1-2-3：本交流会の参加学生の意識変化

すべての項目において、昨年度と同様にポジティブな意識変化があった学生が 90%を超える結果となった。とくに、項目②の企業等の職場見学への興味関心は、「とても増した」と回答した割合が約40%に上ったこと、また、項目③のインターンシップ先や、項目⑤の生活の場としての魅力については、「ある程度増した」と「とても増した」の合計がいずれも95%を超える高い数値となっている。一方、項目④の出展団体にインターンシップに行く意欲については、ポジティブな変化割合が他の項目と比べてやや低かった。学生らが感じた魅力の増加＝関心度の向上を、「さらに企業等を知るための行動」に円滑につなげていく仕組みを工夫することが、例えば地域でのインターンシップ人数の増加に有効に働くものと考えられる。

### 参加学生自身のキャリアデザインに対する本交流会の有用感

本交流会は、一昨年度よりキャリア教育の場として設計しているが、その主体である参加学生が、自身のキャリアデザインに対して、本交流会がどの程度役立つと感じているかを質問した。その結果を図1-2-4に示す。

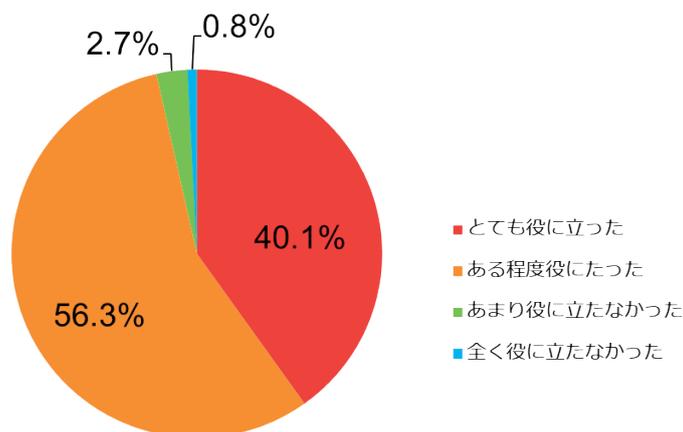


図1-2-4：参加学生自身のキャリアデザインに対する本交流会の有用感（N=501）

本交流会の有用度を示す値として「とても役に立った」と「ある程度役に立った」を合計したところ、96%となった。

### 参加学生の感想や要望

アンケートに記載された自由記述による感想を次に抜粋する。

- 自分の知らない分野の企業について多く知ることができた。
- 企業の理念や活動から地域と企業団体のつながりが見えた。
- 自分の関心がある業界以外の企業の話聞いて視野を広げることができたと思う。
- 自分の学科ではあまり関わることはないであろう会社の話も聞いた。
- 知っている企業はより深く、知らない企業は新しいことを知ることができた。
- 知っている企業、知らない企業、自治体や大学などいろいろな話が聞けたから。
- こんな田舎から世界へ広がる仕事をしている企業がたくさんあって驚いたから。
- これから社会に出ていく中で、自分には足りないものや考え方など多くの発見があった。
- 業界研究に役立った。企業の人とお話することが楽しかった。
- いろいろな会社が地域に貢献していることが分かって、今後島根で働くことに興味がわいた。
- 今まで興味のなかった職種にも興味を持つことができた。
- あまり知らない分野の企業について知れた。

参加学生らは、いわゆる就活系のイベントと違い、自由に出展者と交流できる環境に良さや魅力を見出し、自発的な行動が促進されたことで、全体的な高い満足度を得る結果に至ったと考えられる。一方で、意欲的な参加者としては改善を要すると思われる要望や意見がいくつかみられた。

- 以前参加した時から出展されている企業さんが大きく変わっていないように感じました。しかし、今まで気づかなかった魅力ある企業さんに気づくことができたので、インターンシップに参加したいという意欲がわきました。
- 3分間プレゼンのスタートが企業によってバラバラでよくわからなかった。
- 高校生向けセミナーのような大人の人と深い対話ができる時間がもっと欲しかった。
- 生物系だと判断してITや建設の仕事内容、工夫しているところを1つも教えてくれず、門前払いだったところが残念だった。インターンや就職するかは別として企業として何をしているかぐらい聞きたかった。
- 大学生向けのセミナーが欲しい。
- ブースにQRコードがあれば意見を書きやすい。

これらの要望・意見については、次年度の大交流会の企画改善に活かすとともに、しまね協働教育パートナーシップの登録団体研修会などで情報提供をしていくこととする。

### (3) 出展者アンケート結果の概要

#### 出展者の満足度

出展者の満足度について質問した結果を図 1-2-5 に示す。満足度は 94%となり、これまで同様高い水準を維持できた。

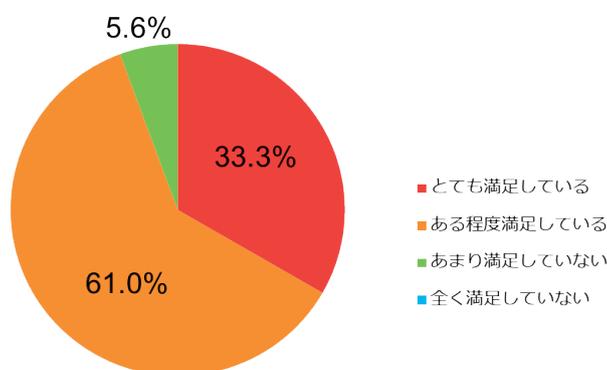


図 1-2-5：本交流会に対する出展者の満足度 (N=177)

(4) 出展ブースにおける交流状況に関するアンケート結果について

本交流会のアンケートは、参加学生と出展者それぞれを対象として実施しているが、「参加学生は、出展者からどのような情報を聞きたくて交流をしたのか」、一方「出展者はどのような話題を参加学生に提供しようとしたのか」を明らかにする設問を設定した。その結果は表 1-2-8 および表 1-2-9 の通りとなった。

表 1-2-8：参加学生の出展者との交流状況

	聞こうと思っていなかった	聞きたかったが聞けなかった	聞くことができた	聞くことができ印象に残った	情報を収集した学生の割合	2018 (参考値)	2017 (参考値)
業務、製品、サービス (N=502)	7.4 %	4.4 %	61.2 %	27.1 %	88.3 %	88 %	88 %
インターンシップ (N=504)	20.2 %	9.1 %	52.0 %	18.7 %	70.7 %	61 %	54 %
職場の魅力 (N=503)	7.0 %	5.0 %	53.9 %	34.2 %	88.1 %	85 %	74 %
地域・社会貢献やイベント (N=503)	12.5 %	7.0 %	55.7 %	24.9 %	80.6 %	79 %	82 %

表 1-2-9：出展者が参加学生との交流で話題にした内容

		話題にしなかった	話題にしたかったができなかった	話題にした	話題にしたところ好評だった	積極的 発言姿勢
業務、製品、サービス (N=151)	企業・団体等	1.7%	0.8%	66.4%	31.1%	97.5%
	自治体等	15.4%	0.0%	46.2%	38.5%	84.6%
	教育機関	15.8%	0.0%	57.9%	26.3%	84.2%
インターンシップ (N=151)	企業・団体等	10.1%	4.2%	71.4%	14.3%	85.7%
	自治体等	71.4%	0.0%	21.4%	7.1%	28.6%
	教育機関	77.8%	5.6%	16.7%	0.0%	16.7%
職場の魅力 (N=150)	企業・団体等	13.7%	8.5%	58.1%	19.7%	77.8%
	自治体等	14.3%	0.0%	57.1%	28.6%	85.7%
	教育機関	42.1%	0.0%	31.6%	26.3%	57.9%
地域・社会貢献や イベント (N=152)	企業・団体等	35.9%	12.0%	38.5%	13.7%	52.1%
	自治体等	28.6%	0.0%	57.1%	14.3%	71.4%
	教育機関	9.5%	9.5%	42.9%	38.1%	81.0%

学生が情報収集した主な内容は、業務・製品・サービスに関することと、職場の魅力に関することの割合が高く、これらについて出展者側も力を入れて情報発信したことが見て取れる。ただし、詳しく見ると、特に企業等の出展者においては、職場の魅力の発信度合いがやや弱く、この点は学生ニーズへの対応に余地があり改善ができる点である。また、今年度は冬～春期インターンシップの広報の強化をしたことにより、インターンシップについて情報を収集した学生の割合が前年度より 10%増えた。これに対し、実際にインターンシップ受入先となる企業の出展者は、約 86%がその情報を提供しており、学生と企業間のコミュニケーションのズレが少なくなっている。

## 2-4. 関連して実施した取組みの結果・分析

以下に、しまね大交流会に関連して実施した取組みの成果について報告する。

### ① 高校生向けセミナー／高大センバツローカルアクション展

第1章で報告した、COC人材育成コース生の準正課教育として実施しているCOCプロジェクトのうち「カエルプロジェクト」の企画として、島根県教育委員会とともに、高校生を対象としたセミナーを、当日午前中に多目的ホールにて開催した。29名の島根に関わりのある大人たちが、29組のピクニックシートに分かれ、12～13名の高校生およびサポート役の大学生らに対し、「人生の航海図：自分の生き方・失敗談・これからしたいと思うこと」などについてレクチャーを行った。この29名の大人は、COC人材育成コース生の1・2年生が中心となって、アポイントメント取りや直接取材の調整などを行い、29名の様々な分野で活躍する大人の参加を得ることができた。当日は松江近辺だけでなく、遠方からは隠岐島前高校（海士町）や境高校（鳥取県境港市）など、島根県を中心とした山陰地域から16高校計356名の高校生が参加し、高校教員等も合わせると400名以上の参加者となった。

参加高校生のイベント満足度をアンケート形式で調査したところ、結果は図1-2-6の通りとなった。満足度（「とても満足している」と「ある程度満足している」の合計値）は98.8%と非常に高いものになり、なかでも6割を超える高校生が「とても満足している」と回答しており、参加者ニーズにマッチした企画戦略を立てることができたものと考えられる。これは、大学生らのプロジェクトチームが、自らが高校生だったころを思い出しながら、高校生に何に気付いてほしいのか、どの不安を払拭したいのか、など、問題の所在を明らかにし、それを解消するための手立てを構築・実施するという、課題解決プロセスを地道に実行できたためである。

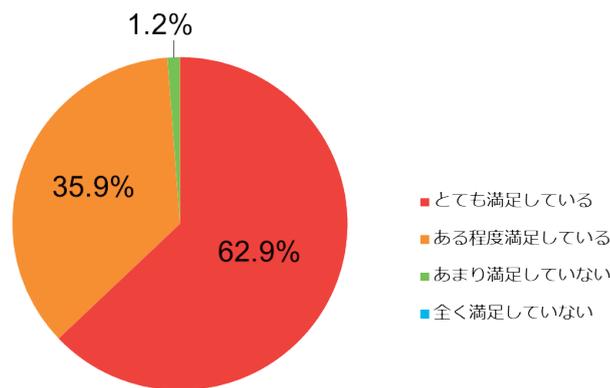


図1-2-6：高校生セミナー参加高校生の満足度（N=334）

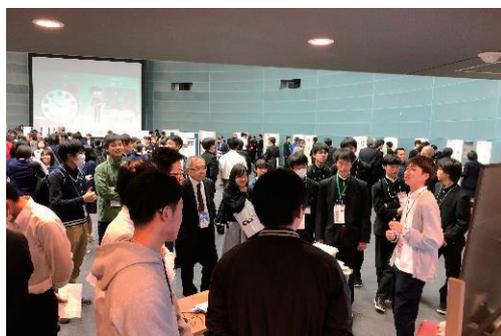
高校生の引率や参観に訪れた高校教員や教育委員会関係者からは、「非常にバラエティに富んだ大人の方をそろえていただき、生徒たちも非常に喜んで話を聞いていましたし、いい刺激にもなった」「今回いろいろな方のお話を聞き、今後の前向きに取り組んでいこうとす

る発言が見られました」という肯定的な声が多かった一方、「各グループでの質問時間が短く、対話が深まらずもったいない感じがした」との次回開催への改善要望も多数あった。

また今年度初めての試みとして、島根県教育委員会とともに「高大センバツローカルアクション展」を多目的ホールにて開催した。島根県内の6つの高校から60グループと島根大学から5グループの合計65グループが、地域に関する課題解決型学習、課題研究やマイプロジェクト等をポスターと5分間のプレゼンテーションで発表し、参加した高校生、大学生、企業や地域の人と意見交換を行った。参加した高校教員からは「校内での発表とは違い、緊張感があり、とてもいい経験になった」「コミュニケーション能力を高めていく場としてとても良いと思った」との声があった。



高校生向けセミナー



高大センバツローカルアクション展<sup>4</sup>

## ②大人向けセミナー

昨年に引き続き「大人向けセミナー」を中海圏域就業支援連携事業推進協議会（松江市、安来市、米子市、境港市）、島根県教育委員会とともに、当日午後小ホールで開催した。「経験者は語る 都会と山陰どっちがいいでショー」と題して、都会と山陰の両方で働いたことがあるUターン・Iターン者4名が都会と山陰での働き方やライフスタイルの違いについて実体験を語るトークセッションを実施した。昨年度、メイン会場の向かいの会場で行ったことで、集客に苦労したことから、今年度は、日本ユニシス株式会社総合技術研究所の厚意で技術提供を受け、顔認証を活用したチケットシステムを試験導入した。結果として、247名に対しチケット発行がなされ（日本ユニシス株式会社総合技術研究所よりデータ提供）、実際に会場に足を運んだ人数は約100名となり、準備した席がほぼ満席となった。セミナーの内容が進路等を考えるうえで参考になったと答えた参加者は93.2%（N=59）となった。本セミナーが想定したターゲットは、高校生の保護者および高校教員等であり、これらのターゲットに対して学校を通じたチラシの配布を行っている。これについて、アンケートの「セミナー開催を知ったきっかけ」の質問項目（複数回答可）に答えた86名の回答者は、「学校から配布された案内文」と答えた割合が39.5%、「チラシ、ポスター」と答えた割合は22.1%、

<sup>4</sup> 写真提供：日本ユニシス株式会社

「先生、家族、友人、知人からの紹介」と答えた割合が11.6%であった。「会場を通りかかったので」と答えた回答者が22.1%だったことから考えると、概ね広報戦略は、主たるターゲットへの訴求に成功したと言えよう。

参加者からは「大人もですが、むしろ高校生にも聞かせたい内容だった」「働いている人の生の声を聞いた」「学生の進路相談の役に立つ可能性もあると感じた」との感想があった。



顔認証を活用したチケット発行



大人向けセミナー（小ホール開催）

### ③技術コミュニティラボ in しまね大交流会

第4章で報告する「技術コミュニティラボ」の取組みの一環として、しまね大交流会の会場で午前中に開催する出展者交流会の時間帯に、島根県における Society5.0 の実現に向けて、島根大学および松江工業高等専門学校の研究者によるライトニングトークをステージにて行った（詳細は第4章を参照）。

本年度のしまね大交流会の成果は以上である。昨年度に引き続き、株式会社博報堂（東京本社）からは、社内の島根にゆかりのある社員で結成された「シマネクストプロジェクト」のメンバーに高校生向けセミナーのスピーカーとして協力いただいたほか、日本ユニシス株式会社総合技術研究所（東京本社）からは、本務としてこの地域で業務を行っていたことがきっかけで、この取組を知り、自らも手伝えることはないかと技術提供を申し出ていただいた。さまざまな年齢や社会的立場の参加者・関係者が会場に集結しているが、その共通点は、島根・鳥取の山陰地域に縁があることである。本取組は、多様な参加者に対し全方的にイベントを展開し、地方で活躍する意味や価値、ひいては地方の持続可能性について皆が考えるイベントへと成長した。2-4で報告したように、関連する取組を提供する団体も増え、それらの団体とは、しまね大交流会実行委員会の場で、企画を議論し、調整する等横の連携強化にもつながった。本取組の価値に関しては、地域の認知度や理解も向上してきており、継続を期待する声も大きい。補助期間終了後も最善のかたちで地域に提供していけるよう、準備を進めていきたい。

# 第3章 しまね協働教育パートナーシップ

しまね協働教育パートナーシッププロジェクトは、県内企業等と県内高等教育機関が人材育成の理念や知識、教育スキルを共有することで、人材育成と人材確保を中核とする互恵関係を構築し、ともに若者の地域への定着促進を図ることを目的としている。



図 1-3-1：しまね協働教育パートナーシップの概念図

本パートナーシップ制度の運用フローは次の通りである。

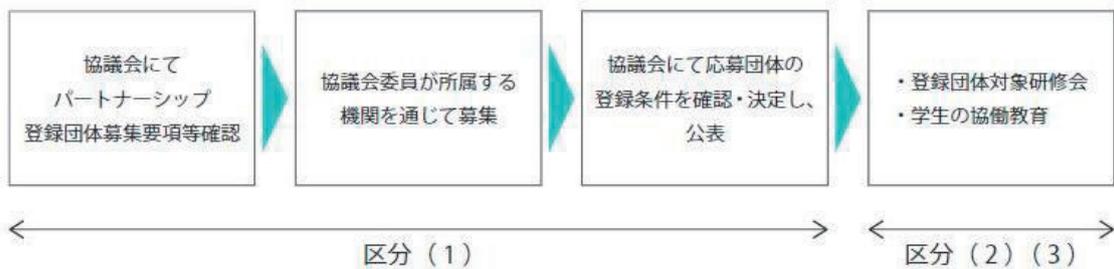


図 1-3-2：しまね協働教育パートナーシップ制度の運用フロー

上図の区分（1）はパートナーシップ制度運用に係る取組、区分（2）はパートナーシップ登録団体を対象とした研修会等の取組、区分（3）はパートナーシップを活用した学生の協働教育に資する取組である。これらについて、本年度は、表 1-3-1 の通り事業を計画し、実行した。この章では、区分（1）および（2）の取組み成果を中心に報告し、（3）については、1 章および 2 章などを参照いただきたい。

表 1-3-1：しまね協働教育パートナーシップ令和元年度取組一覧

日時	内容	区分
2月25日(月) ～4月18日(木)	第6期登録団体募集	(1)
5月22日(水)	インターンシップフェア【於：島根県立大学】	(3)
5月29日(水)	インターンシップフェア【於：島根大学】	(2) (3)
5月～2月	業界・企業見学ツアー *各教育機関実施	(3)
6月28日(金)	第11回(令和元年度第1回)しまね協働教育パートナーシップ推進協議会	(1)
7月1日(月) ～8月31日(土)	第7期登録団体募集	(1)
9月13日(金) 9月18日(水)	登録団体向け研修会「ユーザー理解に基づく自組織の魅力発掘・発信準備ワーク」 【於：島根大学 9月13日(金) / 於：島根県立大学 9月18日(水)】	(2)
9月17日(火)	第12回(令和元年度第2回)しまね協働教育パートナーシップ推進協議会	(1)
9月24日(火)	インターンシップ受入担当者研修会【於：島根県立大学】	(2)
10月上旬～2月下旬	第2期登録団体更新手続き	(1)
10月23日(水)	登録団体向け研修会「短い時間でしっかり伝える！プレゼンと話し方講座&実践」 【於：島根大学】 ※COC人材育成コース生と交流	(2)
11月6日(水)	山陰冬季インターンシップフェア【於：島根大学】	(3)
11月16日(土)	しまね大交流会2019【於：くにびきメッセ】	(3)
2月10日(月)	学生と企業の交流会【於：島根大学】	(2) (3)
2月18日(火)	オールしまね協働教育フォーラム【於：島根大学】	(2)
3月24日(火)	第13回(令和元年度第3回)しまね協働教育パートナーシップ推進協議会	(1)

### 3-1. 制度運用に係る取組

令和元年度しまね協働教育パートナーシップ推進協議会は次の委員で構成されている。

表 1-3-2：しまね協働教育パートナーシップ推進協議会 委員一覧

所属・役職	氏名	備考
島根大学地域未来協創本部長 理事 (学術研究・イノベーション創出担当)	秋重幸邦	会長 オールしまねCOC+事業責任者
島根大学地域未来協創本部 副本部長	佐藤利夫	
COC+推進コーディネーター	池淵昇平	
島根県商工会議所連合会 事務局長	高尾健司	
島根県商工会連合会 事務局長	越後伸一	
島根県経済同友会 事務局長	富田芳光	
島根県中小企業団体中央会 事務局長	荒田裕司	
(一社) 島根県経営者協会 専務理事	森脇健二	
島根県中小企業同友会 参与	岡 一則	
島根県家商工労働部 産業振興課長	松浦土登	
島根県商工労働部 雇用政策課長	川本ゆかり	
島根労働局職業安定部 職業安定課長	大野正幸	
(公財) ふるさと島根定住財団 事務局長	大地本 一到	
島根大学地域未来協創本部 地域人材育成部門長	松崎 貴	
島根大学教育・学制支援機構 大学教育センター長	杉江実郎	
島根県立大学 キャリアセンター長	久保田 典男	
松江工業専門学校 キャリア支援室長	服部真弓	

また、昨年度までに開催した第1回から第10回の推進協議会に引き続き、今年度は同協議会を表 1-3-3 の通り開催した。

表 1-3-3：令和元年度しまね協働教育パートナーシップ推進協議会開催一覧

	実施日時	議事内容
第11回	6月28日（金） 13：00～14：30	報告 1. インターンシップフェアの開催結果について（島根県立大学） 報告 2. インターンシップフェアの開催結果について（島根大学） 報告 3. COC+事業継続について 議題 1. しまね協働教育パートナーシップ推進協議会規約の改正について 議題 2. 第 1 期登録団体の更新結果について 議題 3. 第 6 期しまね協働教育パートナーシップ登録団体の決定について 議題 4. 第 7 期しまね協働教育パートナーシップ登録団体の募集について 議題 5. 令和元年度事業計画について 議題 6. その他
第12回	9月17日（火） 10：00～11：30	議題 1. 第 7 期しまね協働教育パートナーシップ登録団体の決定について 議題 2. 令和元年度事業計画について 議題 3. その他 報告 1. インターンシップ受入担当者研修会について 報告 2. 11月16開催しまね大交流会2019について 報告 3. COC+事業継続について
第13回	3月24日（火） 10：00～11：30	報告 1. しまね大交流会2019（11/16）開催結果について 報告 2. 就活直前合宿（2/10島大）開催結果について 報告 3. オールしまね協働教育フォーラム（2/18）開催結果について 議題 1. 2020年度事業実施状況について 議題 2. しまね産学官人材育成コンソーシアム（仮称）について 議題 3. その他

\*開催場所は、島根大学と島根県立大学浜田キャンパス、松江工業高等専門学校を TV 会議システムにて中継して実施。

パートナーシップ登録団体は、COC+推進コーディネーターがヒアリングを兼ねて各団体を訪問し、本パートナーシップ制度について説明を行った。その後、登録を希望する団体が本推進協議会事務局あてに申請を行い、しまね協働教育パートナーシップ推進協議会にて申請内容の審査・承認を行った。令和元年度末までに登録団体数は 242 団体となり最終目標の 200 団体を大きく上回った。登録団体一覧を表 1-3-4 に示す。また、ホームページ上に全団体のロゴおよび Web サイトへのリンクを掲載し、しまね協働教育パートナーシップのロゴを登録団体に配布することで、相互に社会に広く発信した<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> [http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project03/prj03\\_partner/](http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project03/prj03_partner/)

表 1-3-4：しまね協働教育パートナーシップ登録団体一覧

1	アースサポート株式会社	62	株式会社コダマサイエンス	123	株式会社スズキ自販島根	184	ファミリーイナダ株式会社
2	株式会社アイ・コミュニケーション	63	寿製菓株式会社	124	SUSANOO	185	株式会社フーズマーケットホック
3	株式会社アイティプロデュース	64	株式会社コニシ	125	須山木材株式会社	186	フェンリル株式会社
4	株式会社アイル	65	株式会社コミクリ	126	積水成型工業株式会社出雲工場	187	株式会社藤井基礎設計事務所
5	明石屋株式会社	66	サイバートラスト株式会社	127	セコム山陰株式会社	188	フジキコーポレーション株式会社
6	株式会社浅野歯車製作所	67	境港海陸運送株式会社	128	株式会社セントラル情報センター	189	富士産業株式会社山陰事業部
7	浅利観光株式会社（松江アーバンホテルグループ）	68	境港市観光協会	129	曾田鉄工有限会社	190	株式会社藤原鐵工所
8	一般社団法人海士町観光協会	69	有限会社松江町桑茶生産組合	130	大福工業株式会社	191	公益財団法人ふるさと島根定住財団
9	アルファー食品株式会社	70	山陰開発コンサルタンツ株式会社	131	株式会社大隆設計	192	特定非営利活動法人プロジェクトゆうあ
10	株式会社イーワエル松江オペレーションセンター	71	山陰ケーブルビジョン株式会社	132	有限会社高浜印刷	193	株式会社プロビズモ
11	株式会社イーグリッド	72	株式会社山陰合同銀行	133	有限会社高村	194	株式会社ペンタスネット
12	飯石森林組合	73	山陰酸素工業株式会社	134	株式会社タケタ造園	195	株式会社豊米工業
13	株式会社イード	74	山陰信販株式会社	135	株式会社田中種苗	196	放送大学島根学習センター
14	飯南町	75	株式会社山陰中央新報社	136	株式会社田部	197	株式会社豊洋
15	イズテック株式会社	76	山陰中央テレビジョン放送株式会社	137	株式会社谷口印刷・ハーベスト出版	198	益田市
16	出雲市	77	株式会社三栄	138	株式会社玉造温泉まちデコ	199	株式会社松江エクセルホテル東急
17	株式会社出雲村田製作所	78	株式会社山海	139	有限会社竹葉	200	松江工業高等専門学校
18	一畑電気鉄道株式会社	79	株式会社サンクラフト	140	株式会社中海テレビ放送	201	松江市
19	株式会社船トラベルサービス	80	三光株式会社	141	中国環境株式会社	202	松江第一精工株式会社
20	合資会社一文字家	81	株式会社サンテクノス	142	学校法人坪内学園	203	松江土建株式会社
21	今井産業株式会社	82	サン電子工業株式会社	143	津山屋製菓株式会社	204	松江山本金属株式会社
22	株式会社今井書店	83	三徳コーポレーション株式会社	144	帝人コードレ株式会社	205	株式会社松永牧場
23	イマックス株式会社	84	株式会社さんびる	145	株式会社テクノプロジェクト	206	有限会社松の湯
24	株式会社イワタクリエイト	85	株式会社さんらいフーズ	146	東亜青果株式会社	207	株式会社松本油店
25	株式会社石見銀山生活文化研究所	86	株式会社さんわファクトリー	147	東京海上日動火災保険株式会社山陰支店	208	株式会社丸加石材工業
26	石見工業株式会社	87	株式会社シーエスエー	148	東京靴株式会社	209	丸京製菓株式会社
27	石見食品株式会社	88	株式会社 CMC Solutions	149	東洋製鉄株式会社出雲仁多工場	210	株式会社丸合
28	株式会社ウシオ	89	JA共済連島根	150	ドクターリセラ株式会社江津カスタマーセンター	211	株式会社丸三（LPCグループ）
29	雲南市	90	株式会社シティプラスチック	151	トップ金属工業株式会社	212	まるなか建設株式会社
30	エーひだカンパニー株式会社	91	島根イーグル株式会社	152	中海・宍道湖・大山園域市長会	213	マルハマ食品株式会社
31	エクスウェア株式会社	92	株式会社島根銀行	153	中浦食品株式会社	214	株式会社みしまや
32	株式会社S-Nanotech Co-Creation	93	島根県	154	株式会社長岡塗装店	215	社会福祉法人みずらみ
33	NTN鑄造株式会社	94	島根県警察本部	155	株式会社中筋組	216	医療法人社団 水澄み会
34	株式会社エプリアラン	95	社会福祉法人島根県社会福祉事業団	156	中村プレス株式会社	217	株式会社ミック
35	株式会社オーエム機械穴道工場	96	島根県信用保証協会	157	有限会社なにわ旅館	218	株式会社MCセキュリティ
36	オーエム金属工業株式会社	97	協同組合島根県職工会	158	西日本旅客鉄道株式会社米子支社	219	三菱マヒンドラ農機株式会社
37	大田市	98	島根県農業協同組合	159	西ノ島町	220	皆美グループ
38	邑南町	99	島根県立大学 島根県立大学短期大学部	160	日新ホールディングス株式会社	221	株式会社御船組
39	大畑建設株式会社	100	公益財団法人 しまね産業振興財団	161	株式会社日西テクノプラン	222	美保テクノス株式会社
40	大見工業株式会社	101	島根自動機株式会社	162	日精販有限会社	223	株式会社明和
41	株式会社大屋ハイテック	102	島根島津株式会社	163	株式会社ニッポー島根工場	224	メニックス株式会社
42	株式会社岡貞組	103	島根職業能力開発短期大学校	164	株式会社日本海技術コンサルタンツ	225	株式会社守谷刃物研究所
43	株式会社オネスト	104	しまね信用金庫	165	日本システム開発株式会社	226	モルツウェル株式会社
44	株式会社カイハツ	105	島根大学	166	有限会社日本庭園 由志園	227	株式会社モンスター・ラボ
45	カナツ技建工業株式会社	106	島根タイハツ販売株式会社	167	株式会社日本バーカーライジング広島工場	228	株式会社八雲ソフトウェア
46	株式会社キグチテクノス	107	島根中央信用金庫	168	株式会社ネットワーク応用通信研究所	229	安来市
47	木次乳業有限会社	108	島根電工株式会社	169	株式会社バイタルリード	230	ヤンマーキャステクノ株式会社
48	久文建設株式会社	109	島根トヨタグループ	170	株式会社パソナテック	231	弓ヶ浜水産株式会社
49	協栄金属工業株式会社	110	島根ナカバヤシ株式会社	171	秦精工株式会社	232	株式会社吉田ふるさと村
50	株式会社共立エンジニア	111	株式会社島根富士通	172	パナソニックソーラーシステム製造株式会社	233	ヨシワ工業株式会社
51	共和水産株式会社	112	シマネ益田電子株式会社	173	浜田市	234	米子信用金庫
52	協和地建コンサルタント株式会社	113	JUKI 松江株式会社	174	パルソソフトウェア株式会社	235	リコージャパン株式会社
53	株式会社グローバル出雲工場	114	社会福祉法人壽光会	175	飯古建設有限会社	236	株式会社りそな銀行島根カスタマーセンター
54	株式会社クロレラサプライ	115	株式会社ジュンテンドー	176	株式会社パンダイナムコ島根スガノオマジック	237	流通株式会社
55	株式会社ケイ・エフ・ジー	116	社会福祉法人尚仁福祉会	177	有限会社ビー・エム・イー	238	リョーノーファクトリー株式会社
56	江津市	117	株式会社昭和測量設計事務所	178	ヒカワ精工株式会社	239	株式会社ワールド測量設計
57	神戸天然物化学株式会社	118	有限会社白石家	179	株式会社 日立メタルプレジジョン	240	株式会社ワイテック
58	甲陽ケミカル株式会社	119	社会福祉法人しらゆり会	180	社会福祉法人ひまわり福祉会	241	和光産業株式会社
59	独立行政法人国際協力機構 中国センター	120	株式会社伸興サンライズ	181	株式会社ヒューマンシステム	242	和幸情報システム株式会社
60	株式会社コスモ建設コンサルタント	121	社会医療法人仁寿会	182	ヒラタ精機株式会社		
61	株式会社コダマ	122	シンプ技研コンサルタント株式会社	183	株式会社ファシリティ出雲研究所		

3-2. パートナーシップ登録団体を対象とした研修会等の取組

本年度のパートナーシップ登録団体を対象とした研修会は表 1-3-5 の通りである。

表 1-3-5：パートナーシップ登録団体対象研修会等開催一覧

名称	日時	開催場所	参加団体・人数
●登録団体対象セミナー			
	①5月29日(水) 13:30~14:15	島根大学(松江キャンパス) 大学会館3階 大集会室	12団体12名
	② 【東部会場】 9月13日(金) 13:00~15:30 【西部会場】 9月18日(水) 13:00~15:30	【東部会場】 島根大学(松江キャンパス) 大学会館3階 大集会室 【西部会場】 島根県立大学(浜田キャンパス) 交流センター1階 研修室	【東部会場】66団体89名 【西部会場】9団体12名
	③9月24日(火) 13:30~15:00	島根県立大学(浜田キャンパス) 交流センター 研修室	20名 (企業10名、大学教職員10名)
	④10月23日(水) 15:30~18:30	島根大学(松江キャンパス) 大学会館3階 大集会室	9団体13名
	⑤2月10日(月) 8:30~20:30	島根大学(松江キャンパス) 大学会館2階 集会室	21団体21名 *1社1名制限
●オールしまね協働教育フォーラム			
	2月18日(火) 13:00~16:30	島根大学(松江キャンパス) 大学ホール	122名

●登録団体対象セミナー 各回の概要

①「インターンシップフェア出展者対象事前研修」(5月29日開催)

インターンシップフェアの開催に合わせ、出展者対象事前研修(インターンシップフェアに出展する事業所出展に向けた心構えや学生の意識調査結果について島根大学 大学教育センター田中講師が講義)を行った。

このセミナーの参加者を対象としたアンケート結果からは、「他業種のインターンシップや学生に対するプレゼン等を見聞きでき、参考になった」「具体的にどういった内容を話せばいいのかわかり勉強になった」とこのセミナーの有用感を提供することができた。また、インターンシップ出展者としてのインターンシップフェア全体についても、4段階評価で「とても良かった」または「良かった」と答えた回答者の割合が100%となり、高評価を得た。ミニセミナーという形で短時間に行ったが、学生・出展者(企業)間の、意識の違いを埋め、双方のミスマッチを防いだことが、インターンシップフェア全体が高評価を得た一因とも考えられる。



セミナーの内容を即実践



セミナーの内容を即実践

- ②「しまね大交流会 2019 出展者向けワークショップ (1) —ユーザー理解に基づく、自組織の魅力発掘・発信準備ワーク—」(東部会場：9月13日、西部会場：9月18日開催)
- ④「しまね大交流会 2019 出展者向けワークショップ (2) —短い時間でしっかり伝える！プレゼンと話し方講座&実践(学生交流会)—」(10月23日開催)

しまね大交流会の開催に合わせ、出展者向けのワークショップを島根大学 地域未来協創本部 高須地域人材育成マネジャー（講師）が行った。本セミナーはしまね交流会の出展準備に役立つだけでなく日々の業務に役立つことを提供することを目的とし、2回のワークショップを開催した。

ワークショップ (1) では、昨年度のしまね大交流会の学生アンケートの自由記述からインサイト：気づきを得る方法論について学び、異業種の登録団体がグループを組んで出展戦略を検討しあった。終了時のチェックアウトシートからは、「自社の魅力を他者の人から聞き、再発見した」「大交流会の出展の戦略がたてられた」「自社の展示ブースに訪れた学生とコミュニケーションをとり、その学生にぴったりの企業を紹介できるくらい互いに理解を深めることが重要だと感じた」といった気づきが見られ、登録団体の横のつながりや、今後の地域の企業体の在り方などを考えるきっかけを提供できた。



9月研修（東部）



9月研修（西部）

ワークショップ (2) では、話し方講座を企業対象に行い、その後に島根大学COC人材育成コースの学生 (第1章参照) が壁打ち相手となってプレゼンテーションの実践を行った。コース生側も自分自身を紹介するプレゼンテーションを予め準備していたことで、互いのプレゼンテーションを交換し合いながら、出展者のプレゼンテーションをより魅力的にするための戦略作りを学生と社会人が一緒になって検討した。出展者は、学生との交流を通じて得た知見をしまね大交流会本番に活かすこともでき、出展内容の質的向上にも貢献することができた。一方、COC人材育成コース生は地元企業を深く知ることができ、地域で活躍する大人の話聞く事で自身のキャリアデザイン力を高めることができた。



10月研修 (企業のみ)



10月研修 (学生との交流を交えた実践)

### ③「インターシップ 受入担当者研修会」(9月24日開催)

テーマを『実践型インターシップの活用法』とし、講師には、NPO エリア・イノベーション代表の藤井智晴氏を迎えた。本講座の前半部分では、倉敷市の企業が取り組んでいる具体的事例について紹介を行い、その後、講師と参加者がより良いインターンシップを実施するために必要なこととは何かをフリートーク形式で意見交換を行った。

この研修会の参加者を対象とした満足度アンケート結果は、5段階評価で3.7となった(企業のみ回答)。評価を5、4点とした参加者からは「インターンシップ事例が参考になった。特に地域密着型のインターンシップの必要性が大切だと思った」や「実践型インターンシップの意味自体を理解せずに参加しましたが、様々な事例から正にこれだと思いました。当社のインターンシップの位置づけを考えることができました」、「今まで考えていたインターンシップの目的やプログラムについて考え方が変わった」という意見があった。企業がインターンシップを開発する際にはプログラムの企画や準備が忙しいといった問題が挙げられており、他県で評価を得ている事例を参考により良いインターンシップの在り方が検討できた。



研修の様子



研修の様子

### ⑤ 「1日完結 就活直前合宿」(2月10日)

就職活動解禁を直前に控えた学生の活動支援と意識向上のためのプログラムとして毎年実施してきた就活直前合宿を、今年は宿泊無し(1日完結型)で実施した。エントリーシート作成やグループディスカッション体験のほかに、模擬面接や業界研究を目的とした交流会を地元企業人と一緒に行った。企業人は「就職活動支援」を通じた学生との出会いや新たな関係性を構築することを期待して参加した。参加者からは「最近の学生の様子がよく分かった」や「説明会等が始まる前に自社を知ってもらうことが出来た」などの感想が多く寄せられた。



就活体験談の様子



地元の企業人による一斉模擬面接の様子

● オールしまね協働教育フォーラム

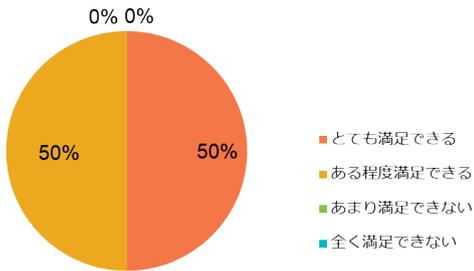
しまね協働教育パートナーシップの理念の共有および、登録団体間の連帯感醸成、各登録団体自身の自己研鑽につながる有益な情報の提供などを目的とした「オールしまね協働教育フォーラム」を、オールしまねCOC+事業の最終成果報告会と合わせて次の通り開催した。第2部の「オールしまね協働教育フォーラム」では、各高等教育機関の学生及び協働先の企業・団体の担当者から事例報告を行い、続いてワークショップでは、事例報告の発表者が各グループに入り、事例報告内容や成功要因を共有し、持続可能な地域協働教育のあり方について議論を深めた。

日時	2020年2月18日(火) 13:00~16:25
場所	【主会場】島根大学 松江キャンパス 大学ホール 【交流会】大学食堂 Sogno【ソーニョ】
対象	しまね協働教育パートナーシップ登録団体 ほか 地元企業、行政、教育機関、一般市民 等
プログラム	<p>開会挨拶 服部泰直(島根大学学長/オールしまねCOC+事業推進代表者)</p> <p>【第1部】オールしまねCOC+事業 最終成果報告 「COC+事業の軌跡—多様かつ柔軟で目指す場所のある協働—」</p> <p>【第2部】オールしまね協働教育フォーラム</p> <p>(1) 協働教育の事例報告 学生×地域 事例報告LT(ライトニングトーク)</p> <p>① 島根大学(カエルプロジェクト) 協働先: 島根県教育委員会</p> <p>② 島根大学(シマスポプロジェクト)</p> <p>③ 島根大学(キャリアデザインプログラム) 協働先: 中浦食品株式会社</p> <p>④ 島根大学・島根県立大学合同「問題解決プロジェクト in 邑南町」 協働先: 邑南町、NPO はすみ振興会、株式会社ツチヨシ産業</p> <p>⑤ 島根県立大学「地域経済・地域住民活性化プロジェクト」 協働先: 島根県、大田市</p> <p>⑥ 松江工業高等専門学校「遊星歯車の手組作業の効率改善」 協働先: ヒラタ精機株式会社</p> <p>(2) 事例報告者を交えたワークショップ</p> <p>閉会挨拶 秋重幸邦 (島根大学理事・副学長/オールしまねCOC+事業責任者)</p> <p>*17:00~ 交流会</p>

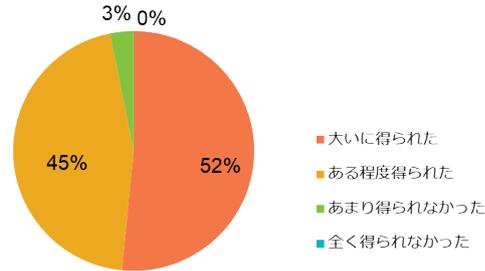
本フォーラムには、地元企業、行政、教育機関などから 122 名の参加があった。当日の参加者アンケートの結果を図 1-3-3 に示す。

図 1-3-3：アンケート結果

Q1.オールしまねCOC+事業についての最終成果報告（第1部）を参考に、5年間の本事業に対する満足度



Q2.事例報告及びワークショップ（第2部）を通して、有益な情報を得られたか



有益な情報を得たと回答があった割合は 97%であった。また、今回のフォーラムによせられた自由記述の抜粋を次に示す。

- 学生の取りくみ発表が短時間で上手にまとめられていた。ワークショップで行った ATT が参考になった。（企業・団体）
- 学生さん 1 人 1 人が主体的でとても楽しかったです。このような学生さんが多く在籍していること、もっと県内外の企業などが知る機会をもちたいと思いました。（企業・団体）
- 県内の様々な地域に入って行って、地域住民・企業と連携して取り組む状況が理解できました。（企業・団体）
- 喫緊の課題である人口減少対策について、COC の取組みによって、若者の県内就職が地道に促進されることを期待しています。大学を取り巻く状況は厳しいものがありますが、多くの県外生を含む若者を島根の地で教育できることは大きなチャンス、可能性だと思います。（一般）
- ワークショップが大変楽しかったです。学生からもらうヒントは大きいです。何を教え、何を求めているか少ない時間ですが分かりました。（大学・高専職員）
- 企業の方とワークショップができ、新しいプロジェクトを始めるきっかけになりそう。（学生・高専生）

アンケートの結果、本フォーラムの参加者の満足度が高かったことから、知りたい情報または聞いてためになる情報を提供できたものと考えている。一方、「学生のプレゼン、伝え方について技術向上されたい。落ち着いてそれぞれのグループがされていたが、目的・成果・課題・魅力を整理しメリハリつけたらおもしろくなる」といった意見もあり、聞き手を意識

した発表にすることでより充実した事例報告になると思われる。本フォーラムで得られた各団体のニーズに基づき、インターンシップなどの様々な協働教育事例を共有・議論する場の提供など、地域の教育力向上に資する活動を引き続き行っていきたい。

<記録写真>



会場の様子



事例報告  
(カエルプロジェクト)



事例報告  
(シマスポプロジェクト)



ワークショップの様子



ワークショップの様子



ワークショップの様子

### 3-3. パートナーシップを活用した学生の協働教育に資する取組

令和元年度末までにしまね協働教育パートナーシップ登録団体数は 242 団体となり、最終年度の目標値を大きく上回った。これにより、本年度のしまね大交流会は、しまね協働教育パートナーシップ登録団体だけで企業・自治体の出展ブースを構成することができ、研修等を通じて自社の交流スキルやコンテンツの質の向上を図っている組織と学生との交流を実現できた。昨年度制作した登録団体紹介冊子は、今年度も継続して利用しており、インターンシップフェアや島根大交流会の前には、冊子を活用して参加・出展団体の前情報を得る学生の姿が多く見られた。

また、パートナーシップ登録団体の協力を得て、インターンシップフェアや企業ツアー、学生と企業との交流会、しまね大交流会などを開催した。これらの取組の詳細については第1章および第2章に記載したのでそちらを参照いただきたい。

## 第4章 しまねクリエイティブラボネットワーク

しまねクリエイティブラボネットワークプロジェクトは、学生・教職員・企業・NPO 等が立場や分野を超えて交流できる「多様性と流動性のある空間」の開設により、アイデア・スキルの醸成や具現化、地域ステークホルダーと学生の交流により教育促進と雇用創出にも寄与する空間づくりを目指すものである。本プロジェクトの計画骨子を図 1-4-1 および表 1-4-1 に示す。

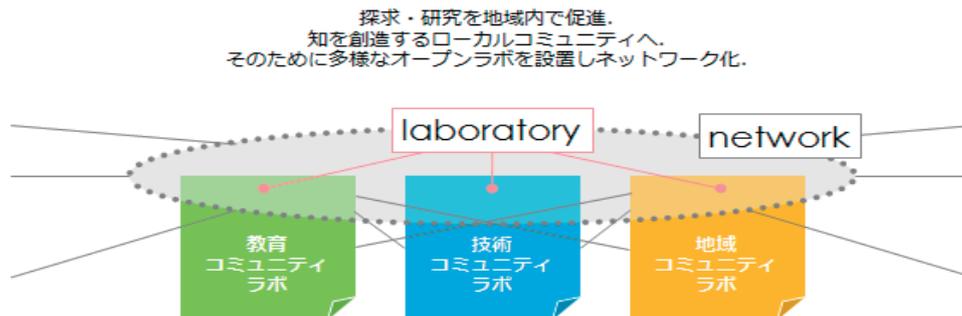


図 1-4-1：島根大学におけるオープンスペースの計画骨子

表 1-4-1：3つの「コミュニティラボ」の方向性

計画名称	方向性
地域コミュニティラボ	事業協働地域を中心とした山陰地域そのものを情報源とした地域情報の集積・交流地。
技術コミュニティラボ	事業化までを見通せる技術および研究を核とするコミュニティの形成。
ものづくりコミュニティラボ	学生の創発力の育成と学外との交流。

以下各ラボの取組実績を報告する。

### 4-1. 地域コミュニティラボ<sup>1</sup>

地域コミュニティラボとは、島根大学において従前からの COC 事業の進展により学生・教職員が地域について知る機会が増加したことに対し、地域側からの情報発信と交流を学内で行える場所として、平成 28 年度に開設した。具体的には、オールしまね COC+事業に賛同する山陰地域の地方公共団体、教育機関、研究機関、特定非営利活動法人、営利企業その他の各種団体の活動状況や活動成果を紹介する展示を行うものである。これにより、本学学生や教職員への地域に関する情報提供を行い、島根大学の地域志向教育や学生の島根県内への就職、教員と各種団体との共同研究・共同事業等の推進に資することを目的としている。

<sup>1</sup> [http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project04/prj04\\_lab01/](http://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project04/prj04_lab01/)

本年度は表 1-4-2 に示す 6 つの展示を行った。また、大学附属図書館という環境において、地域の情報を発信する展示スペースが持つ意味と可能性については、昌子ほか (2018)<sup>2</sup>にまとめているので参照されたい。

表 1-4-2：地域コミュニティラボ本年度実施展示一覧

No.	展示期間	展示名	来館者数
2019-1	5月22日(水)～6月5日(水)	シマネケンケイ - 島根県警察監修！警察業務のDEEP な世界 -	595名
2019-2	6月29日(土)～8月5日(月)	命の絆展 - 被害者も加害者も出さない街づくり -	810名
2019-3	8月29日(木)～9月6日(金)	山陰四大学合同写真展	257名
2019-4	10月17日(木)～10月25日(金)	木の匠 - 第2回木匠展in島根大学 -	420名
2019-5	11月16日(土)～11月28日(木)	守りたい 島根の自然 - 環境編 変化と自然保護 -	540名
2019-6	1月15日(水)～2月14日(木)	手銭家蔵書から見る出雲の文芸 - 資料から再発見する江戸の底力 -	450名
合計			3072名

今年度の展示企画には、しまね協働教育パートナーシップ登録団体の島根県警察の発案で、多岐にわたる業務や専門業務の紹介をパネル展示した企画があった。この企画は、団体の悩みとしてあった「物理や化学系の学生にぜひ目指してほしい鑑識や科学捜査、情報系の学生に伝えたいサイバーセキュリティに関する業務などについて伝える場が少ない」という問題認識に基づくものであった。ギャラリートークには現役の警察官らが学生に対し、仕事の魅力を伝えるシーンもあり、学生が興味深そうに解説を聞いていたのが印象的であった。学生が魅力的な働く場と出会うという接点を、本取組でも創出できた事例と言えよう。そのほか、「山陰四大学合同写真展」は、島根大学・島根県立大学・鳥取大学・鳥取環境大学の写真部の学生の連携で実現した企画であり、本取組を学生自身が活用した事例となった。

今年度の総括としては、昨年度に引き続き、年間 3000 名以上の来館者があった。次ページ以降に、各展示の開催結果を報告する。

<sup>2</sup> 昌子 喜信・高須 佳奈・中野 洋平 (2018) 「地域コミュニティラボ —地域の情報を発信する展示スペース—」 湊雲 20, 67-82 <http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/40905>

2019-1：「シマネケンケイ 島根県警察監修!警察業務のDEEPな世界」展

主催	島根県警察 島根大学	 <p>チラシ</p>
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説パネル</li> <li>・島根県警察活動写真</li> <li>・防犯ポスター／防犯チラシ／防犯グッズ</li> <li>・災害時の救助活動／災害時対応啓発物 (写真・非常食等)</li> <li>・指紋採取用道具セット</li> </ul>	
関連企画	ギャラリートーク (5/29 (水) 実施)	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>

1

2

3

第1部

4

しまねクリエイティブラボネットワーク

5

6

第2部

2019-2 : 「命の絆展-被害者も加害者も出さない街づくり-」展

<p>主催</p>	<p>江角由利子氏 島根県警察本部 島根被害者サポートセンター 島根大学</p>	 <p>2019年6月29日(土)-8月5日(月)</p> <p><b>命の絆展</b> -被害者も加害者も出さない街づくり-</p> <p>被害者たちが伝える命の重さ・大切さ 一等身の人形パネルからのメッセージをおおして 被害者も加害者もつくりださない社会の実現に向けて 一緒に考えてみましょう</p> <p>会場：島根大学（松江キャンパス） 観覧時間：11時 - 17時 開場：平日8時30分 - 21時30分 土日祝10時 - 17時30分 入場無料 ※18歳未満の児童・生徒は保護者同伴で観覧してください</p> <p>チラシ</p>
<p>主な展示物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解説パネル</li> <li>・ 事故被害者の一等身大人形パネル／遺品類</li> <li>・ 新聞に掲載された犯罪被害の関連記事</li> <li>・ 犯罪被害関連書籍</li> </ul>	
<p>関連企画</p>	<p>特になし</p>	
<p>記録写真</p>	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>

2019-3 : 「山陰四大学合同写真」展

主催	山陰四大学合同写真展実行委員会 島根大学		 <p>チラシ</p>
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陰四大学（島根大学・島根県立大学・鳥取大学・鳥取環境大学）の写真部の写真作品</li> <li>一眼レフカメラ</li> </ul>		
関連企画	特になし		
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>	
	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>	

1

2

3

第1部

4

しまねクリエイティブラボネットワーク

5

6

第2部

2019-4 : 「木の匠—第二回木匠展 in 島根大学—」展

主催	木匠会 島根大学		 <p>2019 10/17-10/25 地域コミュニティラボ 島根大学松江市キャンパス附属図書館1F 主催：木匠会、島根大学</p> <p>チラシ</p>
主な展示物	<p>・木匠会 会員制作の工芸品実物展示</p> <p>正木 潤「神代杉結界」「杉材文台」「桑縁鰐淵寺 杉松皮結界」「杉木地銘々皿」</p> <p>野白千晴「櫨盛器」「桑短冊箱」「櫨角盆」「櫨香合」</p> <p>藤原 正「木照【てまり】」「木照【木漏れ日】 「名刺入れ」</p> <p>渡部良和「柵と花梨の箱」「神代杉萇盆」 「柿斜文箱」「桐手付盆」</p> <p>深田 学「神代杉象嵌短冊箱」「神代杉象嵌重箱」 「神代杉象嵌杳彩箱」</p> <p>村山創達「松造拭漆盛器」「柘造拭漆盛器」</p> <p>濱田幸介「柘造拭漆盛器」「櫨造拭漆喰籠」「松造拭漆花器」 「葉っぱ型銘々皿」「螺鈿ぐい呑み」</p> <p>多々納利雄「櫨二重造（内槐）棗～（上面蝶貝象嵌金箔）」 「櫨造黒蝶貝五交輪象嵌合子」「櫨造菊花ちらし焦文鉢」</p> <p>・解説パネル、木工の道具</p>		
関連企画	作り手・匠のギャラリートーク（10/24（木）実施）		
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例（木工の道具）</p>	
	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>	 <p>ギャラリートーク開催時に 組み木細工に挑戦</p>	

2019-5：「守りたい 島根の自然－環境編 変化と自然保護－」展

主催	島根自然保護協会 島根大学	 <p>チラシ</p>
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解説パネル</li> <li>・ 自然保護／環境保全活動に関する写真</li> <li>・ 島根自然保護協会初代会長近木英哉氏収集標本</li> <li>・ 二代会長杵村喜則氏の収集標本</li> <li>・ 島根自然保護協会関連資料</li> <li>・ 島根自然保護協会初代会長近木英哉氏関係資料</li> <li>・ 海岸漂着物</li> </ul>	
関連企画	ギャラリートーク（11/20（水）実施）	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>展示物一例</p>	 <p>ギャラリートーク開催時の様子</p>

1

2

3

第1部

4

しまねクリエイティブラボネットワーク

5

6

第2部

2019-6：「手銭家蔵書から見る出雲の文芸—資料から再発見する江戸の底力—」展

主催	出雲文化活用プロジェクト (公益財団法人手銭記念館／島根大学附属図書館／ 島根大学法文学部山陰研究センター)	 <p>チラシ</p>
主な展示物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説パネル</li> <li>・手銭家蔵書(文芸資料)</li> <li>・関連書籍</li> </ul>	
関連企画	特になし	
記録写真	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>
	 <p>展示物一例</p>	 <p>展示物一例</p>

#### 4-2. 技術コミュニティラボ<sup>3</sup>

技術コミュニティラボとは、情報提供者である大学教員等と産業界を結びつけ地域における大学の垣根を低くするとともに、産学官連携をベースとしたイノベーションを創出するための新たな取組として、少人数・双方向性の情報交換の「場」として平成 29 年度 7 月に開設した。運営は、島根大学 地域未来協創本部 産学連携部門と島根県が共同で行った。開催の際も従来の「セミナー」や「研修会」のような表現を用いず、各回を「ミーティング」と称して実施している。

ミーティングは、大学教員等からの情報提供 1 時間と質疑応答 1 時間の合計 2 時間で行うことを基本的な形式としている。大学教員による発表も、参加者が活発なコミュニケーションを図るための一つの手段である「情報提供」として解釈され、情報提供後も 1 時間程度のディスカッションの時間が設けられている。令和元年度は下記 3 回のミーティングを開催し、64 名の参加となった。

また通常のミーティングとは別に、しまね大交流大会と連携し、出展者交流会の時間帯に、『技術コミュニティラボ LT in 大交流会』を昨年度に引き続き開催した。島根県における Society5.0 の実現に向けて、島根大学および松江工業高等専門学校の研究者による LT（ライトニングトーク）および情報交換を行い、80 名の参加があった。

表 1-4-3：技術コミュニティラボ本年度実施ミーティング一覧

No.	実施期間	ミーティングテーマ	参加者数
2019-1	7月 3日（水）14:00～	情報セキュリティ技術の最先端研究と社会適用	13名
2019-2	10月 2日（水）13:30～	ミドリソウリムシの特徴と応用の可能性	21名
2019-3	1月23日（木）14:00～	人工知能・機械学習の活用とロボティクス	30名
番外編	11月16日（土）11:00～	技術コミュニティラボLT in大交流会 ～島根発！ Society5.0～	80名
		合計	144名

以下、各ミーティングの開催報告を記す。

<sup>3</sup> <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/r-kikaku/lab/home.htm>

2019-1：「情報セキュリティ技術の最先端研究と社会適用」

日時	7月3日(水) 14:00～	
場所	島根大学 地域未来協創本部 (ソフトビジネスパーク島根内)	
参加者	13名(産4名、学3名、官6名)	
プログラム	<p>14:00～15:00</p> <p>情報提供 島根大学 総合理工学部 知能情報デザイン学科 伯田恵輔 講師</p> <p>15:00～16:00</p> <p>意見交換・ディスカッション</p> <p>17:40～20:00</p> <p>懇親会</p>	
シーズのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端の情報セキュリティ研究と実社会への応用</li> <li>データサイエンスと個人情報保護の両立</li> <li>暗号通貨(仮想通貨)・ブロックチェーン技術の活用事例</li> </ul>	
記録写真		



**情報セキュリティ技術の最先端研究と社会適用**

◆ 最先端の情報セキュリティ研究と実社会への応用  
◆ データサイエンスと個人情報保護の両立  
◆ 暗号通貨(仮想通貨)・ブロックチェーン技術の活用事例

日時: 2019年7月3日(水) 14:00-18:00  
会場: 島根大学 地域未来協創本部 (ソフトビジネスパーク島根内)  
定員: 10-30名  
申込締切: 2019年6月23日(日) まで  
申込: 島根大学 総合理工学部 知能情報デザイン学科 伯田恵輔 講師  
対象: 企業、金融機関、自治体、大学/産学、連携コミュニティネットワーク  
趣向: 島根大学と産業界が未来の技術や研究分野について自由な意見交換や情報交換をすることによる交流促進の場として、産学官で少人数・双方両性の情報交換会です。

**プログラム**  
14:00- 参加者自己紹介・情報提供: 島根大学 知能情報デザイン学科 伯田恵輔 講師  
15:00- 意見交換・ディスカッション  
18:00 終了 (18時より知見取組品にて懇話会開催予定:お一人様4千円前後)

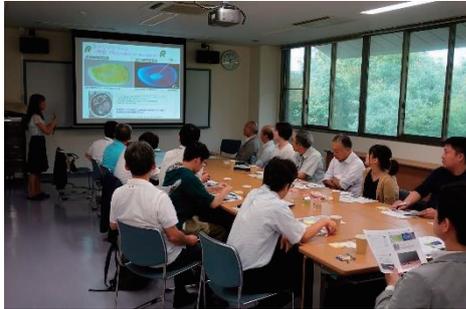
情報提供前の講演に併し、日本生活より講演で参加になりました。情報提供後について、講師の講演の感想を聞き取りたいという希望が複数寄せられました。そこで、個人情報を取り扱う企業や自治体、行政機関、金融機関、自治体、大学/産学、連携コミュニティネットワークなど、幅広い分野の「産学官」の参加を希望いたします。今回は、セキュリティ最先端技術である「暗号通貨」と「仮想通貨・ブロックチェーン」について、産学官の両面から交流を促します。

**講師**  
伯田 恵輔 講師  
島根大学 知能情報デザイン学科  
2004年3月東洋大学大学院工学研究科修士課程修了。2006年4月株式会社日立製作所システム開発部研究員。2015年4月島根大学大学院工学研究科修士課程修了。2019年4月より同大学大学院工学研究科准教授となり、現在に至る。2019年10月島根大学大学院工学研究科准教授より退任。専門は情報セキュリティ。

主催: 島根大学・島根県  
申込先: 株式会社 島根大学地域未来協創本部 (担当: 藤野 大輔、高橋 佳彦)  
Tel:0852-60-2280 Fax:0852-60-2395 crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp

チラシ

2019-2 : 「ミドリゾウリムシの特徴と応用の可能性」

日時	10月2日(水) 13:30～		 <p style="text-align: center;">チラシ</p>
場所	島根大学 地域未来協創本部 (ソフトビジネスパーク 島根内)		
参加者	21名 (産:10名、学8名、官:3名)		
プログラム	<p>13:30～14:30</p> <p>情報提供 島根大学 学術研究院 農生命科学系 児玉有紀 准教授</p> <p>14:30～15:30</p> <p>意見交換・ディスカッション</p>		
シーズの ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゾウリムシを用いた人畜無害な水質浄化</li> <li>・共生クロレラのエネルギー資源としての利用</li> <li>・メダカやゼブラフィッシュ等の幼魚の飼料としての利用</li> </ul>		
記録写真	 		

1

2

3

第1部

4

しまねクリエイティブラボネットワーク

5

6

第2部

2019-3 : 「人工知能・機械学習の活用とロボティクス」

日時	1月23日(木) 14:00~	 <p>オールしほねCOC+事業クリエイティブラボネットワーク 技術コミュニティラボ第9回ミーティング</p> <h2>人工知能・機械学習の活用とロボティクス</h2> <p>シーズのPRポイント!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●機械学習の各種手法の活用 (ディープラーニング以外の手法も重要)</li> <li>●機械学習を用いた実機ロボットの行動獲得</li> <li>●説明可能な人工知能に関する試み</li> </ul> <p>日程: 2020年1月23日(木) 14:00-16:00      会場: 島根大学地域未来協創本部・北棟用 (産学連携センター)      申込: 2020年1月17日(金) 13時まで      申込先: 島根大学地域未来協創本部 (裏面を参照ください)      対象: 企業、金融機関、自治体、大学/高専、連携コーディネーター      特徴: 本学と協創部が主体の協創イベントとして、自由な雰囲気での議論や意見交換をすることにより交流を深めることができる<b>伊人様・双方両性の情報交換会</b>です。</p> <p><b>プログラム</b></p> <p>14:00~ 参加者自己紹介/情報提供: 松江工業高等専門学校 電子制御工学科 堀内匡 教授      15:00~ 意見交換・ディスカッション      16:00 終了 (18時より松江駅周辺にて懇親会開催予定: お一人様4千円前後)</p> <p>ビッグデータの存在と計算機の性能向上に伴って、人工知能に関する研究開発が急速に進歩しています。現在は、人工知能の発展に伴って機械学習の分野が注目を集める中で、その中でもディープラーニングの分野が注目を集めています。今回は、ディープラーニング(深層学習)の活用をテーマとして、その活用に関する試みについて、人工知能に関する最新の技術や情報交換を目的とした懇親会を開催いたします。</p> <p><b>主催:</b> 島根大学・島根県 <b>共催:</b> 松江工業高等専門学校      申込先: 株式会社 島根大学地域未来協創本部 (裏面を参照ください)      Tel: 0852-60-2290 Fax: 0852-60-2295 e-mail: center@ipc.shimane-u.ac.jp      会場: 島根大 北棟 高専 後援</p> <p style="text-align: center;">チラシ</p>
場所	島根大学 地域未来協創本部 (ソフトビジネスパーク島根内)	
参加者	30名(産18名、学8名、官4名)	
プログラム	<p>14:00~15:00              情報提供              松江工業高等専門学校 電子制御工学科              堀内匡 教授</p> <p>15:00~16:00              意見交換・ディスカッション</p> <p>18:00~20:30              懇親会</p>	
シーズのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械学習の各種手法の活用 (ディープラーニング以外の手法も重要)</li> <li>・機械学習を用いた実機ロボットの行動獲得</li> <li>・説明可能な人工知能に関する試み</li> </ul>	
記録写真		

番外編：「技術コミュニティラボ LT in 大交流会 島根発！ Society5.0」

日時	11月16日(土) 11:00~12:00	 <p style="text-align: center;">チラシ</p>
場所	くにびきメッセ大展示場 (大交流会メイン会場)	
参加者	80名	
プログラム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 島根大学総合理工学部 酒井達弘 助教 「ソーシャルメディアに対する 時空間データマイニング」</li> <li>2. 島根大学総合理工学部 新城淳史 准教授 「ものづくりにおけるデジタル数値 シミュレーションの活用」</li> <li>3. 島根大学大学院教育学研究科 橋爪一治 教授 「日本の高度な技術力を陰で支える 匠の技を継承する最先端の教育」</li> <li>4. 島根大学総合理工学部 廣富哲也 准教授 「障がい者・高齢者の生活を支援する ICT」</li> <li>5. 松江工業高等専門学校電子制御工学科 堀内 匡 教授 「ディープラーニングとロボティクス」</li> </ol> <p>*ライトニングトーク終了後は、名刺交換や情報交換会とした</p>	
記録写真		

1  
2  
3  
第1部  
4  
しまねクリエイティブラボネットワーク  
5  
6  
第2部

#### 4-3. ものづくりコミュニティラボ

平成 30 年 3 月に島根大学教育学部棟木工室内にもものづくりコミュニティラボ（平成 29 年度に計画調書の「教育コミュニティラボ」から名称を変更）を設置し、今年度は表 1-4-4 に示す 15 件の取組を行った。

具体的には、平成 29 年度から開講している大学生向けの教養科目「ものづくりと創造性」（担当：橋爪一治（教育学研究科）、高須佳奈（地域未来戦協創本部））で 10 名の学生がものづくりをベースとした PBL に取組んだほか、「くらしの中の製作技術」、「木と木工の知識」など 10 科目で延べ 135 名の学生が同ラボを利用した。また、同ラボを活用し、市民向けの公開講座や教員免許状更新講習を 4 講座計 26 回提供し、55 名が受講した。授業や講座等の確実に人数が把握できる取組みだけでも 200 名がこのラボを利用しており、昨年度の 99 名から大幅に人数が増加した。その他、表には記載していないが、中学生を対象としたロボコン教室、附属小学校の部活動「造形クラブ」、松江市発明クラブ等でも同ラボを活用した。活動の様子は、抜粋したものを写真で示す。

今年度も、「豊かな発想力・創造性を備えた課題解決能力の高い人材育成」という地域からの要望に応える人材育成の場所として、学生および社会人・一般市民を対象にした授業科目、公開講座、講習等の開催をすることができた。また本ラボは、学生からのニーズに応え、ものづくりによる課題解決を志す学生らの取組を支援する体制を整えることを目的としている。活用頻度が高くなってきたことにより、今年度秋よりインターネットを介した利用状況把握システムや、スマートフォンを利用した鍵の管理システムなどの提案が学生からあった。これについては、島根大学ものづくり部 Pim と島根大学財務部施設企画課の協働により、令和 2 年度初めに実装に向けた利用実験を計画している。

#### 【ものづくりコミュニティラボ活用の様子】



「ものづくりと創造性」授業風景



中学生向けロボコン教室

表 1-4-4：ものづくりコミュニティラボ本年度取組一覧

	項目	日時	担当者等	参加者数
1	【授業科目】 「ものづくりと創造性」	前期授業	橋爪一治（教育学研究科） 高須佳奈（地域未来協創本部）	10名
2	【授業科目】 「くらしの中の製作技術」	前期授業	山下晃功（本学名誉教授・教育学部）	17名
3	【授業科目】 「木によるものづくり実習Ⅰ・A」	前期授業	山下晃功（本学名誉教授・教育学部） 橋爪一治（教育学研究科）	7名
4	【授業科目】 「図画工作科内容構成研究」	前期授業	川路澄人（教育学部） 小谷 充（教育学部） 藤田英樹（教育学部） 新井知生（教育学部）	26名
5	【授業科目】 「工芸基礎概説」	前期授業	福井一真（教育学部） 藤田英樹（教育学部）	5名
6	【授業科目】 「教育素材の研究と新しい教材開発」	通年授業	教職大学院教務・学生支援部教員 （教育学部）	12名
7	【授業科目】 「木によるものづくり実習Ⅱ・B」	後期授業	山下晃功（本学名誉教授・教育学部） 橋爪一治（教育学研究科）	12名
8	【授業科目】 「木と木工の知識」	後期授業	山下晃功（本学名誉教授・教育学部） 橋爪一治（教育学研究科）	8名
9	【授業科目】 「工芸実習」	後期授業	福井一真（教育学部） 藤田英樹（教育学部）	5名
10	【授業科目】 「木工指導の実際」	後期授業	藤田英樹（教育学部） 橋爪一治（教育学研究科）	1名
11	【授業科目】 「図画工作科内容構成研究」	後期授業	川路澄人（教育学部） 小谷 充（教育学部） 藤田英樹（教育学部） 新井知生（教育学部）	42名
12	【通年公開講座】 「生涯木育講座 初心者のための木工教室」	4月14日（日） ～3月15日（日）	橋爪一治（教育学研究科） 山下晃功（本学名誉教授）	12名
13	【通年公開講座】 「生涯木育講座 中級・上級者のための木工教室」	4月21日（日） ～3月8日（日）	橋爪一治（教育学研究科） 山下晃功（本学名誉教授）	15名
14	【教員免許状更新講習】 「日本の伝統的な住生活文化及びミニ畳作り」（中学校・高等学校教諭向け）	8月11日（日）	正岡さち（教育学部） 竹内玲子（㈱竹内畳店）	10名
15	【教員免許状更新講習】 「日本文化としての和室（畳室）及びミニ畳作り」（小学校教諭向け）	8月12日（月）	正岡さち（教育学部） 竹内玲子（㈱竹内畳店）	18名
計 15 回実施、参加者数 延べ 200 名				

以上の通り、「地域コミュニティラボ」では、展示の企画～設営といった一連のプロセスを通じ、しまね協働教育パートナーシップ登録団体や学生も含む広い地域ステークホルダーに、それぞれが保有する価値を再認識しそれを発信・交流する場を提供することができた。また、「技術コミュニティラボ」では、少人数・双方向型の最新技術に関するミーティングというスタンスをとり、実施したことで、研究者と地元企業のマッチングが進み、産学連携の新たな接点を見出すことができた。そして、「ものづくりコミュニティラボ」では、学生のみならず市民向けの講座を実施し、昨年度以上に本ラボが活用され、学生と施設管理者の協働による空間の管理システムの構築実験など新たな展開へとつながった。

## 第5章 地域情報アーカイブAgo-Lab

地域情報アーカイブ Ago-Lab（以下、Ago-Lab）は、地域ステークホルダーが持つ地方創生に関わる情報の蓄積・相互共有・発信を行うために WEB 上に展開する構築型の地域情報アーカイブプラットフォームとして設置したものである（図 1-5-1）。

Ago-Lab の導入により、これまで個々の Web サイトや Facebook 等の SNS 上に散在していた地域情報を一元的に集約することが可能になる。Ago-Lab は、地方創生に関わる活動をする個人・組織等が互いに繋がりあう場を地域社会に提供するとともに、誰でも簡単に島根の地域情報を検索・入手できる仕組みを活用した地域学習の優れたツールとしても活用でき、ひいては、島根県の活力や魅力を県内外に発信することを可能にするものである。

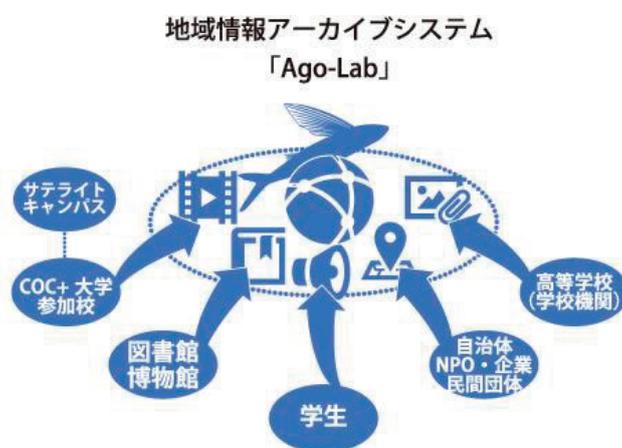


図 1-5-1 : Ago-Lab イメージ図

Ago-Lab は、平成 27 年度に基盤のプログラム開発を行い、平成 28 年度に限定リリース、一般リリースを行った。トップページのイメージを図 1-5-2 に示す。

一般的なソーシャルメディアと同様に「記事の閲覧」に関しては、アカウントの登録なしに行うことが可能であるが、「記事の投稿」に関しては、利用規約を承諾の上、アカウントの取得が必要である。アカウント取得後は、記事の作成・投稿を行うマイページを利用可能になる。マイページは、パソコンだけでなくスマートフォンからもアクセス可能で、投稿のしやすさを確保している。

本年度は、昨年度に引き続いて Ago-Lab を、地域志向教育の現場で活用する取組に注力し、SNS を用いた新しい教育の在り方の検討を同時に行った。

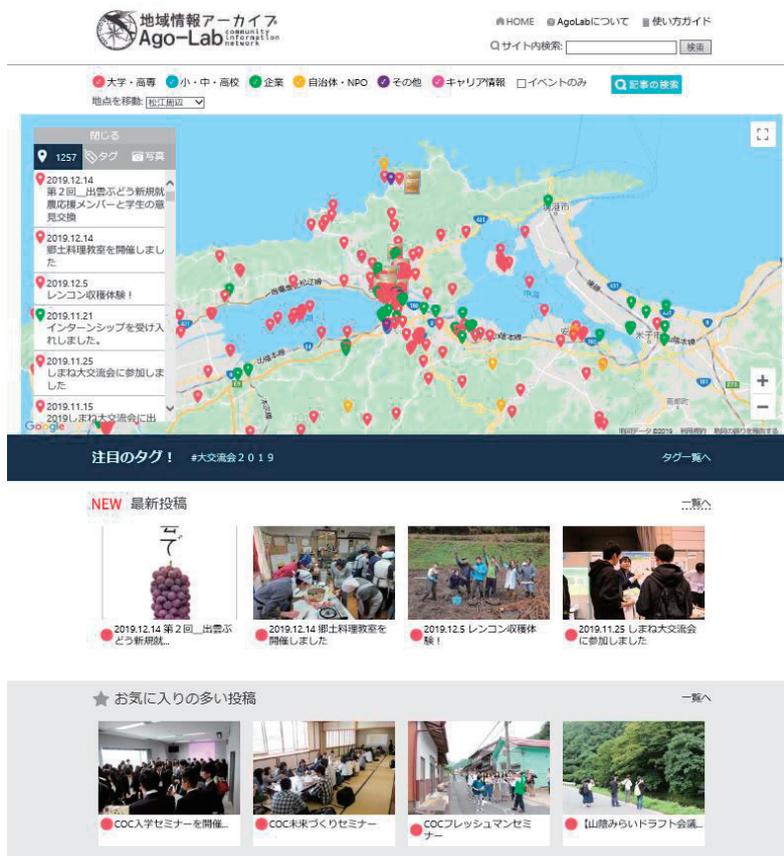


図 1-5-2 : Ago-Lab トップページ (令和元年 12 月 24 日現在)

### 【Ago-Lab の本年度実績】

本プロジェクトに特化した KPI は特に設けていない。Web サイトの影響度を示す値として一般的に用いられている「ページビュー数」などを主軸に、下表の通り実績を報告する (令和元年 12 月末現在)。

表 1-5-1 : Ago-Lab の本年度実績

投稿アカウント数	1698 件 (参考: 平成30年度末1314件)
ページビュー数	84193 PV (参考: 平成30年度末61246 PV) * ページビューカウント機能は平成29年4月から実装した
Ago-Lab活用した主な授業 (島根大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートアップセミナー (受講者数486名) ⇒ワーク「島根県19市町村魅力発信プロジェクト」にて発信ツールとして利用</li> <li>・島根学 (受講者数259名) ⇒地域情報収集サイトとして推奨利用</li> <li>・地域未来論 (受講者数78名) ⇒大交流会事前情報収集サイトとして推奨利用</li> <li>・実践ビジネス開発論 (受講者数5名) ⇒地域ビジネスに関する情報収集サイトとして推奨利用 等</li> </ul>
その他のAgo-Lab活用事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しまね大交流会 ⇒出展団体による事前PRの投稿サイトとして63団体が活用 ★これにより、多くの大学生・高校生に、大交流会事前情報収集サイトとしてAgo-Labを紹介。</li> </ul>

昨年度に引き続き「スタートアップセミナー」や「島根学」といった多くの学生が受講する授業や、しまね大交流会の事前PRの場としてAgo-Labを活用したことにより、1年間で約2万以上ページビューが増加した。Ago-Labの地域情報の発信およびその集約機能により、幅広い層に対し投稿者がその地域の活動や魅力を伝えることができた。

また、「スタートアップセミナー」を受講した学生のうち約78%から、「チームプロジェクトの成果をWebで発信することは社会的に意義があった」との質問に対し、肯定的な回答を得られた（図1-5-3）。

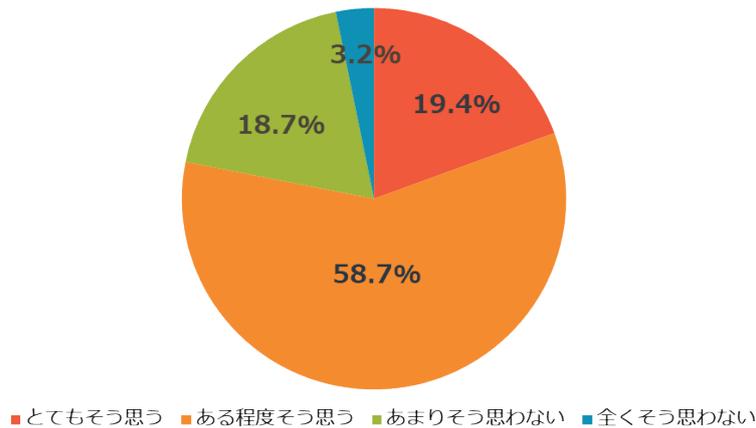


図1-5-3:地域に関するチームプロジェクトの成果をWebで発信することに対する社会的意義 (N=407)

大学生が地域に関する授業等の成果物等をAgo-Labを用いて発信することで、発信した内容そのものを情報源として、次の学年の学生が参照することも可能になった。「まだ配信されていない未発見の価値」を探すべく学生らは高いモチベーションでチームプロジェクトに取り組む姿も見られた。

また、島根県内の多くの高等学校では、総合的な学習の時間に地域課題探求等の「地域をフィールドとした課題解決型学習」を行っている。COC+大学では、平成31年2月に島根県教育委員会との包括連携協定を締結しており、連携事業の一つに前述のような地域学習の支援事業がある。例として、島根県立松江東高校が令和元年度に採択された文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」においてカリキュラム開発支援・教育実践支援事業が挙げられる。この取組の一環で、本年度はAgo-Labの閲覧利用を高校での授業に組みこんだ。次年度以降、地域学習に関する情報の発信・集約機能の活用を含むさらに効果的で多面的な地域教育の在り方について、高大連携で開発・実践していく計画を検討しており、本事業の取組みが他へ波及効果をもたらした実例となった。

## 第6章 その他事業全般に係る事項

オールしまね COC+事業を効果的に実施していくため、主幹校である島根大学に COC+推進委員会（旧称：地域協創推進本部会議）を昨年設置し、今年度も開催した。また、本事業全体について事業計画の見直し・改善等のマネジメントを行う「しまね COC+事業推進協議会」を高等教育機関間や島根県および県内産業界・各団体の代表との連携のもと開催した。また、その下部組織として「しまね COC+事業推進協議会教育プログラム開発専門委員会」を開催し、各高等教育機関の取組内容の共有や共同企画の調整を行うとともに事業終了後の継続について協議した。

### 6-1. COC+推進委員会の開催

本 COC+事業の事業計画の決定、計画全体の進捗マネジメントを行う体制として、地域協創推進本部を島根大学におき、表 1-6-1 の通り会議を開催した。委員一覧は表 1-6-2 に示した。

表 1-6-1：令和元年度開催 COC+推進委員会一覧

	実施日時	議事内容
第3回	6月10日（月） 16:00～17:00	議題 1. 平成30年度 COC+事業の第一次評価について 議題 2. その他
第4回	2月17日（月） 13:00～14:00	議題 1. 令和元年度および事業期間全体に係る COC+事業の第一次評価について 議題 2. その他

表 1-6-2：令和元年度 COC+推進委員会委員名簿

役 職	氏 名	備 考
学長	服部 泰直	委員長
理事（総務・労務担当）／副学長	藤田 達朗	
理事（学術研究・イノベーション創出担当）／副学長／地域未来協創本部長	秋重 幸邦	副委員長、COC+事業責任者
理事（教育・学生支援担当）／副学長	荒瀬 榮	
理事（医療・附属病院担当）／副学長	井川 幹夫	
理事（大学経営・財務、事務総括担当）	吉田 靖	
理事（社会・産学連携担当）	宮脇 和秀	
地域未来協創本部副本部長	佐藤 利夫	
法文学部長	田中 則雄	
教育学部長	加藤 寿朗	
人間科学部長	村瀬 俊樹	
医学部長	鬼形 和道	
総合理工学部長／自然科学系研究科長	廣光 一郎	
生物資源科学部長	井藤 和人	
COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	
地域未来協創本部地域人材育成部門長	松崎 貴	

## 6-2. しまね COC+事業推進協議会の開催

本事業が地域の本質的課題により効果的に貢献するよう、産官学それぞれの立場から、事業計画全体の精査を行うため、県内各高等教育機関および事業協働自治体、事業協働機関の代表者によるしまねCOC+推進協議会を表1-6-3の通り開催した。委員構成は、表1-6-4に示した。

表 1-6-3：令和元年度 しまね COC+事業推進協議会の開催

	実施日時	議題等
第5回	7月31日（水） 15:00～17:00	(1) 報告事項：平成30年度COC+事業の評価結果について (2) 議題：COC+事業の継続について (3) その他

表 1-6-4：令和元年度 しまね COC+事業推進協議会 委員名簿

役 職	氏 名	備 考
松江商工会議所 会頭	古瀬 誠	
島根経済同友会 代表幹事	川上 裕治	
島根県中小企業団体中央会 専務理事	中村 光男	
株式会社山陰中央新報社 代表取締役社長	松尾 倫男	
株式会社山陰合同銀行 専務執行役員	今若 康浩	
公益財団法人ふるさと島根定住財団 理事長	原 仁史	
特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい 理事	三輪 利春	
特定非営利活動法人でこねっと石見 理事長	藤田 貴子	
島根大学長	服部 泰直	委員長
島根県立大学長	清原 正義	参加校代表
松江工業高等専門学校校長	平山 けい	参加校代表
島根県政策企画局長	野津 建二	参加自治体代表
島根大学理事（学術研究・イノベーション創出担当） 地域未来協創本部長	秋重 幸邦	COC+事業責任者
島根大学地域未来協創本部 副本部長	佐藤 利夫	
島根大学 COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	地域未来協創本部客員教授
島根大学地域未来協創本部 地域人材育成部門長	松崎 貴	

協議会では、平成30年度COC+事業の評価結果として、数値目標は事業協働地域就職率を除き概ね達成されており、外部評価（二次評価）では各取組が計画を上回って実施されていると評価され、中長期的な視点での追跡調査を行いながら、事業終了後もこのような試みを継続発展させ、地域への定着を図る必要があると提言があった。

また、COC+事業の継続の方向性として、事業目的・目標は県の次期総合戦略とも連動するよう見直しを図り、これまでのCOC+の取組のうち、①地域未来創造人材の育成、②しまね大交流会、③しまね協働教育パートナーシップに集中し、「入口対策」、「出口対策」、「産業・雇用創出支援対策」の視点で、継続事業の柱として強化・発展することとしてはどうかという意見が上がった。そして、継続のための実施体制である産官学によるコンソーシアムの設立に向けて、別途、準備委員会を立ち上げて、他県の準備状況も参考にしながら、参加団体やコストシェア等の具体的な検討を行っていくことが確認された。

### 6-3. しまねCOC+事業推進協議会教育プログラム開発専門委員会の開催

教育プログラム開発専門委員会を島根大学と島根県立大学浜田キャンパス、松江工業高等専門学校をTV会議システムにて中継して、表1-6-5の通り実施した。委員一覧について表1-6-6に記載した。

表1-6-5. 令和元年度開催 教育プログラム開発専門委員会開催概要

	実施日時	議事内容
第6回	4月26日（金） 13:00～14:30	議題1. 2020年度以降の事業継続について 議題2. その他
第7回	5月31日（金） 13:00～14:30	報告1. 平成30年度COC+事業成果報告書について 議題1. 2020年度以降の事業継続について 議題2. その他
第8回	6月27日（木） 13:00～14:30	議題1. 2020年度以降の事業継続について 議題2. その他

表1-6-6. 教育プログラム開発専門委員会 委員一覧

役 職	氏 名	備 考
島根大学地域未来協創本部本部長	秋重 幸邦	理事（学術研究・イノベーション創出担当）
島根大学地域未来協創本部副本部長	佐藤 利夫	
島根大学COC+推進コーディネーター	池淵 昇平	
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門長	松崎 貴	
島根大学地域未来協創本部地域人材育成部門/講師	高須 佳奈	
島根大学教育・学生支援機構 大学教育センター准教授	丸山 実子	
島根大学教育・学生支援機構 大学教育センター講師	田中 久美子	
島根大学COC+キャリアプランナー	赤藤 明彦	
島根大学COC+キャリアプランナー	三浦 大紀	
島根県立大学キャリアセンター長	久保田 典男	
島根県立大学キャリア支援室長	俵 正光	
松江工業高等専門学校 校長補佐（研究担当）	堀内 匡	
松江工業高等専門学校 キャリア支援室長	服部 真弓	
島根県政策企画局政策企画監室 企画員	伊藤 剛	
島根県商工労働部雇用政策課 主任	石橋 寛基	

本委員会では、2020年度以降の事業継続について事業の選択と集中を図りながら継続の方向を確認し、取組内容として「地域未来創造人材の育成」「しまね大交流会」「しまね協働教育パートナーシップ」に集中し、強化・発展する方向意見で一致した。

#### 6-4. 事業フォローアップアンケートの実施

事業協働機関を対象としたフォローアップアンケート調査を令和元年7月に実施した。その結果、平成30年度事業に対する満足度が85%（「とても満足している」または「ある程度満足している」と答えた事業協働機関の合計）となり、目標値85%を達成した。

#### 6-5. 令和元年度事業に対する評価の実施

地域協創本部会議構成員による第一次（内部）評価を令和2年2月17日に行った。評価結果は次の通りである。

表 1-6-7 令和元年度 COC+事業 第一次評価結果

評価項目	評価点
■令和元年度の評価	
I. 地域未来創造人材の育成	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
II. 異業種大交流会	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
III. しまね協働教育パートナーシップ	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
IV. しまねクリエイティブラボネットワーク	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
V. 地域情報アーカイブ“Ago-Lab”	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
■事業期間全体評価（H27～R1）の評価	
VI. 事業総括	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
総合評価	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

評価点) 5: 目標・計画を大きく上回った/4: 上回った/3: 目標・計画の通り実施した/2: 下回った/1: 大きく下回った

### 【講評】

#### 令和元年度の評価

##### I. 地域未来創造人材の育成

地域志向教育が全学的に展開され、地域協働教育事業への参加学生数やキャリアデザインプログラムの履修者数が増加した。また、COC 人材育成コースの1期生の山陰地域への就職内定者が約90%に達したことから、計画を上回る取り組みがなされたと判断し、評価点「4」とする。

##### II. 異業種大交流会

高校生を含む学生・生徒が1722名参加するなど、参加者総数が2807名と年度計画（平成28年度比70%増）を上回り、企業側・学生側双方の満足度も高く、他県の類似のイベントと比較しても大規模なイベントに成長した。また、県をはじめとするコストシェアが拡大するなど、COC+終了後も地域全体で継続していくための中心的な取組として地域からの評価も高いことから、計画を大きく上回ったと判断し、評価点「5」とする。

##### III. しまね協働教育パートナーシップ

登録団体が最終目標値の200団体を超え、20%増の242団体となった。さらに、登録団体へのインターンシップ参加学生数や就職者数が増加したことから、計画を上回る取り組みがなされたものと判断し、評価点「4」とする。

##### IV. しまねクリエイティブラボネットワーク

「地域コミュニティラボ」「技術コミュニティラボ」「ものづくりコミュニティラボ」、いずれも活発な活動がなされた。さらに「技術コミュニティラボ」における交流の結果、参加した学

生の県内就職につながるなど、計画を上回る取り組みがなされたものと判断し、評価点「4」とする。

#### V. 地域情報アーカイブ“Ago-Lab”

投稿アカウント数が前年度から384件増加し、年度計画（前年度から300件増加）を上回り、ページビュー数も20000件以上増加した。また、地域志向教育やしまね大交流会での連動も図られており、計画を上回ったと判断し、評価点「4」とする。

### 事業期間全体（H27～R1）の評価

#### VI. 事業総括

事業協働地域就職率が目標を達成できていないものの、その他のすべての目標が達成される見込みであり、産学官協働による人材育成の基盤を構築することができた。さらに、県や経済団体等と連携して、若者の育成と定着を目指したコンソーシアムの今年度内の設立を目指し、コストシェアも含めた事業終了後の継続についての検討も進んでいることから、計画を上回ったと判断し、評価点「4」とする。

以上のとおり、IからVIの項目別評価点等を総合的に勘案し、総合評価は評価点「4」とする。

#### 【課題・提言】

##### I. 地域未来創造人材の育成

- ・事業協働地域就職率向上に向けて、企業と連携した教育プログラムの充実が必要。
- ・様々なプログラムの相互的・相補的な効果について多角的な検証が必要。
- ・地元高校からの進学者に対応する取り組みに期待する。

##### II. 異業種大交流会

- ・参加した大学生や高校生と地元企業等との適切なマッチングの機会としての機能の強化を図りたい。
- ・参加企業による職場の魅力発信などの取り組みに期待する。

##### III. しまね協働教育パートナーシップ

- ・若者の地域定着と結び付ける取組の強化が必要。

##### IV. しまねクリエイティブラボネットワーク

- ・「技術コミュニティラボ」では、地元企業との産学連携やイノベーションの創出、ベンチャー企業の立ち上げの起点になることができればより価値の高い活動になる。
- ・各学部及び県産業技術センター等の試験研究機関とさらに連携した取組を行うと効果的。

#### VI. 事業総括

- ・地元への就職率が目標値に大きく及ばなかったことは大きな反省点である。後継事業については、各高等教育機関、島根県、県内企業等において検討が進んでいるが、高等教育機関の地元への就職率向上にしっかり焦点を合わせた取り組みを期待する。

- ・学生の意識、ニーズに沿った取組の工夫と成果の定着に向けた継続的な取組を期待したい。

外部評価委員による第二次（外部）評価を令和2年3月9日に行った。評価結果は次の通りである。

表 1-6-8 令和元年度 COC+事業 第二次評価結果

評価項目	評価点
<b>■令和元年度の評価</b>	
I. 地域未来創造人材の育成	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
II. 異業種大交流会	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
III. しまね協働教育パートナーシップ	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
IV. しまねクリエイティブラボネットワーク	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
V. 地域情報アーカイブ “Ago-Lab”	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
<b>■事業期間全体評価（H27～R1）の評価</b>	
VI. 事業総括	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
<b>総合評価</b>	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

評価点) 5: 目標・計画を大きく上回った/4: 上回った/3: 目標・計画の通り実施した/2: 下回った/1: 大きく下回った

**【講評】**

この5年間着実に実績を積み上げたことを評価し、総合評価「4」とする。

特に、「I. 地域未来創造人材の育成」については、これまでの取組の成果がCOC人材育成コース生の県内就職率に現れており、「II. 異業種大交流会」と同様に、目標・計画を大きく上回ったと評価し、それぞれ評価点「5」とする。

**【課題・提言】**

- ・価値の共有という点で文系が今後重要な役割を果たすと考えられる。今後はぜひ文系の教員に積極的な参加を期待したい。
- ・今後新たなコンソーシアムで事業を継続されるにあたって、根幹のところである有為な人材を輩出していただき、結果として、地域であり日本であり世界全体の課題解決に貢献することへ結びつけていただくことを期待したい。
- ・コンソーシアムでは島根大学がリーダーシップを取って、学生の意識を高めることと、産業界を巻き込んで受け皿を大きくして欲しい。そういった息の長い地道な取組の積み重ねが、地元就職率の向上につながっていくものと期待する。
- ・今後は島根県出身の県外へ出た学生のUターンも視野に入れ、しまね学生登録という

制度も活用されると良い。また、保護者や高校の教員もキーマンであり、大人向けセミナーの充実など、もっと広く取り組んでいただきたい。

- ・COC人材育成コース生として、地域での活動を通して地域の課題解決の方法や地域を知ることにつながったので、COC人材育成コースの入試を今後も続けてほしい。
- ・「しまね大交流会」は、年々参加者、特に高校生の参加者が増加し、中海・宍道湖・大山圏域市長会が取り組む地方創生の一施策である定住の促進、UIJターンの推進の礎となる大変有意義な取組であると、高く評価する。境港市の高校生や企業も参加しており、取組が更に広がることを期待する。

【外部評価委員】

中村宗一郎氏（国立大学法人信州大学理事・副学長）、清水寿夫氏（境港市副市長）、廣田晃良氏（日本政策投資銀行松江事務所長）、木内吾平氏（JR西日本米子支社山陰地域振興本部課長）、大原義起氏（中国ニュービジネス協議会常務理事）、中山智徳氏（島根大学生物資源科学部4年生）、以上6名

6-6. 文部科学省による事業フォローアップについて

平成27年度より事業を開始したCOC+事業は、日本学術振興会に設けられた「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による審査・評価を受けることとなっている<sup>1</sup>。この委員会による、COC+事業の効果的な実施及び事業目標の着実な達成に資するため、選定された各事業の進捗状況や成果等を適切に把握・確認し、必要に応じて指導・助言を行う一連の取組は、フォローアップと呼ばれ、図1-6-1の通り、COC+事業最終年度の翌年度にあたる（平成32年度）令和2年度までの計画がなされている（日本学術振興会による図版を基に作成<sup>2</sup>）。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
平成27年度COC+選定事業			選定	フォローアップ	中間評価	フォローアップ	フォローアップ	事後評価
平成25年度COC選定事業	選定			平成28年度評価		フォローアップ	フォローアップ	事後評価
平成26年度COC選定事業		選定		平成28年度評価				

・ ・ 事業期間  
 ・ ・ 事業期間終了後

図 1-6-1 : COC+事業におけるフォローアップの概要  
（日本学術振興会 Web サイトを元に作成）

平成27年度より、COC事業はCOC+事業に組み込んでの実施となり、令和元年度は総体としてのフォローアップの年度となった。

<sup>1</sup>日本学術振興会：<https://www.jsps.go.jp/j-coc/index.html>

<sup>2</sup>日本学術振興会：[https://www.jsps.go.jp/j-coc/data/followup/00\\_coc\\_gaiyou.pdf](https://www.jsps.go.jp/j-coc/data/followup/00_coc_gaiyou.pdf)

1  
2  
3  
4  
5  
6  
第1部  
第2部

フォローアップの結果は以下のとおりであり、課題として挙げられている点もあるが、特に順調に進捗している点のほうが多く記載されている。

### 1. 進捗状況の概要

#### ■特に順調に進捗している点

・関係部局を集約した「地域未来協創本部」のもと、地域未来創造人材の育成に向けて、正課内外にわたって幅広く事業が持続的に展開されている。

#### ■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

・特になし。

### 2. 中間評価時に付された留意事項等への対応

#### ■特に順調に進捗している点

・山陰出身学生の県内高等教育機関への進学を促すことを目的に、COC+大学では「島根大学 県内定着支援金」の創設や、「地域貢献人材育成入試」の拡大が推進されている。

#### ■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

・特になし。

### 3. 達成目標と事業内容

#### ■特に順調に進捗している点

・しまね協働教育パートナーシップへの登録団体数が順調に増加し、「しまね協働教育パートナーシップ参加企業・NPO等件数」については、既に最終年度の目標値を達成している。また、異業種交流会である「しまね大交流会」については、地元高校生の参加を促しつつ、参加者数が着実に増加している。

#### ■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

・「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」は目標値を達成しているものの、平成29年度以降経年的な減少傾向が見られる。減少傾向に歯止めをかけるための拡充策の実施が求められる。

### 4. 事業経費その他特筆すべき事項

#### ■特に順調に進捗している点

・事業推進経費について、事業協働機関とのコストシェアが順調に拡大しており、持続可能な実施体制が整備されている。

#### ■課題（事業終了に際し改めて確認を必要とする点）

・特になし。

## 第2部

# オールしまねCOC+事業 事業総括



## COC・COC+事業の成果の概要

平成 27 年度に採択され事業を開始したオールしまね COC+事業は、その前段階の補助事業にあたる島根大学 COC 事業（平成 25 年度採択）と、島根県立大学 COC 事業（平成 26 年度採択）から数えるとその事業期間は約 7 年間に及ぶ。COC 及び COC+事業は、事業の主体となった高等教育機関の内外に次のような変化をもたらした（表 2-0-1）。

表 2-0-1 : COC、COC+事業の成果

	<b>COC事業</b> 「地（知）の拠点整備事業」	<b>COC+事業</b> 「地（知）の拠点大学による 地方創生推進事業」
<b>教育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に関する授業科目の新設および既設科目の改善</li> </ul> <p>  </p> <p>地域を通して学生が学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左に加え、インターンシップおよび準正課教育における地域協働教育の実施</li> </ul> <p>  </p> <p>地域を通して学生が学ぶ 学生が地域とともに学ぶ</p>
<b>研究</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員個人レベルでの地域課題解決型研究の実施</li> </ul> <p>  </p> <p>地域と研究者個人が線でつながる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左に加え、グループ体制による地域課題解決型研究の実施</li> </ul> <p>  </p> <p>地域と組織全体が多面的につながる</p>

地域と  
高等教育機関の  
緊密な連携体制  
が実現

かつては、高等教育機関と地域との連携は、産学連携といった研究機関としての機能面のみ限定され、それゆえに「敷居が高い」と地域から評されることも少なくなかった。しかし、COC・COC+事業の取組みで大学教育改革が進んだこともあり、現在では地域を通して学生が学ぶ授業科目の実施や、COC+事業で特に力を入れてきた準正課教育等で学生が地域とともに学ぶ機会が格段に増えた。ただし、前者については高等教育機関として学生に教授する内容そのものを大きく変えたのではなく、アカデミックに一般化された教授内容において地域の事例を取り上げケーススタディとして詳しく検討することや、扱うデータを地域色の強いものを選びより実感をもって分析できるようにするなど、領域に応じた様々な工夫がなされている。これらは、高等教育としての質を維持しながら、地域というキーワードを加味することで実感や温度感のある内容へと改善を図った教育改善であり、一方で島根・鳥取という課題先進県に立地する高等教育機関でしか提供しえない、社会的に意味のある改革となったといえよう。研究面においても、COC 事業における地域課題解決型教育の推進により、COC+事業の KPI でもあった共同研究件数・契約金額等は従来よりも格段に多くなった。これについては後述する（図 2-2-9 参照）。

連携という目に見えないものを定量的に評価するのは困難だが、役割を異にする機関同士の連携事業の進展を見ることが数値として、COC+事業におけるコストシェアの変化を取り上げる。COC・COC+事業共に、5 年間の補助期間終了後も事業を継続することが、申請時の要件となっていた。これについて、本事業では産学官で事業に取り組むなかで、挑戦

的な事案や公共的な意義が十分に認められる事案については、早期からコストシェアを図ってきた。その経年推移を図 2-0-1 に示す。

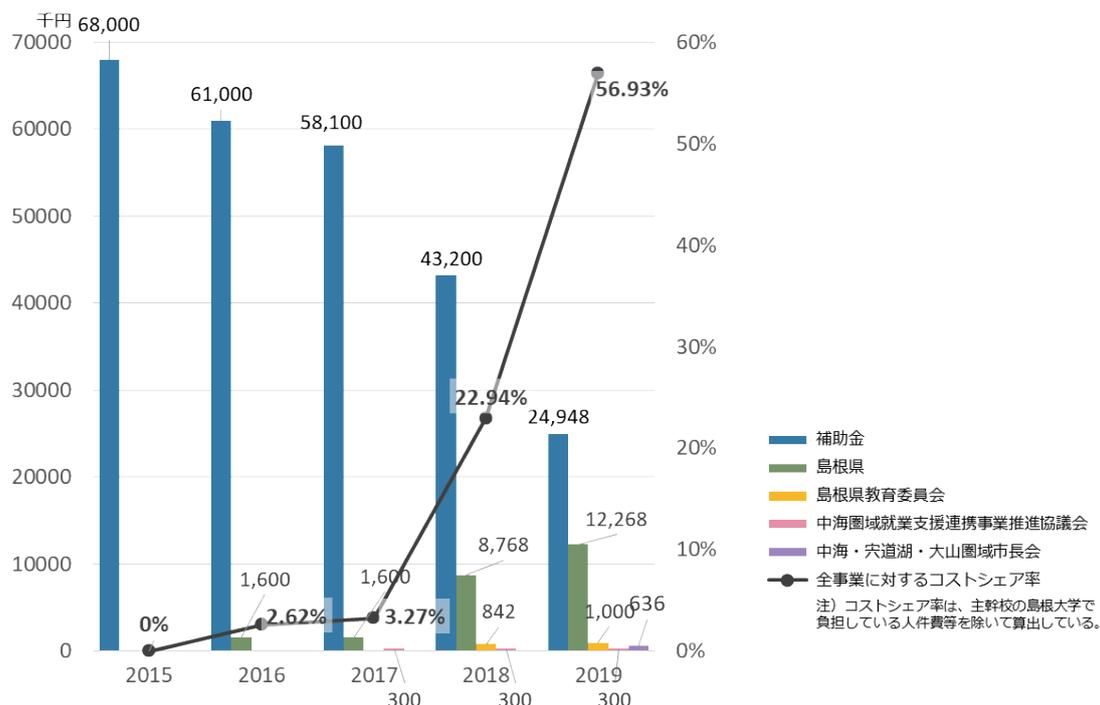


図 2-0-1：本事業のコストシェアの変化  
(グラフ中 2019 年度：令和元年度は予算ベースで算出)

図 2-0-1 の通り、最終年度となった令和元年度においては、事業費の約 60% を補助金外の資金で賄うことができた。本事業では、「地域未来創造人材の育成」を核に事業を実施してきた。この人材育成という観点は、自治体における地域の経営や、企業等における人材確保・組織強化という点で、高等教育機関とそれぞれを結ぶ結節点となっている。人材育成というベクトルを共にして協働で取組むことは、互いが単体で類似事業を実施するよりもはるかに実効性が高いことが理解された結果が、コストシェアの変化に表れているといえる。その 5 年間の協働事業の成果を端的に示したものを表 2-0-2 に示した。

次に、5 年間の事業期間を俯瞰し取組全体の成果総括を行う。構成は次の通りとする。

- 【1】 事業概要と 5 年間の事業進化
- 【2】 事業 KPI の進捗とロジック・モデルによる事業戦略・成果・効果の検証
- 【3】 今後の課題と補助期間終了後の事業継続について

まず【1】において、本事業申請時の事業構想から、事業が多様な協働により実施されていく過程を当初計画と比較して報告する。【2】では、あらためて事業の目的・目標を確認し、本事業で実施した内容について、ロジック・モデル（≒戦略）を可視化し、実際に取り組んだ事業（施策）がそれぞれ有効に働き、アウトカム創出に至ることができたかを、事業 KPI を軸として検証し、次のステップを明確化することを試みた。そのうえで【3】においては、課題を整理し、今後の計画について取りまとめた。

表 2-0-2 : 各プロジェクトの 5 年間の主な成果

【1】地域未来創造人材の育成	
<p>しまね大交流会や、企業ツアー、セミナーなどの正課の授業科目ではない「準正課教育」にて、企画開発・共同運用を行い教育機関間連携を強める。平成28年度より島根県の支援を受けながら、それら準正課教育の企画を充実。</p>	
島根大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の新規開講科目として「地域未来論」「ものづくりと創造性」「実例ビジネス開発論 - 社会構造の変化に対応する新しい価値の共創-」を開講。</li> <li>・地域志向型初年次教育の全学必修化</li> <li>・地域未来創造人材を育成するため教育プログラムとして「キャリアデザインプログラム」を設置。最終年度時点で松江キャンパス4学年の履修者全数は635名。</li> <li>・平成30年度にCOC+協力大学の大正大学（東京都豊島区）と内閣府の「地方創生支援事業補助金：地方と東京圏の大学生対流促進事業」に採択。都市圏交換インターンシップとして本事業で計画・試行した内容がスピンオフ事業として展開。</li> </ul>
島根県立大学・同短期大学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しまね地域共生学入門」を始めとする地域志向教育科目の全学実施。</li> <li>・地域志向科目とプロジェクト学習を体系的に学び育成する「しまね地域マイスター」をこれまでに16名輩出。</li> </ul>
松江工業高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域志向科目「地域産業とエンジニア」「ふるさと産業学」の開講</li> <li>・地域志向科目とエンジニアリングデザイン演習やPBL手法を用いた創造演習等で課題解決能力の伸長を図る「地域志向エンジニア育成プログラム」が令和元年度に完成。</li> </ul>
【2】しまね大交流会	
<p>【平成27年度開始】産業界と高等教育機関の産学異業種交流会を、平成28年度より大学生だけでなく高校生をも対象としたキャリア教育の場にも企画を拡大。最終年度は約2800人を動員する地域随一の教育イベントとなり、学生満足度・キャリアデザインに対する学生有用感とも95%程度の水準を維持。地元企業・地域での暮らし等に対しポジティブな意識変化があった学生が毎年90%を超え、学生の地域に対する価値観の変化を創出。</p>	
【3】しまね協働教育パートナーシップ	
<p>最終年度目標値を1年前倒して達成し、最終的には200団体の目標に対し1.2倍にあたる242団体がしまね協働教育パートナーシップに登録。学生の地域協働教育への協力により、インターンシップや新卒採用などに好転的な影響が表れ始めている。</p>	
【4】しまねクリエイティブラボネットワーク	
地域コミュニティラボ	<p>【平成28年度設置】地域と協働した17回の企画展を実施。展示期間中にはギャラリートークを積極的に行い、学生が訪れやすい場所に設置したこともあり、これまでのべ約10300人の来場者があった。</p>
技術コミュニティラボ	<p>【平成29年度設置】これまで9回の「技術コミュニティラボ」を開催し、この結果、202名が参加し、25回の後日面談および4件の教員と企業等の共同研究（大学受入額305万円）を実施した。また、これに参加した学生が参加した地域企業へ1名就職した。</p> <p>平成30年度より、しまね大交流会の出展者交流の一環として『技術コミュニティラボLTin大交流会』を2回実施した結果、これまでに後日面談16件、外部資金への共同申請2件（内採択1件2019年度新モビリティサービス推進事業：総額4,130万円、大学には共同研費として160万円受入）、特許の申請1件、学内連携2件（IoT×災害、IoT・AI×農業）を創出した。</p>
ものづくりコミュニティラボ	<p>【平成29年度設置】試行段階で全国的な学生デザイン展（東京デザインウィーク）でグランプリを獲得。平成29年度に課題解決の手立てとしてのものづくりを学ぶ「ものづくりと創造性」を教養育成科目として新規開講開始。学生によるリノベーションプロジェクト、デジタル工作機器制作プロジェクトなどを経て、大学生だけでなく小学生から現役社会人・リタイア層といった幅広い年齢層に本ラボを活用した学びを提供している。</p>
【5】地域情報アーカイブ『Ago-Lab』	
<p>教育活用を主眼としたこれまでにない地域情報アーカイブシステムを構築。地域からの情報の蓄積とその教育活用だけでなく、学生の地域志向科目の取組み成果の発信・蓄積を実現。地域の事業所や学生の投稿アカウント数約1700件、ページビュー数累積約85000PV。</p>	

1

2

3

4

5

6

第 2 部

オールしまねCOC+事業  
事業総括

【1】事業概要と5年間の事業進化

本事業は、文部科学省による大学改革推進事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」で、事業全体の目的は、「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる『ひと』の地方への集積」である。これに対し、島根県内の高等教育機関と島根県が協働して実施している「オールしまね COC+事業」は、正式取組名を「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」といい、その当初計画の概要は、図 2-1-1 に示す内容であった。

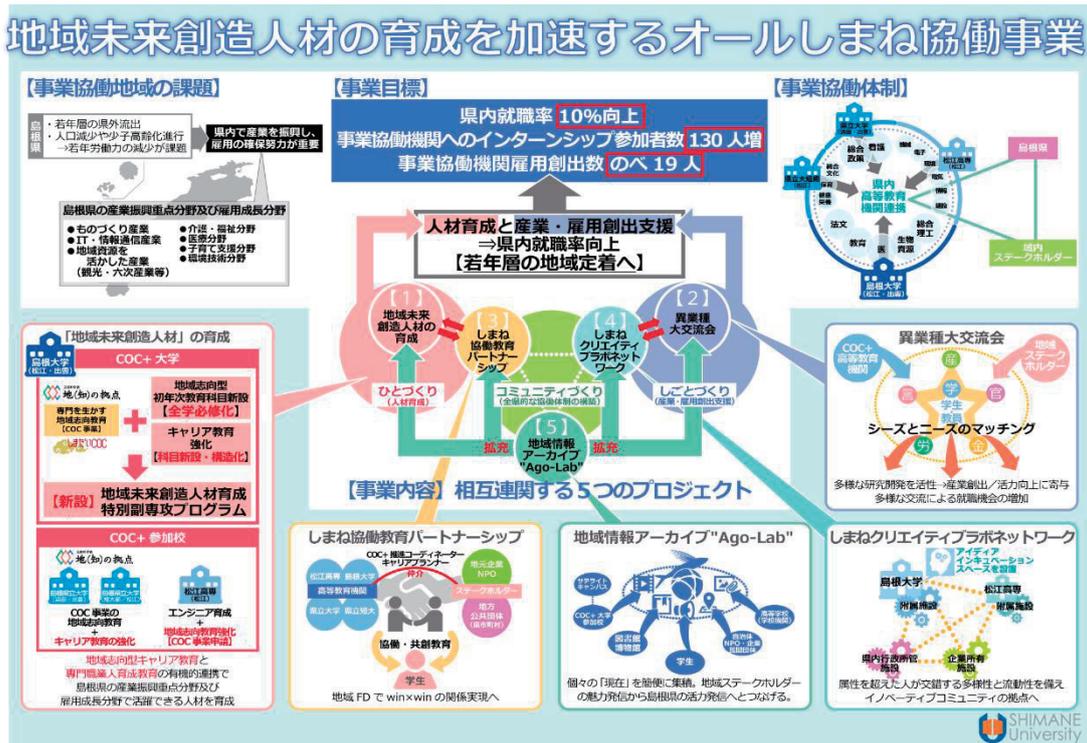


図 2-1-1：事業申請時の事業説明図

本事業を構成する要素自体の変更はないが、年度ごとに事業内容を見直し改善を図り、取組の積み重ねてきたことで、最終的には、5つのプロジェクトの相互関係は図 2-1-2（図 1-0-1 を再掲している）のように、人材育成を核としたものに変化した。

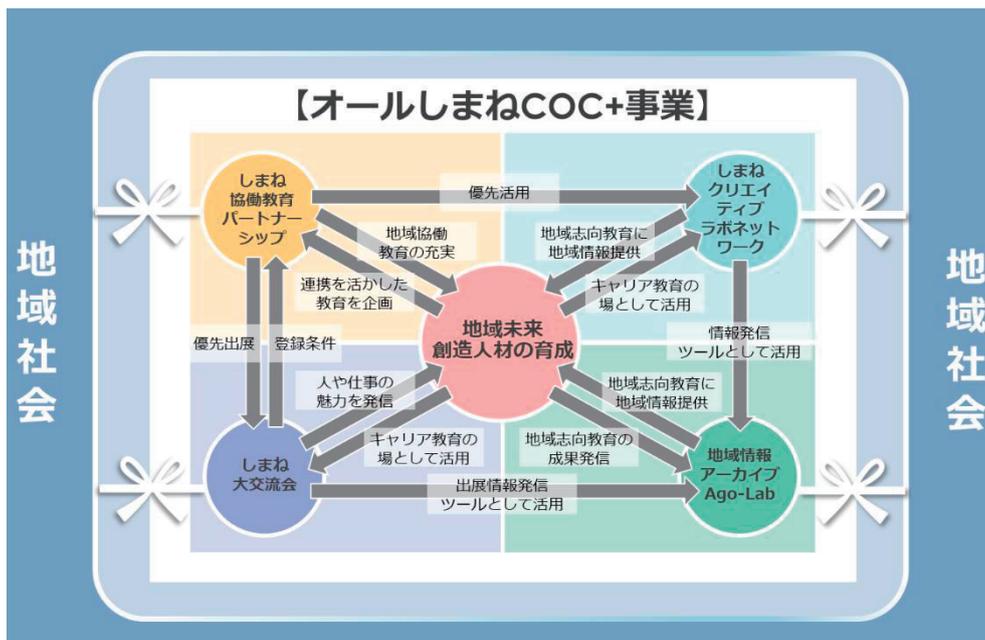


図 2-1-2 : 5つのプロジェクトの最終的な相互関係図

5つのプロジェクトは、体系的に設計された正課の授業科目群からなる教育プログラムの実践、大規模な交流会の実施、教育パートナーの可視化・制度化、多様なコミュニティの形成、Web上に展開する情報アーカイブなど、それぞれ性質が全く異なるため、実装レベルに引き上げるのに必要な開発期間もそれぞれ異なった。そこで、事業申請・採択時において、5つのプロジェクト5カ年の計画は、図 2-1-3 のように説明されていた。

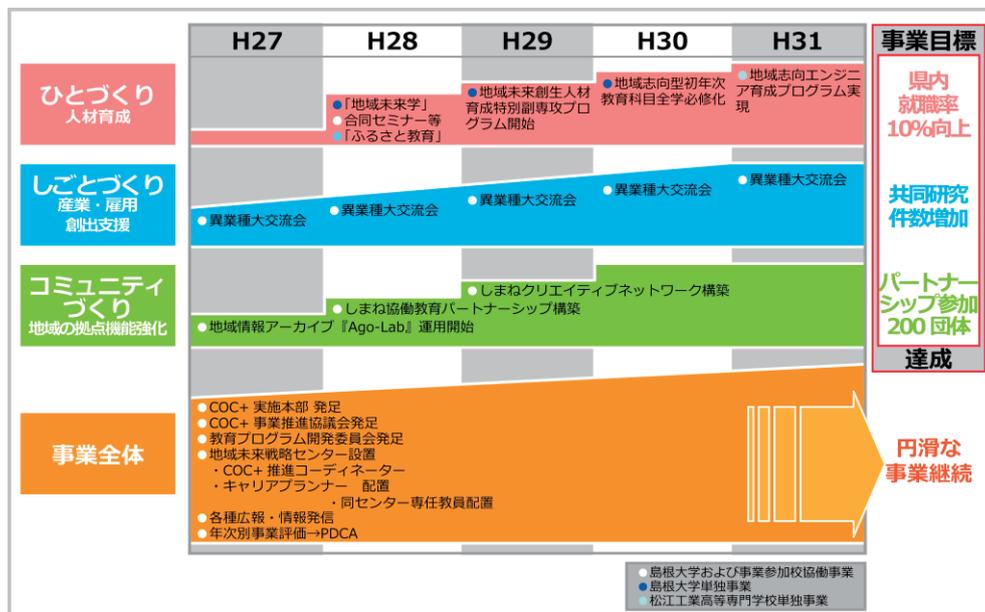


図 2-1-3 : 事業申請・採択時の5カ年の事業計画

事業視点に伴い、本事業による取組は年次を経るにしたがって重層化する形態となった。各プロジェクトの主なトピックスに絞り、時系列的な変化の概観を図 2-1-4 に示した。

図 2-1-3 と比較して時間経過に着目すれば、地域コミュニティラボ開設やしまね協働教

1  
2  
3  
4  
5  
6  
第2部  
オールしまねCOC+事業  
事業総括

育パートナーシップ登録団体数の最終年度目標値達成など、一部計画を前倒して実行できたものもあり、事業運営はおおむね堅調になされたと言える。一方図中にも示した通り、計画策定時には予測できなかったものの、特定テーマについては別の補助金申請など取組の拡大機会を的確に活用するなど、地域における本事業の波及効果が得られた。

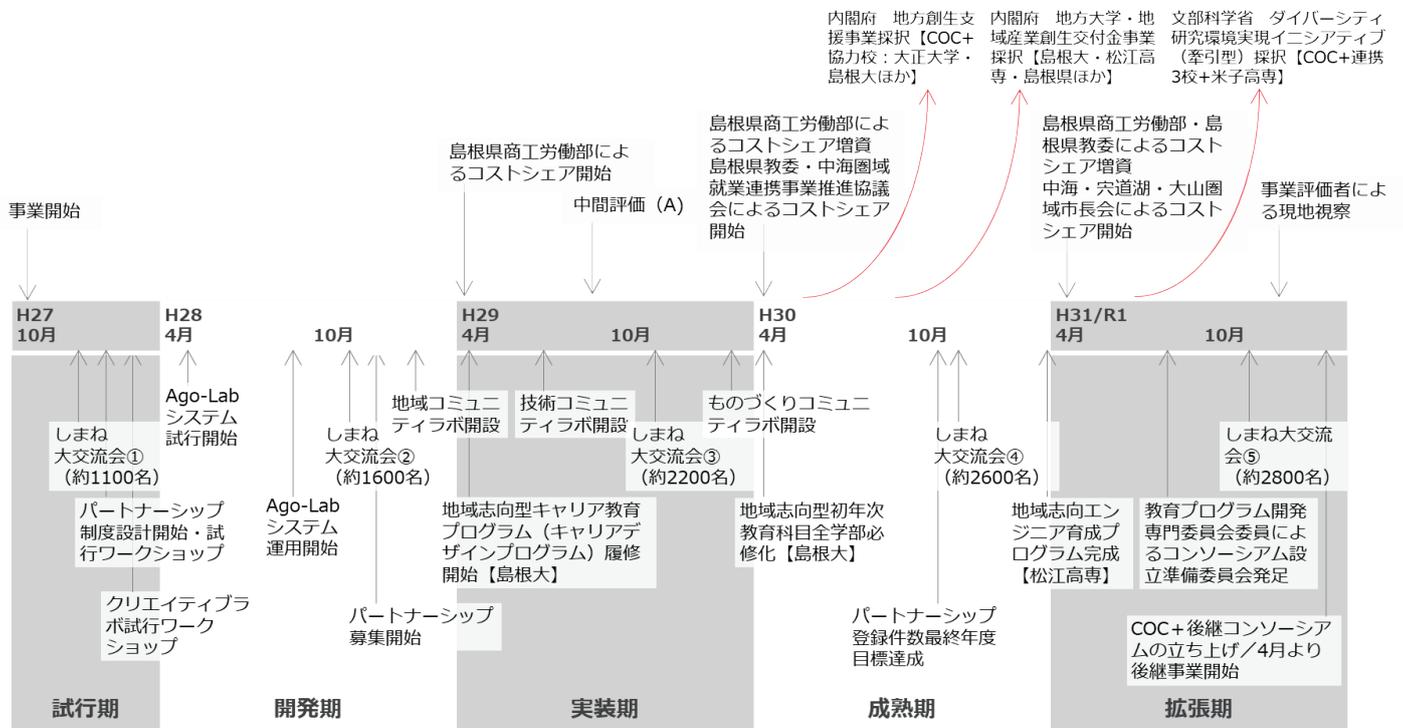


図 2-1-4：本事業の5年間の時系列進行

本事業の5つのプロジェクトについて、5年間で具体的にどのような進展があったのかについて、既出の図 2-1-2 に最終年度までの取組から抜粋して重ねたものを、図 2-1-5 に示す。

既刊の年度ごとの事業成果報告書にも記載している通り、プロジェクト単体の計画自体は設定目標値を上回る実績を毎年積み重ね、着実に成果を上げてきた。しかしながら、それら数的な成果の成長が、事業のそもそもの目標である「若年層の東京一極集中の解消」すなわち、地方においては「地域の持続可能性の向上」にどの程度実効性があったのかについては、事業を総括するうえで内省的な検証が必要である。これについては次項【2】で検討を試みる。また、事業目標が大きな社会変化を要するものであるから、本事業の補助期間終了後も地域における自助努力は、継続が不可欠である。よって、事業開始時に顕在化していた問題点の解決は本事業が担ってきたが、その事業進展に伴ってさらなる改善・質の向上等のいわば「次のステップ」が見えてきた。これらについて事業協働機関が総がかりで検討を行っており、これについては【3】に述べる。一方、このような産官学のフラットな関係性での協働体制が構築できたことも、本事業の成果の一つといえよう。

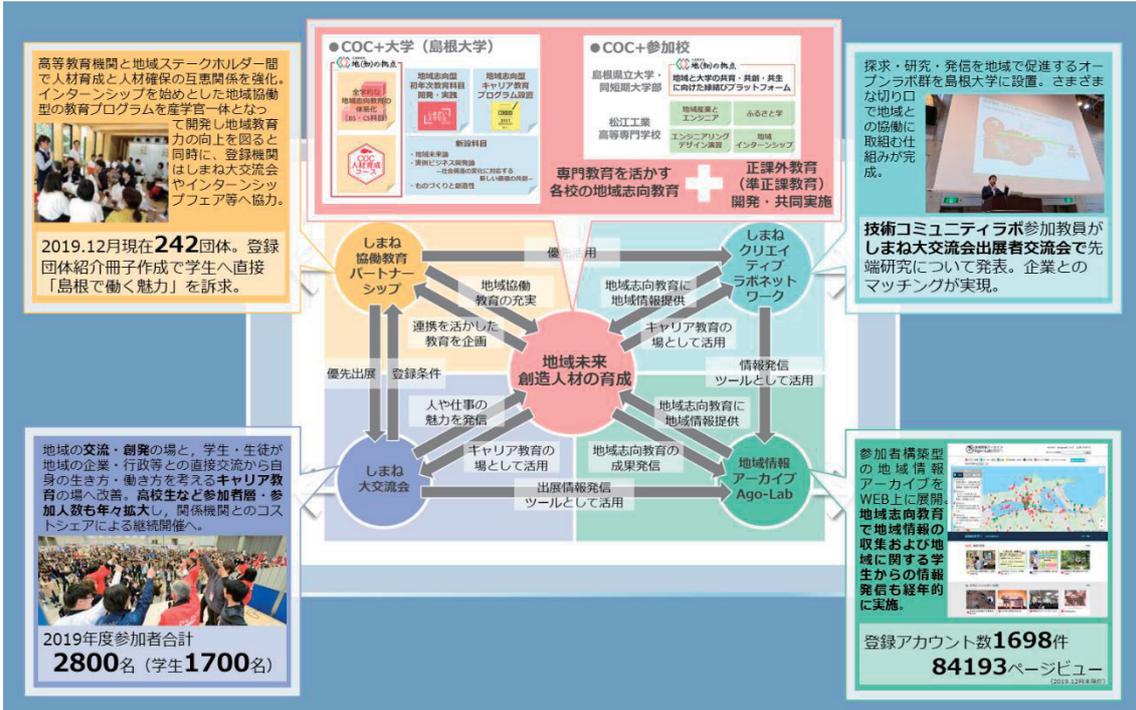


図 2-1-5 : 5つのプロジェクトの最終年度までの成果概要

【2】事業 KPI の進捗とロジック・モデルによる事業戦略・成果・効果の検証

先に示した通り、本事業の運営自体は計画通りに実行できた。その成果指標として文部科学省による指定 KPI を含めた事業 KPI が設定されている。これについて、最終年度までの経過を表 2-2-1 及び、図 2-2-1 に示す。

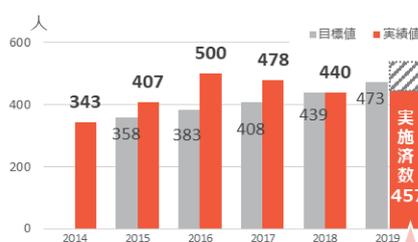
表 2-2-1：事業 KPI 年度別推移一覧表

項目	H26年度 (基準)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	
	実績	実績	実績	実績	実績	目標	実績
事業協働地域就職率	35.1%	35.0%	34.7%	35.5%	34.7%	45.1%	集計前
うち申請大学	32.0%	28.3%	28.9%	27.7%	29.0%	42.5%	集計前
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	343人	407人	500人	478人	440人	473人	集計前
うち申請大学	148人	196人	185人	208人	212人	221人	集計前
事業協働機関雇用創出数	0人	8人	10人	17人	21人	5人	集計前
事業協働機関との共同研究・受託研究件数	90件	111件	103件	111件	114件	95件	98件
しまね協働教育パートナーシップ参加企業・NPO等件数	0件	12件	55件	136件	203件	200件	242件

事業協働地域就職率  
(最終年度目標値はH26 +10%)

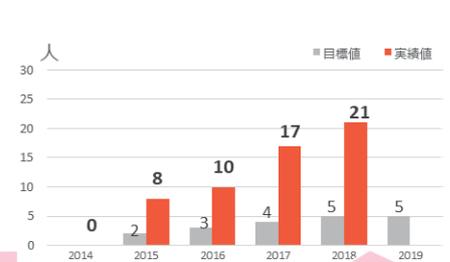


事業協働機関への  
インターンシップ参加者数



2020.1.20現在実施済人数457人  
春期参加予定者76人で  
年度合計値は目標値を達成予定

事業協働機関雇用創出数



最終年度目標 のべ19人  
2018年度までの累計 のべ56人

事業協働機関との  
共同研究・受託研究数



しまね協働教育  
パートナーシップ登録団体数

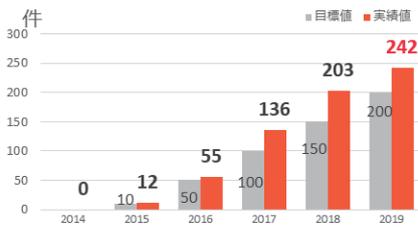


図 2-2-1：事業 KPI 年度別推移

表 2-2-1、図 2-2-1 にそれぞれ示した通り、事業協働地域への就職率の項目以外の KPI は、最終年度の目標値を全て達成している。しかしながら、本事業の目的を鑑みると、事業協働地域への就職率は、他の KPI とは違い、事業目的に直結したものであり、これが達成できなかった要因は丹念に検証する必要がある。すなわち、本事業の 5 つのプロジェクト個別の検証ではなく、それらのシナジー効果も含め、戦略全体のロジックの検証を行い、補助期間終了後にむけて、次のステップについての本質的な論点を明らかにしなければならない。

そこで、ODA (Official Development Assistance: 政府開発援助) の事業評価で開発され、現在は行政評価にも導入が進んでいるロジック・モデルを本事業に適用し、戦略 (ロジック) の検証を試みた。ロジック・モデルの構造を図 2-2-2 に示す。本事業で計画・実施された取組を単純化して再整理したものが図 2-2-3 である。

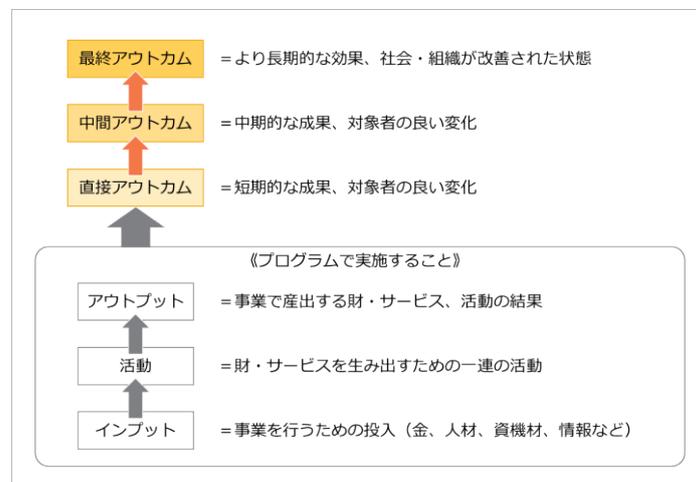


図 2-2-2: ロジック・モデルの構造 (源由理子編著 (2016) 「参加型評価」 を基に作成)

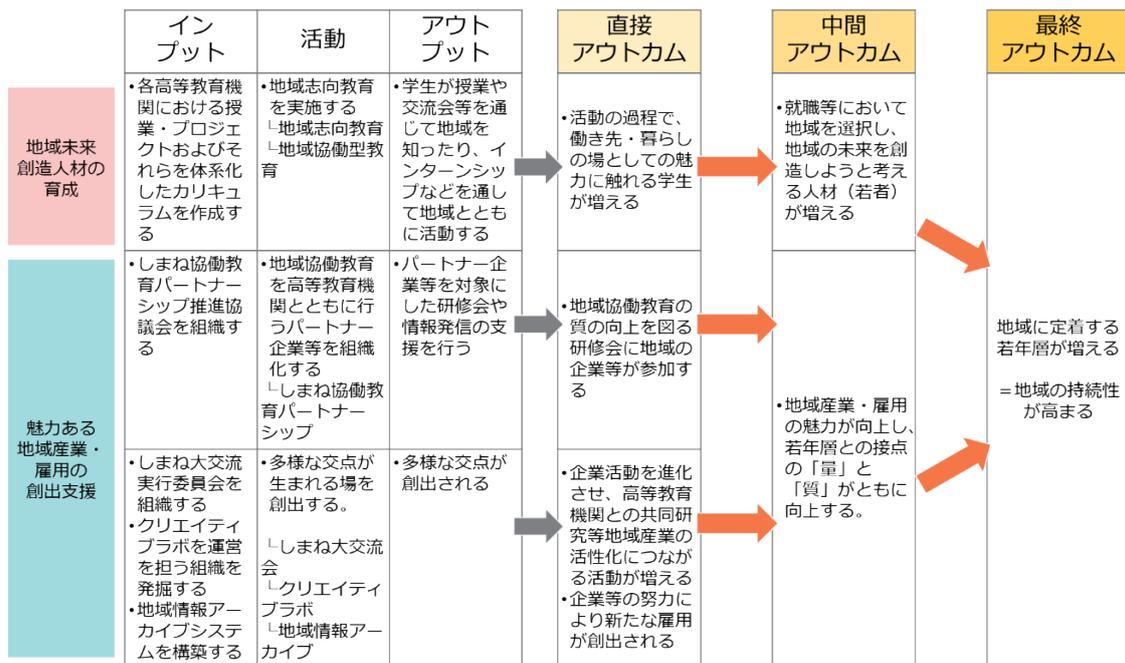


図 2-2-3: 再整理した本事業のロジック・モデル

図 2-2-3 に示す「インプット→活動→アウトプット」の一連の流れが、5つのプロジェクトの中で行われる個々の取組に相当する。これらについては、既刊の各年度の取組報告書および本報告書第 1 部にてその内容や結果を報告しているため、ここでは個別の内容については記述を省略する。

ロジック・モデルで設定した各種アウトカムを評価するには、できるだけ定量的に観測可能な評価項目を設定して効果を測定する必要がある。本事業は大きく「人材育成に関する事業」と「魅力ある地域産業・雇用の創出支援に関する事業」に大別できるので（本項冒頭概要等参照）、事業計画で設定した KPI を盛り込みながら、表 2-2-2 に示すような指標を設定した。

表 2-2-2：本事業のアウトカム評価指標

**(1) 地域未来創造人材の育成に関すること**

事業の進行に伴い、

- ① 学生は、授業や交流会・インターンシップ等を通じて働き先や暮らしの場としての地域の魅力を知ることができているか
- ② ①は地域に対する学生の見方や価値観の変化を生むことができたか
- ③ ①を履修・体験した学生はそうでない学生と比較して地域に対する意識に差があるといえるか
- ④ 代表的な地域協働型教育である地域インターンシップに参加する学生は増えたか【事業KPI】

**(2) 地域産業・雇用の魅力化に関すること**

事業の進行に伴い、

- ① 自社の魅力化と地域協働教育に取り組む企業等は増えたか【事業KPI】
- ② ①のような企業と学生との接点創出が実効的に行えたか
- ③ 地域産業・雇用の魅力化に取り組んだ企業等は、インターンシップや採用活動における学生への訴求力が向上したか
- ④ 高等教育機関と地域企業の共同研究等実質的な企業活動の進捗が図れたか【事業KPI】
- ⑤ 新たな雇用創出が行われたか【事業KPI】

**(3) 最終アウトカムに関すること**

事業の進行に伴い、

- ① 地域に定着する若年層は増えたか【事業KPI】
- ② ①以外に社会に対する波及効果はあったか

各指標の定量化に際しては、ケース調査とアンケート調査の手法で行った。後者に関しては、しまね大交流会において継続して実施してきた学生アンケートや、令和元年度 10 月～11 月にかけて実施した COC+事業フォローアップアンケートの結果等を活用した。COC+事業フォローアップアンケートは、松江工業高等専門学校における「地域志向エンジニア育成プログラム」の実装が令和元年度初めに完了したことをうけ、今回初めて全 3 教育機関の学生を対象に統一的に実施した。アンケート調査に使用した質問項目は、資料編にアンケート用紙を収録しているので参考いただきたい。COC+フォローアップアンケートの 3 教育機関に所属する 1103 名より回答を得た。回答者の属性を表 2-2-3 に示す。

表 2-2-3 : 令和元年度 COC+事業フォローアップアンケート回答者属性

所属教育機関 (有効回答 : N=1103)			出身地(有効回答 : N=1101)		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
島根大学	731	66.3 %	島根県	384	34.9 %
島根県立大学・同短期大学部	294	26.7 %	鳥取県	111	10.1 %
松江工業高等専門学校	78	7.1 %	山陽	233	21.2 %
合計	1103	100 %	中国5県以外	365	33.2 %
			国外	8	0.7 %
			合計	1101	100 %

(1) 地域未来創造人材に関するアウトカムの検討

①学生は、授業や交流会・インターンシップ等を通じて働き先や暮らしの場としての地域の魅力を知ることができているか

この指標については、【COC+事業フォローアップアンケート】における「Q3：地域に関する授業科目の受講は、地域の魅力や現状、課題などの把握に役立ちましたか？」の調査項目から検証を行う。調査の結果は図 2-2-4 の通りとなった。

【問】地域に関する授業科目の受講は、地域の魅力や現状、課題などの把握に役立ちましたか？

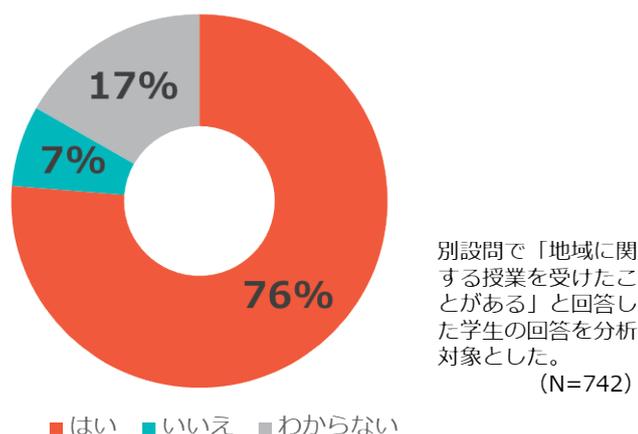


図 2-2-4 : 令和元年度 COC+事業フォローアップアンケート結果①

この調査と類似の調査としては、島根大学 COC 事業で整備した地域志向科目の授業評価アンケートがある。同大学の代表的な地域志向科目である「島根学 (6 学部 271 名受講)」「スタートアップセミナー (5 学部 481 名受講)」「イノベーション創成基礎セミナー I (6 学部 50 名受講)」における、地域の理解度について令和元年度の学生の評価結果を図 2-2-5 に示す。

【問】この授業を通して、島根県を中心とした山陰地域について、どの程度理解を深めることができましたか？受講前の理解度と、受講後の理解度のそれぞれについて教えてください。

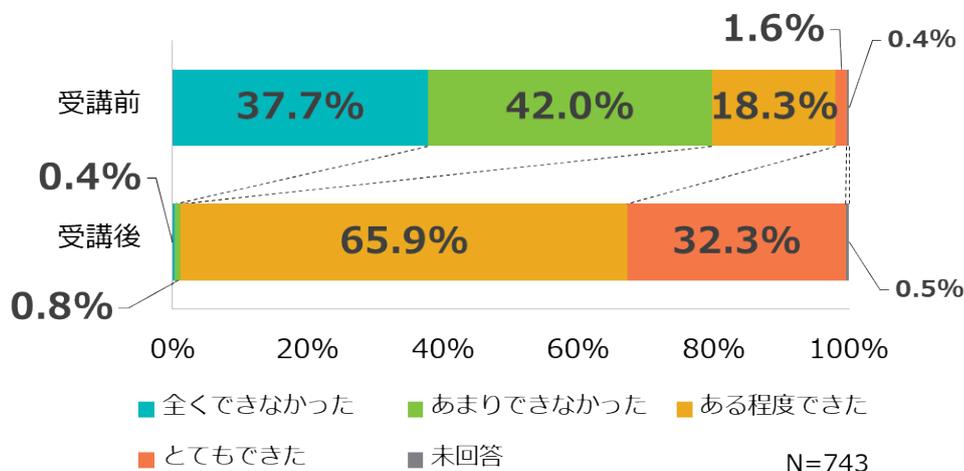


図 2-2-5：代表的な地域志向科目の令和元年度学生評価結果（島根大学）

\*受講生のうち回答者は N=743

地域志向科目受講生に直接調査した後者の場合は、98%の学生が地域に対する理解度に伸長が見られたと回答している。後者の調査は、該当授業の全授業回が終了した直後に実施しているため、意識が高い回答に偏った可能性が高い。いずれの調査においても地域に関する授業を受講した学生の多くが、授業を通して地域の魅力を知る機会に触れているといえる。次に、その魅力の接触機会を提供することが、学生自身の価値観等に変化をもたらしたかを検討する。

#### ②①は地域に対する学生の見方や価値観の変化を生むことができたか

この指標については、【COC+事業フォローアップアンケート】における「Q5：地域に関する授業の受講をきっかけに以下の意識はありましたか？」の調査項目から検証を行う。表 2-2-4 に、授業の受講をきっかけに「山陰地域への愛着が増したかどうか」を問うた結果を示す。

表 2-2-4：令和元年度 COC+事業フォローアップアンケート結果②

		山陰地域への愛着が増した					ややそう思う・ そう思うの合計
		そう 思わない	あまり そう思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う	
地域に関する授業を受けたことがあるか							
ある	(人数)	32	59	149	334	165	<b>499</b>
	(%)	4.3%	8.0%	20.2%	45.2%	22.3%	<b>67.5%</b>
ない	(人数)	6	18	69	53	8	<b>61</b>
	(%)	3.9%	11.7%	44.8%	34.4%	5.2%	<b>39.6%</b>
わからない	(人数)	4	13	52	42	9	<b>51</b>
	(%)	3.3%	10.8%	43.3%	35.0%	7.5%	<b>42.5%</b>
合計	(人数)	42	90	270	429	182	<b>611</b>
	(%)	4.1%	8.9%	26.7%	42.3%	18.0%	<b>60.3%</b>

調査の結果から、地域に関する授業を受けたことがあると答えた学生は、授業を受けたことがないと答えた学生に比べ、山陰地域への愛着が増した学生が約 28% 多かった（ややそう思う・そう思うと答えた学生の合計値と比較）。授業の受講により、山陰地域への愛着が醸成されたことが窺える。一方、「山陰地域への愛着」を「出身地域への愛着」に変えて問うた項目の結果は表 2-2-5 の通りになった。

表 2-2-5：令和元年度 COC+事業フォローアップアンケート結果③

		出身地域への愛着が増した					ややそう思う・ そう思うの合計
		そう 思わない	あまり そう思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う	
地域に関する授業を受けたことがあるか							
ある	(人数)	30	59	190	271	190	<b>461</b>
	(%)	4.1%	8.0%	25.7%	36.6%	25.7%	<b>62.3%</b>
ない	(人数)	6	15	69	40	24	<b>64</b>
	(%)	3.9%	9.7%	44.8%	26.0%	15.6%	<b>41.6%</b>
わからない	(人数)	3	11	48	37	21	<b>58</b>
	(%)	2.5%	9.2%	40.0%	30.8%	17.5%	<b>48.3%</b>
合計	(人数)	39	85	307	348	235	<b>583</b>
	(%)	3.8%	8.4%	30.3%	34.3%	23.2%	<b>57.5%</b>

表 2-2-4 と 2-2-5 を比較すると、愛着が増したと答えた学生の割合は大きくは変動しない。表 2-2-3 の通り、本アンケートに回答した学生の属性としてその 55% は、山陰地域外の学生であることも鑑みると、地域に関する授業が、山陰地域に限定した愛着だけではなく、他地域出身の学生にとっての「地元（出身地域）」への愛着の醸成も担っている可能性がある。

これら「愛着」に基づく具体的な行動選択として、地域に関する授業の受講をきっかけとして「山陰地域で働く気持ちが増したか」「出身地域で働く気持ちが増したか」を問うた結果を表 2-2-6、2-2-7 に示す。

表 2-2-6：令和元年度 COC+事業フォローアップアンケート結果④

		山陰地域で働く気持ちが増した					ややそう思う・ そう思うの合計
		そう 思わない	あまり そう思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う	
地域に関する授業を受けたことがあるか							
ある	(人数)	136	141	166	137	160	297
	(%)	18.4%	19.1%	22.4%	18.5%	21.6%	40.1%
ない	(人数)	24	31	63	23	13	36
	(%)	15.6%	20.1%	40.9%	14.9%	8.4%	23.3%
わからない	(人数)	24	24	52	14	6	20
	(%)	20.0%	20.0%	43.3%	11.7%	5.0%	16.7%
合計	(人数)	184	196	281	174	179	353
	(%)	18.1%	19.3%	27.7%	17.2%	17.7%	34.9%

表 2-2-7：令和元年度 COC+事業フォローアップアンケート結果⑤

		出身地域で働く気持ちが増した					ややそう思う・ そう思うの合計
		そう 思わない	あまり そう思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う	
地域に関する授業を受けたことがあるか							
ある	(人数)	54	80	140	194	272	466
	(%)	7.3%	10.8%	18.9%	26.2%	36.8%	63.0%
ない	(人数)	11	11	60	35	37	72
	(%)	7.1%	7.1%	39.0%	22.7%	24.0%	46.7%
わからない	(人数)	5	12	43	31	29	60
	(%)	4.2%	10.0%	35.8%	25.8%	24.2%	50.0%
合計	(人数)	70	103	243	260	338	598
	(%)	6.9%	10.2%	24.0%	25.6%	33.3%	58.9%

職場の立地を山陰地域に限った場合も、出身地域と表現した場合も、いずれも地域に関する授業を受けた学生の方が、それぞれの地域で働く気持ちが増したと答えている割合が高い。

これらに関連する調査結果として、令和元年度に開催したしまね大交流会に参加した学生を対象としたアンケートの結果より「しまね大交流会の参加により意識に変化はあったか」を問うた調査の結果を表 2-2-8 に示す（しまね大交流会のアンケート結果については、第 1 部第 2 章にて詳細に報告しているので適宜参照されたい）。教育機関が授業として提供する地域との接点に限らず、地域全体が提供する地域を知る場であるしまね大交流会でも、学生の地域に対する見方・価値観の変化を促すことができているといえる。この項目の結果を、回答者の出身地域別に集計したデータを表 2-2-9 に示す。出身地別に比較すると、特に島根県出身者の意識の変化が大きいことが見て取れる<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> しまね大交流会は高校生の参加（島根出身）も多いが、本アンケートに回答した高校生は全体の約 10%

表 2-2-8：令和元年度しまね大交流会学生アンケート結果①

		全く 増してい ない	あまり 増してい ない	ある程度 増した	とても 増した	ポジティブ 変化合計
①	島根・鳥取の企業・団体・自治体の魅力 (N=512)	2.5%	8.8%	62.5%	26.2%	<b>88.7 %</b>
②	企業等の職場見学への興味関心 (N=512)	1.8%	7.6%	50.8%	39.8%	<b>90.6 %</b>
③	インターンシップ先としての島根・鳥取の魅力 (N=511)	0.8%	2.9%	67.1%	29.2%	<b>96.3 %</b>
④	出展団体にインターンシップに行く意欲 (N=511)	2.5%	11.5%	56.9%	29.0%	<b>85.9 %</b>
⑤	生活の場としての島根・鳥取の魅力 (N=509)	1.0%	2.2%	66.0%	30.8%	<b>96.8 %</b>

表 2-2-9：令和元年度しまね大交流会学生アンケート結果②

出身県別 *出身県属性未回答は除外		全く 増してい ない	あまり 増してい ない	ある程度 増した	とても 増した	ポジティブ 変化合計
① 島根・鳥取の企業・団体・自治体の魅力	島根 (N=280)	2.5%	8.2%	58.9%	<b>30.4%</b>	89.3%
	鳥取 (N= 29)	0.0%	3.4%	82.8%	13.8%	96.6%
	その他 (N=159)	3.1%	10.1%	66.7%	20.1%	86.8%
	全体 (再掲：N=512)	2.5%	8.8%	62.5%	26.2%	88.7%
② 企業等の職場見学への興味関心	島根 (N=279)	1.4%	9.3%	45.9%	<b>43.4%</b>	89.3%
	鳥取 (N= 29)	0.0%	3.4%	62.1%	34.5%	96.6%
	その他 (N=160)	1.9%	5.6%	60.0%	32.5%	92.5%
	全体 (再掲：N=512)	1.8%	7.6%	50.8%	39.8%	90.6%
③ インターンシップ先としての島根・鳥取の魅力	島根 (N=279)	0.7%	2.9%	64.5%	<b>31.9%</b>	96.4%
	鳥取 (N= 29)	0.0%	0.0%	72.4%	27.6%	100.0%
	その他 (N=160)	0.6%	3.1%	73.8%	22.5%	96.3%
	全体 (再掲：N=512)	0.8%	2.9%	67.1%	29.2%	96.3%
④ 出展団体にインターンシップに行く意欲	島根 (N=279)	2.2%	12.2%	55.2%	<b>30.5%</b>	85.7%
	鳥取 (N= 29)	0.0%	0.0%	72.4%	27.6%	100.0%
	その他 (N=160)	3.1%	13.1%	58.8%	25.0%	83.8%
	全体 (再掲：N=512)	2.5%	11.5%	56.9%	29.0%	85.9%
⑤ 生活の場としての島根・鳥取の魅力	島根 (N=277)	0.4%	1.4%	63.2%	<b>35.0%</b>	98.2%
	鳥取 (N= 29)	0.0%	0.0%	75.9%	24.1%	100.0%
	その他 (N=160)	1.9%	3.1%	72.3%	22.6%	94.9%
	全体 (再掲：N=512)	1.0%	2.2%	66.0%	30.8%	96.8%

以上の通り、本事業で展開した地域を題材とした教育活動は、参加学生に対し意識や価値観の変化を促すことができているといえる。一方、意識変容を行動変容（島根・山陰地域への定着）に導くための方策については、今後も工夫の余地があると言える。

③①を履修・体験した学生はそうでない学生と比較して地域に対する意識に差があるといえるか

前項で述べた通り、地域に関する授業の受講や交流会への参加は、地域に対する見方や価値観にポジティブな変化をもたらした。この変化は、受講・参加していない学生と比較しても顕著な増加が見られた。では、地域に対する見方・価値観の次のステップとして自身がどのようにアクションをしたいと思っているのかという観点から、③の指標を検討する。用いたデータは、COC+事業フォローアップアンケートで調査した「地域に関わりのあるプロジェ

クトへの参加意欲」である。これについて、地域に関わりのある授業の受講の有無とのクロス集計結果を表 2-2-10 に示す。

表 2-2-10 : COC+事業フォローアップアンケート結果⑥

		地域に関わりのあるプロジェクトへの参加意欲				ポジティブ 評価の合計
		チャレンジ したくない	あまりチャレンジ したくない	チャレンジ してみたい	ぜひチャレンジ したい (またはすでに 取り組んでいる)	
地域に関する授業を受けたことがあるか						
ある	(人数)	41	149	419	124	<b>543</b>
	(%)	5.6%	20.3%	57.2%	16.9%	<b>74.1%</b>
ない	(人数)	8	57	114	11	<b>125</b>
	(%)	4.2%	30.0%	60.0%	5.8%	<b>65.8%</b>
わからない	(人数)	19	36	72	7	<b>79</b>
	(%)	14.2%	26.9%	53.7%	5.2%	<b>58.9%</b>
合計	(人数)	68	242	605	142	<b>747</b>
	(%)	6.4%	22.9%	57.2%	13.4%	<b>70.6%</b>

地域との協働教育は、本事業ではしまね大交流会のような準正課教育およびインターンシップがその代表的なものだが、インターンシップよりは手軽に、かつミッション性の高い「プロジェクト」に対する学生の意欲は今回初めて調査を行った。その結果、「ぜひチャレンジしたい」と回答した割合に着目すると、地域に関する授業を受けた学生、言い換えれば地域に対する興味関心の高い学生ほど、地域に関わりのあるプロジェクトの参加意欲が高いことが明らかとなった。一方、地域に関する授業を受けていないと答えた学生についても70%弱の学生が、プロジェクトへの参加に対しては意欲的であることも見て取れる。すなわち、学生という母集団において7割の学生は、そのようなプロジェクト活動をしたいと考えているとみることができる。プロジェクトに対する参加意欲の高さが、現状のインターンシップよりも弾力的な取組方でミッション性が高く取組による価値創造が期待できるという学生側の印象に基づくものと仮定すると ア) 現状のインターンシップの仕組みを再検討し、インターンシップのプログラムを学生ニーズを把握したうえで更新する必要がある また イ) 学生のニーズに応え地域に関わりのあるプロジェクトの企画数の充実を図り、関わる学生を増やす方策を検討する必要がある という2点が今後検討すべき課題と言える。

④代表的な地域協働型教育である地域インターンシップに参加する学生は増えたか【事業 KPI】

この評価指標は事業 KPI として設定していたことから、これまでも年度ごとに状況を報告してきた。最終年度の1月時点での取りまとめを含め、その推移を図 2-2-6 に示す。毎年目標値を上回る参加者数ではあるものの、実績値の年度推移をよく見ると、平成 28 年度(2016 年度)をピークに、参加者人数は減少傾向に転じていた。これについては、令和元年度6月に実施した外部評価において要因を分析したものを報告し、改善策として11月開

催のしまね大交流会を起点とした冬・春期インターンシップ学生数拡大プロジェクトを産官学共同で企画・実施したところ、減少傾向に歯止めをかけつつ、最終年度目標値を達成できる見込みとなった。

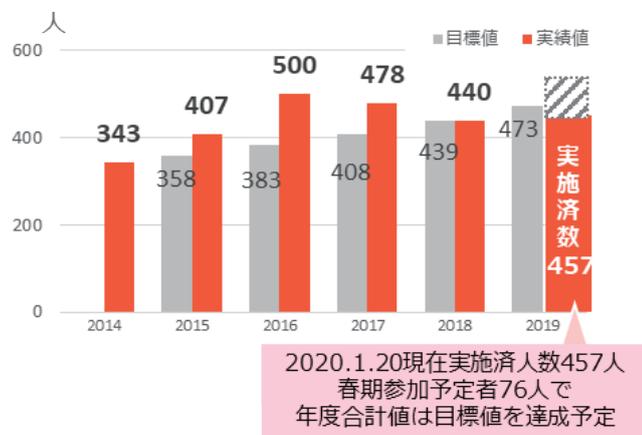


図 2-2-6：事業協働地域（島根県）におけるインターンシップ参加者数推移（再掲）

この一連の工夫の中で浮かび上がってきた課題は、前項と同じくア) 県内インターンシップのシステムを進化させる必要があること および イ) 学部・学科単位でのキャリア教育カリキュラムにインターンシップを明確に位置付ける必要があること の2点である。イ)については、島根県立大学松江キャンパスにおいて、学科全体でのキャリア教育に「しまね大交流会」の意義付けを核とした事前教育を行い、学生がしまね大交流会に参加（参加者数も前年度比 180%であった）、その会場で学生自身がインターンシップに関する情報収集を行い、冬・春期のインターンシップのマッチングを学生自身が吟味したことにより、当期インターンシップの申込数が昨年度の 2.5 倍となった事例に象徴される。高等教育機関内でのキャリア教育カリキュラムの確立と、これに真に意味のある連携事業の実施、およびそれらの融合が、事業実効性の向上には不可欠な要因と言える。

## （2）魅力ある地域産業・雇用の創出支援に関すること

この測定観点では、事業 KPI 変化に加え、しまね大交流会の開催状況およびしまね協働教育パートナーシップ登録団体に対する学生の就職状況などから検討を行う。

### ①自社の魅力化と地域協働教育に取り組む企業等は増えたか【事業 KPI】

この評価指標には、事業 KPI としても設定している「しまね協働教育パートナーシップ登録団体数の推移」を利用する（図 2-2-7）。

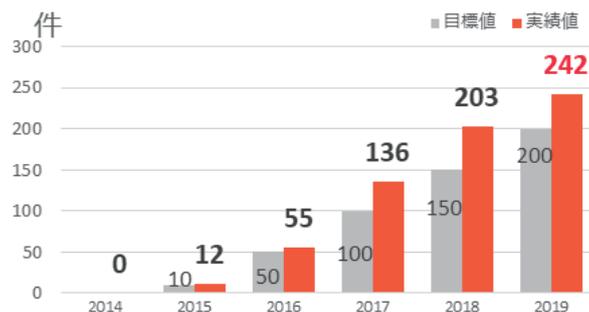


図 2-2-7：しまね協働教育パートナーシップ登録団体数推移（再掲）

年度ごとの KPI 目標値はすべて達成しており、最終年度までに計画当初の 1.2 倍となる 242 団体の登録となった。このしまね協働教育パートナーシップに関する研修会等の取組については第 1 部第 3 章で詳細を報告しているのでそちらを参照いただきたい。

#### ②①のような企業と学生との接点創出が実効的に行えたか

①のしまね協働教育パートナーシップ登録団体に対し、学生との接点創出がどのように拡大してきたのかについては、しまね大交流会を例に検討を行う。しまね大交流会の 5 年間の参加者数の推移を表 2-2-11 に、出展団体数の推移を表 2-2-12 にそれぞれ示す。

表 2-2-11：しまね大交流会の参加者数 5 年間の推移

	所属	2015	2016	2017	2018	2019
若者	島根大学		523	710	709	659 (昨年度比93%)
	島根県立大学浜田C		106	130	115	99 (昨年度比86%)
	島根県立大学短期大学部・四大部(松江)		34	72	99	179 (昨年度比180%)
	松江工業高等専門学校		35	115	144	102 (昨年度比71%)
	島根職業能力開発短期大学校		-	50	46	49
	その他大学・高専		-	9	8	12
	その他専門学校		-	6	2	2
	高校生		-	81 (うち隠岐島前64)	342 (うち松江東177、隠岐島前51)	614 (うち松江東371、松江南87、松江北35、隠岐島前42)
	小・中学生		-	5	3	3
	その他		-	9	13	3
			小計：約700名	小計：1187名	小計：1481名	小計：1722名
大人	地元企業・団体関係者【出展】			518	559	509
	地元企業・団体関係者			144	188	171
	大学・高専等教職員【出展】			108	106	127
	大学・高専等教職員			152	157	148
	小・中・高の教員			7	44	61
	学生・生徒の保護者			8	10	17
	その他			46	77	52
			小計：約900名	小計：983名	小計：1141名	小計：1085名
合計		約1100名	約1600名	2170名	2622名	2807名

表 2-2-12：しまね大交流会の出展団体数 5 年間の推移

		2015	2016	2017	2018	2019
地元企業・自治体等	企業	74	121	126	142	142
	自治体	40	19	15	13	12
	NPO	11	5	2	1	1
	その他団体	12	11	12	10	5
		小計：137	小計：156	小計：155	小計：166	小計：160
大学・高専	島根大学	76	58	38	33	30
	島根県立大学	8	3	6	3	6
	島根県立大学短期大学部・四大部（松江）	5	5	5	2	3
	松江工業高等専門学校	11	6	3	3	4
	島根職業能力開発短期大学校			1	1	1
	その他の大学・高専			1		2
	小計：100	小計：72	小計：54	小計：42	小計：46	
合計		237	228	209	208	206

表 2-2-12 に示した出展団体は、しまね大交流会 2019 より 100%しまね協働教育パートナーシップ登録団体が担っている。また、参加学生数も年度を追うごとに増加していることから、パートナーシップ登録団体と学生が出会う場は拡大していると言える。次に、そのような接点の拡大が、学生の行動変容に至っているかを検討する。

### ③地域産業・雇用の魅力化に取り組んだ企業等は、インターンシップや採用活動における学生への訴求力が向上したか

この評価指標に対し、令和元年度にしまね協働教育パートナーシップに登録している団体を対象に、過去 4 年間のインターンシップ参加者数および過去 3 年間の新卒就職者数を調査した。その結果を表 2-2-13, 14 に示す。

表 2-2-13：しまね協働教育パートナーシップ登録団体へのインターンシップ参加者数推移

インターンシップ参加者数				
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
パートナーシップ登録団体へのインターンシップ参加者数				
島根大学	112人	106人	133人	151人
島根県立大学・同短期大学部	75人	68人	39人	70人
松江工業高等専門学校	78人	89人	67人	89人
合計	265人	263人	239人	<b>310人</b>
参考) 県内事業所へのインターンシップ参加者数	500人	478人	440人	457人
	↓	↓	↓	↓
パートナーシップ登録団体での受け入れ人数が全数に占める割合	53 %	55 %	54 %	<b>68 %</b>

表 2-2-14：しまね協働教育パートナーシップ登録団体への新卒就職者数推移

新卒就職者数			
	2016年度	2017年度	2018年度
パートナーシップ登録団体への新卒就職者数			
島根大学	120人	126人	124人
島根県立大学・同短期大学部	76人	76人	106人
松江工業高等専門学校	29人	36人	36人
合計	225人	238人	266人
参考) 県内事業所への新卒就職者数			
	477人	498人	494人
	↓	↓	↓
パートナーシップ登録団体での新卒採用人数が全数に占める割合	47%	48%	54%

表内の数字は、年度比較がしやすいよう、各団体のパートナーシップ登録開始時期に関わらず島根県内を所在地とする 220 団体を対象に過去に遡って調査をしている（登録団体は 242 団体）。例えば、表 2-2-13 において、パートナーシップ登録団体のインターンシップ参加者数は 2018 年度に比して 2019 年度は 71 人増となっているが、島根県全数としては 17 人増にとどまっている。表 2-2-14 でも同様に、県内事業所への新卒就職者数が 2017 年度に比して 2018 年度は 4 人減となっているところ、パートナーシップ登録団体は 28 人増となっている。これらのデータより、パートナーシップ登録団体の県内高等教育機関の学生に対する訴求力が向上したと言える。

④高等教育機関と地域企業の共同研究等実質的な企業活動の進化が図れたか【事業 KPI】

この評価指標は、事業 KPI として年度ごとに推移を報告している。最終年度の実績値を含めたものを図 2-2-8 に示す。これについても、年度ごとの目標値を達成しているものの、最終年度は前年度の 85%の件数に留まる結果となった。



図 2-2-8：事業協働地域との共同研究数推移（再掲）

しかしながら、契約金額ベースで年次推移を勘案するとその金額は年度を追うごとに増

加している。参考として、図 2-2-9 に島根大学における事業協働地域との共同研究費受入推移を示す。1 件 1 件の契約金額が大きくより実効性の高い協働が進行していると判断してよいだろう。

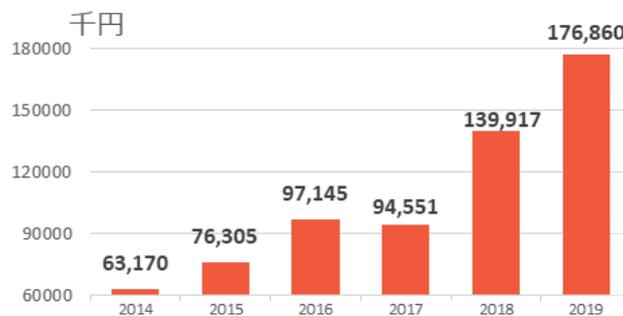


図 2-2-9：島根大学における事業協働地域との共同研究費受入推移

#### ⑤新たな雇用創出が行われたか【事業 KPI】

本事業は事業協働地域である島根県との協働で実施しており、島根県が施策として行う雇用創出に対し、高等教育機関からの就職者数の推移を事業 KPI として設定している（図 2-2-10）。特に IT 産業を中心として人材確保・マッチングが行われ、当初計画していた目標値を大きく上回る実績となっており、県と教育機関間の連携が好調であることが見て取れる。

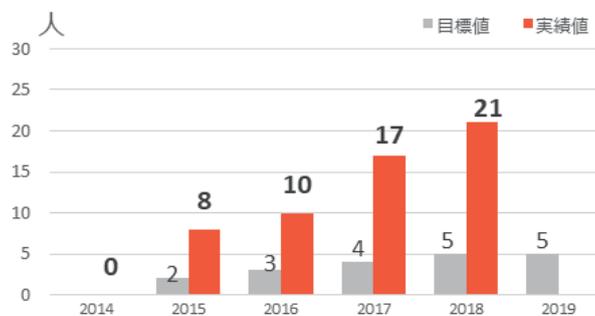


図 2-2-10：事業協働地域雇用創出数（再掲）

### (3) 最終アウトカムに対する総括

#### ①地域に定着する若年層は増えたか【事業 KPI】

(1) (2) で検証してきたように、事業の取組によるアウトカムはそれぞれ実効性高く生み出されているといえるが、それらが総体となって最終アウトカムである「地域に定着する若年層の増加 (= 地域の持続可能性の向上)」につながっているかの評価指標が、事業 KPI でもある「事業協働地域への就職率」である。図 2-2-11 に再掲した通り、この KPI のみ、本事業では目標値を達成できていない。

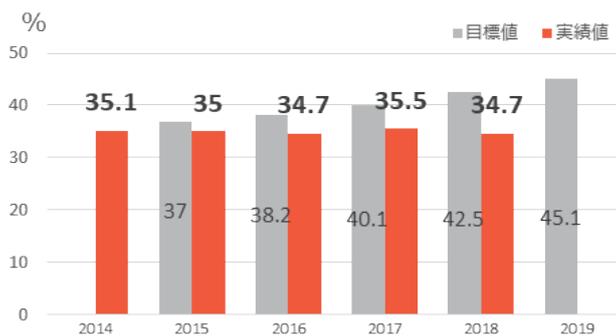


図 2-2-11：事業協働地域への就職率（再掲）

その要因として、(1)―②でも指摘した通り、意識変容を行動変容（島根・山陰地域への定着）に導くための方策の工夫が課題として挙げられる。すなわち、学生と採用希望企業とのマッチングをきめ細かく行う体制整備が急務である。マッチングを行う人材（エージェント）を増やすこと、また設置した場合、各高等教育機関内での活動のしやすさの担保や学生情報の共有の在り方など、これまでのシステムにとらわれない発想での改善が必要である。加えて、学部・学科単位で行うキャリア教育のさらなる充実も必要である。そのひとつとして、4年間を見据えた各専門領域ならではのキャリア教育（職業人教育）と、地域の人や価値観・活動との出会いの場での学びのような汎用性の高いキャリア教育（全人教育）の効果的な組み合わせを検討することも考えられる。この観点からは、表 2-2-15 に示す「高等教育機関卒業時の社会増減」に着目して検討を進める。

表 2-2-15：島根大学および同学生物資源科学部における卒業時社会増減の推移

a) 島根大学全体における人数 (医学科除く)		2014	2015 (COC+開始)	2016	2017	2018
A	県内出身学生が 県外就職	62	55	58	45	55
B	県外出身学生が 県内就職	50	49	52	48	55
B-A	卒業時社会増減	▲12	▲6	▲6	3	0

b) 生物資源科学部における 人数		2014	2015 (COC+開始)	2016	2017	2018
A	県内出身学生が 県外就職	9	5	10	6	3
B	県外出身学生が 県内就職	8	8	10	11	17
B-A	卒業時社会増減	▲1	3	0	5	14

表 2-2-15 は、島根県内出身学生の県外就職（転出）と、島根県外出身学生の県内就職（定着）に着目し、その差分を「卒業時社会増減」として過去 5 年に渡って調査したものである。社会増減に換算すると、島根大学では全体で社会減が縮小する傾向にある（表 2-2-15-a）。さらに、この数値を生物資源科学部に特定して分析すると、当該学部の社会増

の伸び率が高いことが明らかになった（表 2-2-15-b）。生物資源科学部の島根県からの進学率は、20%台と低いこともあり、この学部では島根県外出身学生の県内就職が特に多い結果となっている。その理由として、各教員レベルでの学生教育や卒業研究が地域と密着した内容であり、地域をフィールドとした学生指導が特に積極的に行われていることが挙げられる。この事例を参考にするならば、今後も島根県への就職率の向上に対する手立てや工夫の余地は十分あるといえる。

また、島根大学においてCOC事業で設置した、卒業後に島根県を中心とした山陰地域での活躍を志す高校生のための「地域貢献人材育成入試」による入学生が所属する「COC人材育成コース」の1期生が本年度卒業学年となった。1期生のうち松江キャンパス所属の学生は山陰両県への就職率が89.5%、島根県に特定しても52.6%と地元定着率が高い結果となった。1期生のほとんどが島根・鳥取両県の出身者であったことから、この地域からの進学者をさらに増やす工夫も必要といえる。

②①以外に社会に対する波及効果はあったか

本事業が他地域に対して創出した社会的インパクトの一つに、「しまね大交流会」を模した学生と地域の企業との交流会が各地域で実施されるようになったことがあげられる。表 2-2-16 に令和元年度に各地域で実施された類似イベントを示す。

表 2-2-16：令和元年度開催の各地域の学生と企業等の交流会  
(来場者数は各大学等による公表値)

開催地	開催名称	開始年度	開催日程	開催場所	来場者数	内訳		出展数
						学生・生徒	大人	
島根	しまね大交流会	2015	2019/11/16	くにびきメッセ	2800名	1700名	1100名	206
岩手	ふるさと発見！ 大交流会in Iwate	2017	2019/11/23	岩手産業文化センター（アピオ）	1500名	900名	600名	151
佐賀	さがを創る大交流会	2016	2019/11/4	佐賀県総合体育館		1250名		145
山口	山口きらめき企業の魅力 発見フェア（Jobフェア）	2016	2019/10/19	維新百年記念公園 維新大晃アリーナ	1500名			77
長崎	NAGASAKI しごとみらい博	2016	2019/12/7	長崎県庁舎	1045名	945名	100名	110
長野	大しごとーく信州	2018	2019/11/9	信州大学松本キャンパス第一体育館	1000名			80

他地域と比較すると、本事業で実施している「しまね大交流会」は、立地地域の人口規模や、COC+事業参加機関数が少ないにもかかわらず他地域と比べて約2倍の来場者数となっている。また、県教育委員会と連携し、高校生と大学生が交流する場としての機能も持たせている点でも他とは異なる。5年間の事業期間の中で取組として成長した「しまね大交流会」については、地元経済紙に参加企業への取材記事が掲載される（2019.12.24 発行 山陰経済ウィークリー）など、地元経済界からの関心も非常に高い。

以上、ロジック・モデルに基づき、これまでの本事業の取組全体について検証を行った。

1

2

3

4

5

6

各アクションにおいては、数としてのアウトプットだけでなく、質の面でのアウトカムの創出に至っており、計画された戦略は妥当性が高かったと言える。一方、より大きなアウトカムを得、社会全体の進化を図るために挑戦すべき次の目標も明らかとなった。これについては、次項【3】において課題の総括を行い、補助期間終了後の見通しについてまとめる。

### 【3】今後の課題と補助期間終了後の事業継続について

補助期間終了後の継続体については、平成30年度3月のオールしまねCOC+事業推進協議会において、効果的な事業の選択と集中を図りながら継続するとの方向性が決定されたことを契機に、令和元年度9月にコンソーシアム設立準備委員会を設置し、具体的に検討が開始された。その下部組織として各高等教育機関の実務者を中心とした教育プログラム開発専門委員会・島根県関係部局実務者・ふるさと島根定住財団からなる実務者ワーキングにより、コンソーシアムの目的と現状の整理、解決すべき問題の定義、解決のための施策の検討を行った。前項でも検証した通り、本事業の次のステップとして取り組むべき課題は次のように整理される。

1. 地域を知る教育機会の継続的な提供
2. 学生のニーズに応える地域協働教育の充実
  - ・地域に関わりのあるプロジェクトや上位活動としてのインターンシップの充実を図り、それらに関わる学生を増やす方策の検討
3. 意識変容を行動変容（地域への定着）に導くための方策の工夫
  - ・学生と受入先（インターンシップ&就職）とのマッチングを強化
  - ・県内インターンシップのシステムを進化
4. 学部・学科単位での地域との協働強化
  - ・4年間を見通したキャリア教育支援の検討
  - ・地域をフィールド／提携先とした学生教育や研究への支援
5. 地域協働教育に積極的なパートナー制度の継続
6. 地域の高校からの進学者をさらに増やす工夫（島根大学・島根県立大学および同短期大学部）

これらの課題は、高等教育機関が中心となり取り組むものが多いが、効果を上げるためには地域の企業および行政との連携・協働が不可欠であり、コンソーシアム事業として産学官で取り組むことになった。具体的な事業については、これまでの5年間で開発・実施してきた教育コンテンツの改善および教育プログラム化、学生と地域企業の交流機会の創出事業の拡大等、その多くがCOC+事業で行ってきた事業を継続して行うものであるが、コンソーシアムでは高等教育機関と経済界が平場に立ち、密な情報交換と協働を常態的に行うことにより、より事業効果の向上を図る枠組みとなっている。事業概要図を図2-3-1に示す。

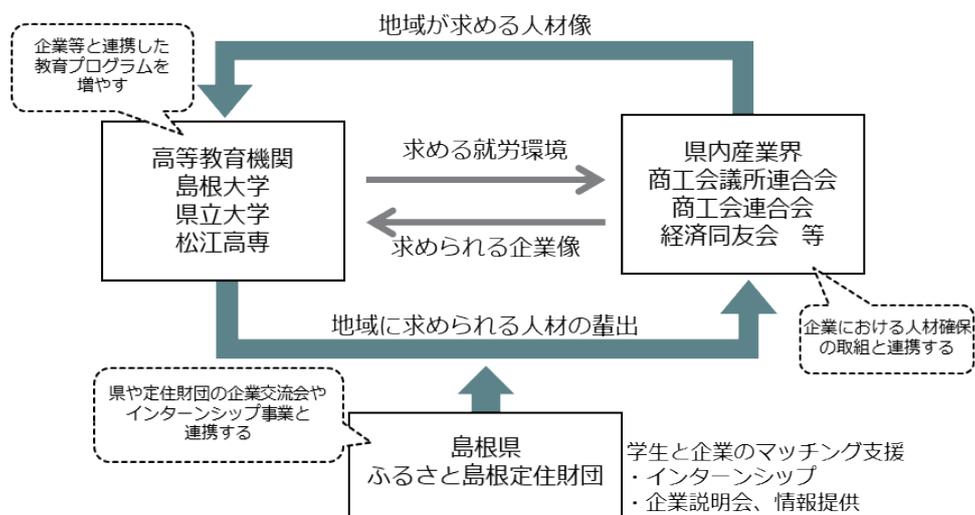


図 2-3-1：継続体コンソーシアムの事業概要図

図 2-3-1 に示す通り、これまでの COC+事業では高等教育機関が中心であったが、コンソーシアムでは、産学がフラットな立場に立ち緊密な連携で事業を行い、これを行政が強力にバックアップする体制を構築している。さらに取り組む事業については、高等教育機関に在学する4年間を見据え、切れ目ない対応が不可欠との観点から、学年進行等に合わせ3つのステージに分け(表 2-3-1)、協働による切れ目ない対応を行う。表 2-3-1 に示すように、それぞれのステージにおける主な施策(事業)、各事業の主担当となるコンソーシアム構成機関を明確にするとともに、実施にあたっては、主担当機関だけで実施するのではなく、各構成機関は各ステージ間の連続性を考慮し協働で実施する体制を取っている。特に経済界はパートナー企業を中心にすべてのステージを担当する事業構成になっている。なお、パートナー企業とは、COC+事業で構築した「しまね協働教育パートナーシップ」制度を発展的に解消し、新たにコンソーシアム事業として再募集するものである。新規募集に伴いパートナー企業には一定額の負担金を頂く予定であり、この費用負担によりコンソーシアム構成員としての自覚を高めるとともに、そのメリットとして COC+事業から継続して行う「学生との交流会」や「企業向け人材育成研修会」等への参加ができるようになっている。

表 2-3-1：継続体コンソーシアムの事業構成

ステージ		主な施策	主たる担当	
①	島根の企業を広く知る	企業交流会 バスツアー 等	島根県	パートナー企業
②	関心の高い企業を深く知る	企業等と連携した教育プログラム しまね大交流会 等	高等教育機関	
③	企業を選択する	インターンシップ 企業ガイダンス 等	定住財団	

コンソーシアムの資金は、各機関との事前協議の結果、島根県・島根大学・島根県立大学・松江工業高等専門学校・地域の経済団体およびふるさと島根定住財団・賛助企業等が共同で応分の負担をすることになっている。なお、コンソーシアムの名称は「しまね産学官人材育成コンソーシアム」とし、図 2-3-2 に示す各組織間の関係を以って運営する予定である。

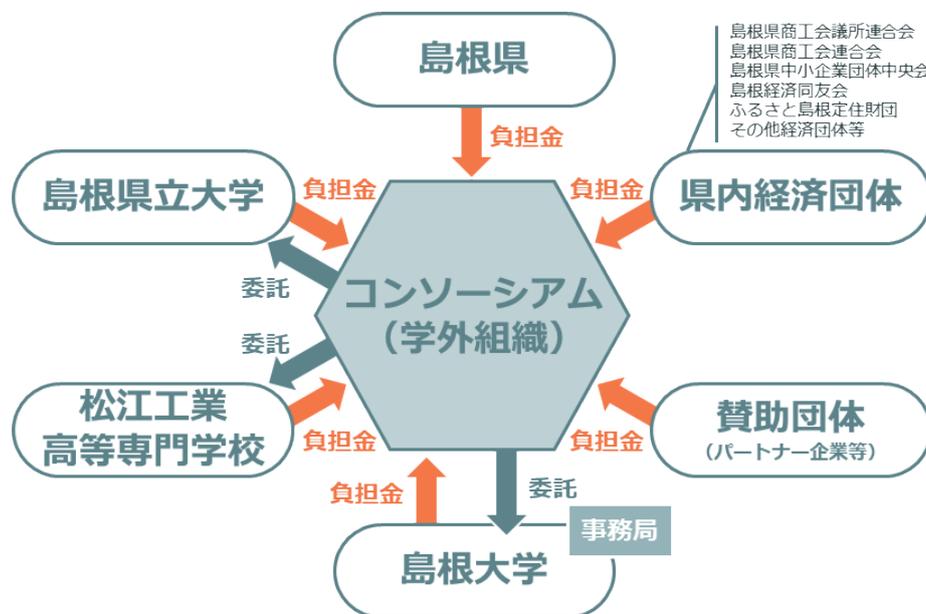


図 2-3-2：継続体コンソーシアムの機関関係図

3月26日には「しまね産学官人材育成コンソーシアム」協定締結式及び第1回運営協議会を表 2-3-2 の通り実施した。出席者については表 2-3-3 に記載した。

「しまね産学官人材育成コンソーシアム」協定締結式では、11団体の代表が署名を行い、協定が締結された。その後、第1回運営協議会を開催し、規約の承認、役員を選出、令和2年度事業計画書の承認を行った。役員選出の結果、コンソーシアムの共同代表として丸山島根県知事と服部島根大学長が就任した。また、副代表には島根県商工会議所連合会：田部会頭、島根県商工会連合会：石飛会長、島根県経営者協会：久保田会長、島根県立大学：清原理事長、監事には、島根県中小企業団体中央会：杉谷会長、松江工業高等専門学校：平山校長が就き、今後の運営を行っていくことになった。

本コンソーシアムの設立により、COC+事業で構築した産学官の連携体制はより強固なものとなり、高等教育機関、県、企業等が一体となって、学生が地元企業を知る機会から就職するまでの取組を充実し、今後5年間で若者の育成と県内定着を加速していく。

表 2-3-2：協定締結式・第1回運営協議会 次第

	実施日時	次第
「しまね産学官人材育成コンソーシアム」協定締結式	3月26日(木) 15:15~15:45	1. 開式 2. 出席者紹介 3. 挨拶 島根県 知事 丸山達也 国立大学法人島根大学 学長 服部泰直 島根県商工会議所連合会 会頭 田部長右衛門 4. 協定書署名 5. 記念撮影 6. 閉式
第1回運営協議会	3月26日(木) 16:00~17:00	1. 開会 2. 挨拶 3. 議事 (1) 「しまね産学官人材育成コンソーシアム」規約(案)について (2) 役員選出について (3) 令和2年度事業計画書(案)について 4. 閉会

表 2-3-3：協定締結式・第1回運営協議会 出席者名簿

団体名	役職	出席者
島根県	知事	丸山達也
国立大学法人島根大学	学長	服部泰直
公立大学法人島根県立大学	理事長	清原正義
独立行政法人国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校	校長	平山けい
島根県商工会議所連合会	会頭	田部長右衛門 * 運営協議会：松浦俊彦幹事長 代理出席
島根県商工会連合会	会長	石飛善和
島根県中小企業団体中央会	会長	杉谷雅祥
一般社団法人島根県経営者協会	会長	久保田一朗
島根経済同友会	代表幹事	川上裕治
島根県中小企業家同友会	代表理事	小田隆弘
公益財団法人ふるさと島根定住財団	理事長	原仁史



協定締結の記念撮影



第1回運営協議会

以上、本補助金事業の実施期間全体を通じた総括とする。

本事業の最終目標でもあった若者の地域への定着、すなわち地域の持続可能性の向上は、常に取り組み続けなければ成し得ない。その際には1つの機関・機能だけで実施するよりも、多機関・多機能で互いの長所を活用し合いながら全体最適化を図ることが、その実効性を最大化し、同時にそれらをマネジメントする仕組みが必要であることは、本事業が体現した通りである。この全体最適化と実効性の最大化を先導することが、本コンソーシアムの最も大きな役割と考えており、島根県および山陰地域の持続可能性を確保するとともに、日本の最大の社会問題である人口の都市圏一極集中の解消に資する取組を継続したい。

平成27年度採択 文部科学省  
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）

## 最終成果報告書

お問い合わせ先

国立大学法人島根大学  
企画部 地域連携・研究協力課  
地域連携推進グループ

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
TEL 0852-32-9757  
FAX 0852-32-9749  
E-mail prd-chiiki@office.shimane-u.ac.jp

【編集・発行】

島根大学 地域未来協創本部  
地域人材育成部門

令和2年3月発行

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
TEL 0852-32-9814  
FAX 0852-32-9816  
E-mail lscrc@riko.shimane-u.ac.jp



島根大学地域未来協創本部  
地域人材育成部門

Division of Regional Education  
Office for Regional Collaboration and Innovation, Shimane University